資料２－４

令和２年度第３回西条市総合教育会議

令和２年度実施

西条市の教育に関するアンケート調査
報告書（中学校教員向け調査）

令和３年２月

西条市経営戦略部政策企画課

目　次

１　本調査の概要 1
２　基本情報 2
（１）男女別 2
（２）年齢 2
（３）所属する中学校・地区別 3
３　学校教育について 4
（１）中学校がどのようなところであるべきか 4
（２）中学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度 7
（３）（２）で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策 11
（４）中学校での学習環境を考える上で重視すべきもの 14
（５）教育環境として望ましいと思う中学校の規模 18
４　図書館について 21
（１）中学校教員における図書館の利用状況 21
（２）中学校教員における図書館の利用環境に対する満足度 23
（３）中学校教員が主に利用している図書館 26
（４）中学校教員が図書館を利用した主な目的 28
５　公民館について 35
（１）中学校教員における公民館の利用状況 35
（２）中学校教員における公民館の利用環境に対する満足度 38
（３）中学校教員が公民館に期待する事業 40
６　地域文化・歴史文化について 46
（１）中学校教員における芸術文化に対する興味関心 46
（２）中学校教員における芸術文化に触れる機会の充実度 49
（３）中学校教員におけるふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度 54
（４）中学校教員におけるふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度 56
（５）中学校教員におけるふるさとの先人に対する知識 59
７　参考資料（アンケート用紙） 64

１　本調査の概要

（１）調査の目的

本調査は、令和 2 年度が本市の教育行政における根本的な方針となる「西条市教育大綱」を改訂する年度にあたるため、中学校教員の方々のご意見を将来の西条市の教育行政の方向性に反映させることを目的として実施しました。

（２）調査の方法と実施時期

この調査は、市内 10 の市立中学校に勤務されている教員を対象に実施しました。具体的には、令和 2 年 11 月 13 日に市役所から各中学校宛に調査票を発送し、教員 1 名につき 1 通の調査票を配布した上で、12 月 9 日までに各学校で集約して提出いただく方法を採用しました。

（３）調査票の回収状況

本調査はすべての対象者に調査票を配布する全数調査の方式を採用しています。

令和 2 年 4 月 1 日現在における市内 10 市立中学校の勤務されている教員（校長・教頭・主幹教諭・教諭・講師・非常勤講師・養護教諭・養護助教諭・栄養教諭・学校栄養職員）は 252 名であり、そのうち回収した調査票は 234 通、回収率は 92.9%となったことから、本調査の信頼度は極めて高いということが言えます。

（４）調査票の内容

送付した調査票は文末に掲載しています。

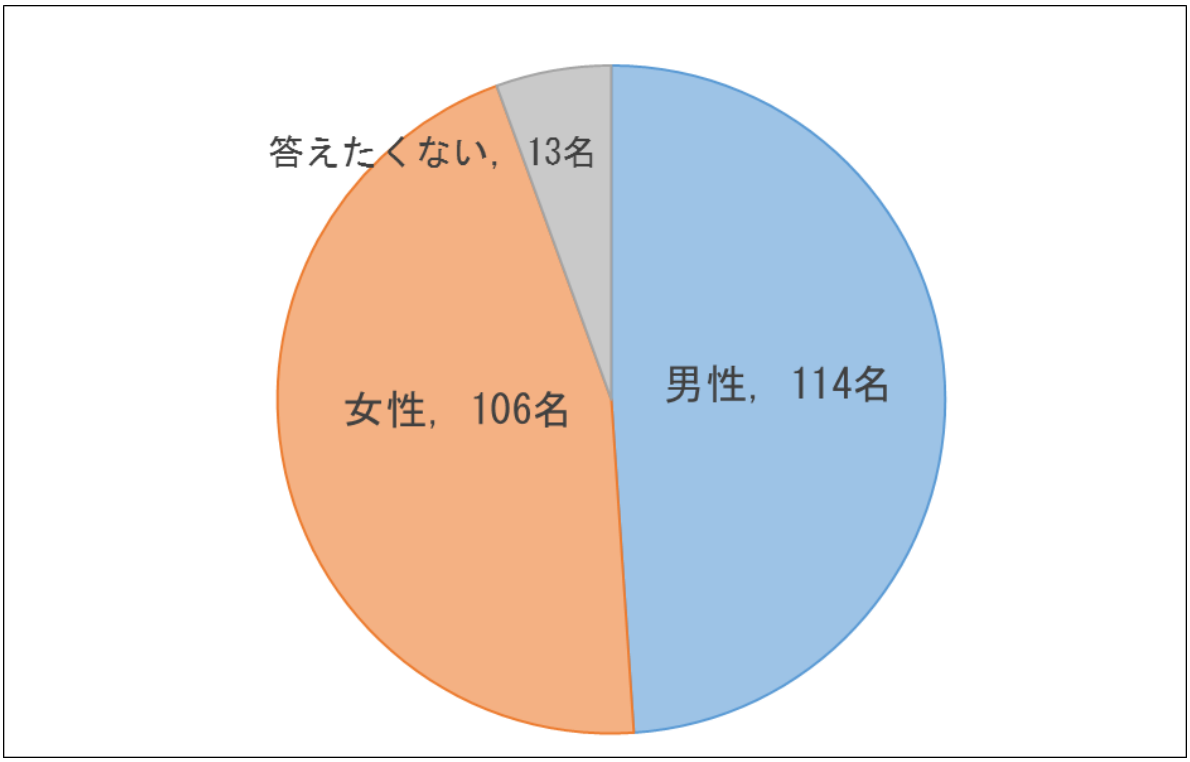
（５）その他

各図表のデータ処理にあたりましては、当該質問項目に対して無回答であった方を除いて処理を行っていますので、必ずしも合計値と回収した調査票数が一致するとは限りません。また、構成比率につきましても、それぞれの項目ごとの構成比を小数点以下第 2 位で四捨五入していますので、必ずしも構成比の合計値が 100%になるとは限りません。

２　基本情報

（１）男女別

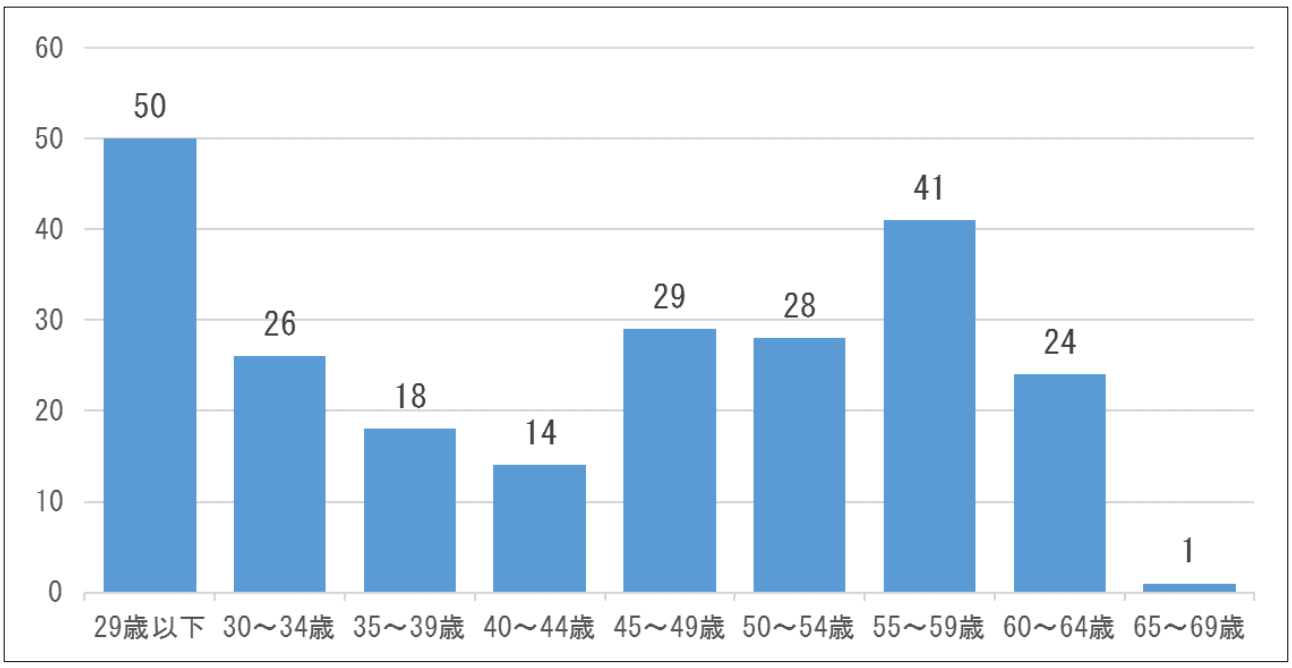
図表 2-1 によると、回答者のうち男性は 114 名、女性は 106 名、答えたくないが 13 名となりました。



図表２－１　回答者の男女別（Ｎ＝２３３）

（２）年齢

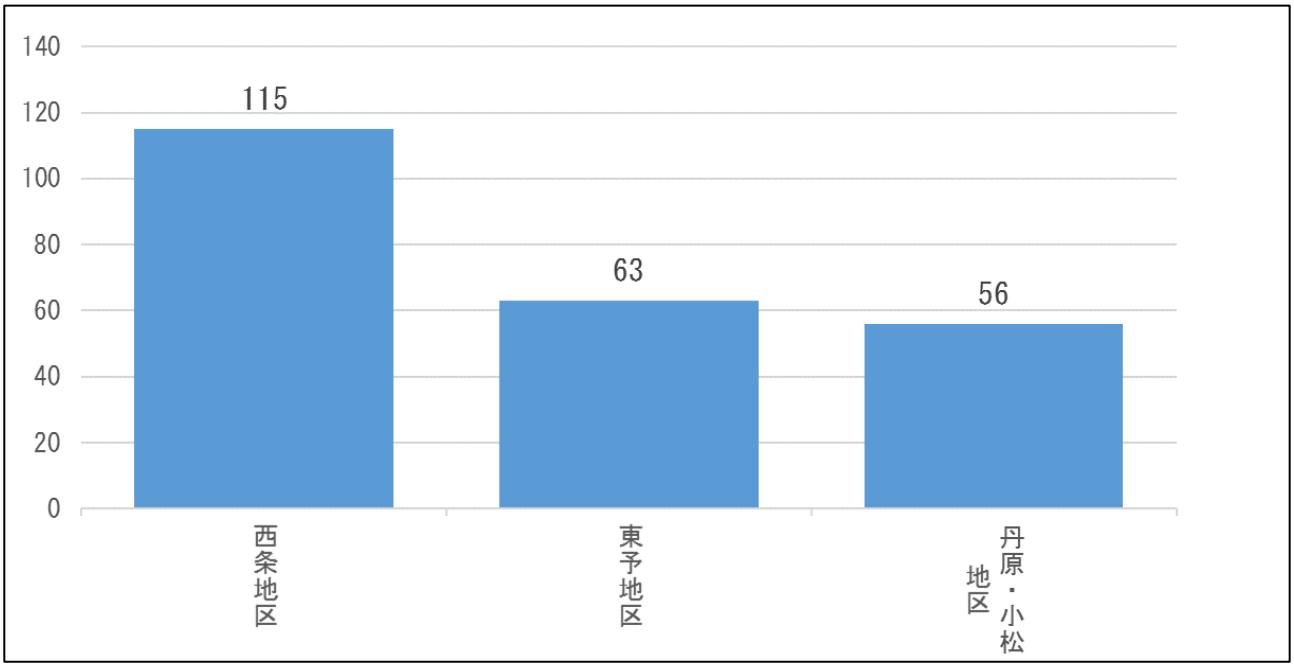
図表 2-2 によると、29 歳以下の教員からの回答が最も多くなりました。



図表２－２　回答者の年齢（Ｎ＝２３１）

（３）所属する中学校・地区別

図表 2-3 によると、回答者は西条地区の中学校に勤務する教員が最も多く、次いで東予地区、丹原・小松地区となりました。地区ごとに違いがありますが、本調査は概ね市内 10 の市立中学校に勤務されている教員の意見がバランスよく反映されています。



図表２－３　所属する中学校・地区別（Ｎ＝２３４）

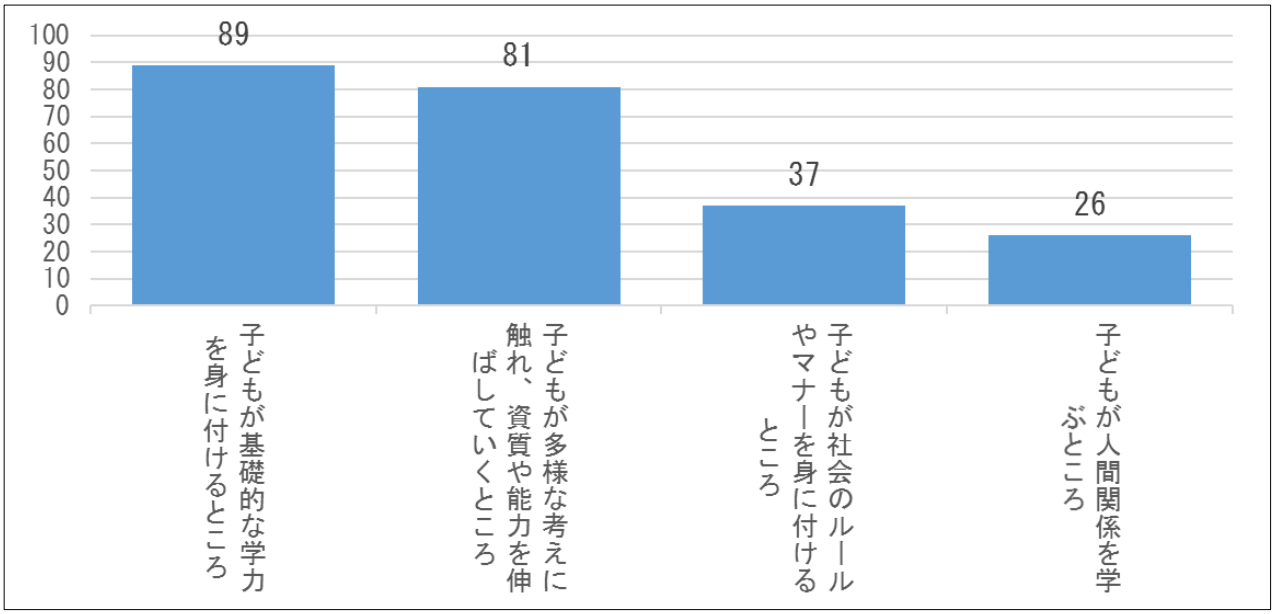
３　学校教育について

（１）中学校がどのようなところであるべきか

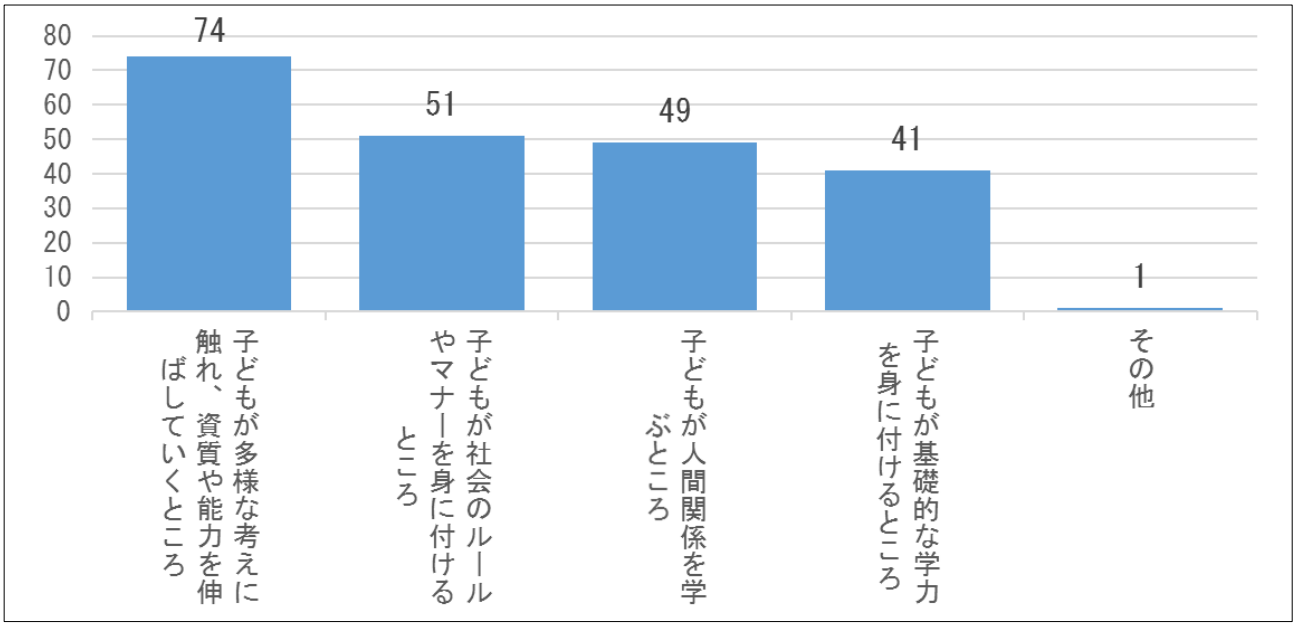
【結果概要】

- 中学校が子どもの基礎学力、資質や能力、社会ルールなどを身に付ける場としてあるべきと感じている方が多い一方で、地域コミュニティや避難所など、中学校としての副次的機能を期待する方が少ない傾向がみられました。（図表 3-1、3-2 参照）
- 年齢が高くなるにつれて子どもの基礎学力の向上を重視する傾向がみられましたが、逆に年齢が低くなるにつれて、子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくことに重点を置く傾向がみられました。（図表 3-4）
- 大規模な中学校で子どもの基礎学力の向上を重視する傾向がみられる一方で、小規模な中学校では、子どもの資質向上を重視する傾向がみられました。（図表 3-6 参照）

図表 3-1 によると、第 1 選択では「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-2 によると、第 2 選択では「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」が最も多くなり、次いで「子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ」「子どもが人間関係を学ぶところ」「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した方が多くなりました。なお、第 1 選択と第 2 選択の双方において、「地域コミュニティの核となるところ」「避難所や体育施設としての機能のあるところ」と回答した方はいませんでした。

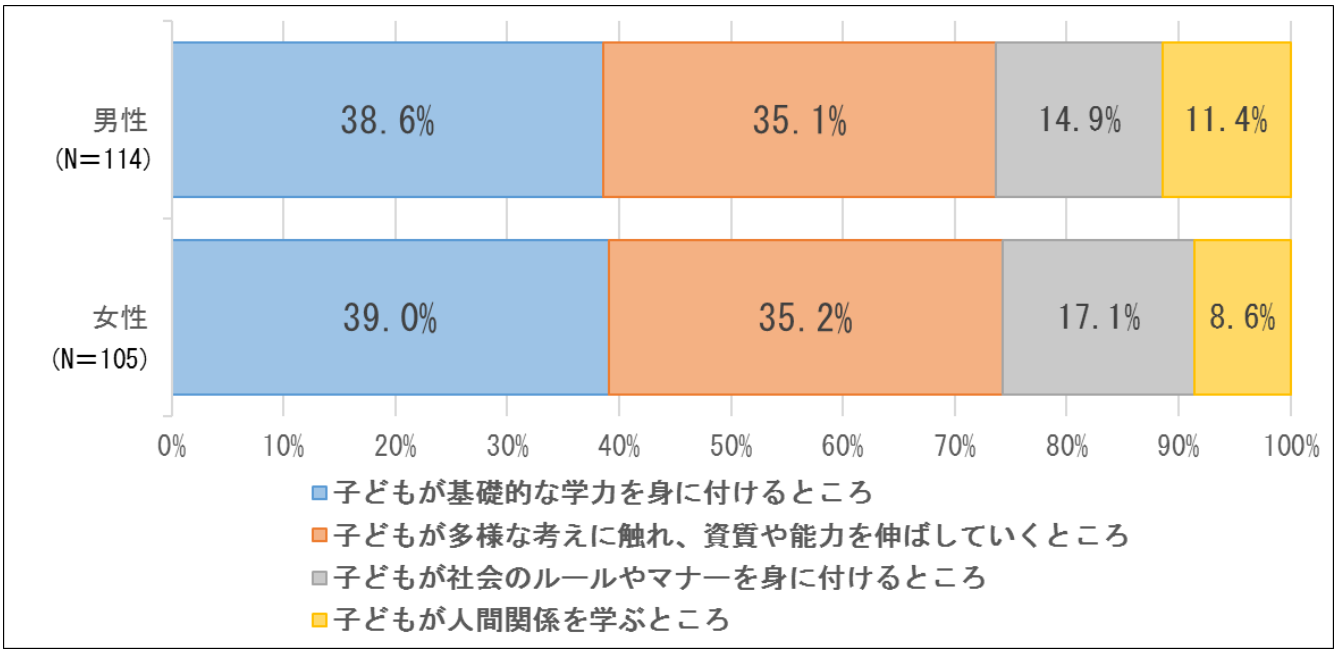


図表３－１　中学校がどのようなところであるべきか（第１選択・単純集計）（Ｎ＝２３３）



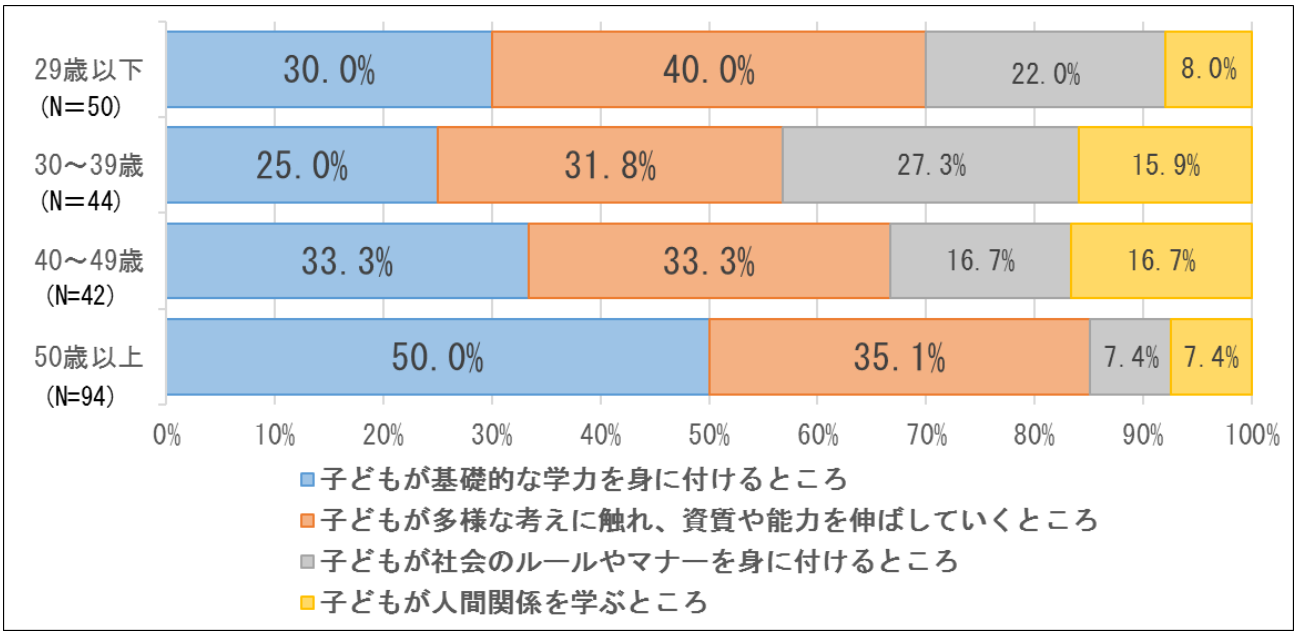
図表３－２　中学校がどのようなところであるべきか（第２選択・単純集計）（Ｎ＝２１６）

図表 3-3 によると、男女ともに「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子どもが多様な考え方に触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が高くなりました。また、男性は女性と比較して「子どもが人間関係を学ぶところ」と回答した比率が高くなり、女性は男性と比較して「子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ」と回答した比率が高くなりました。



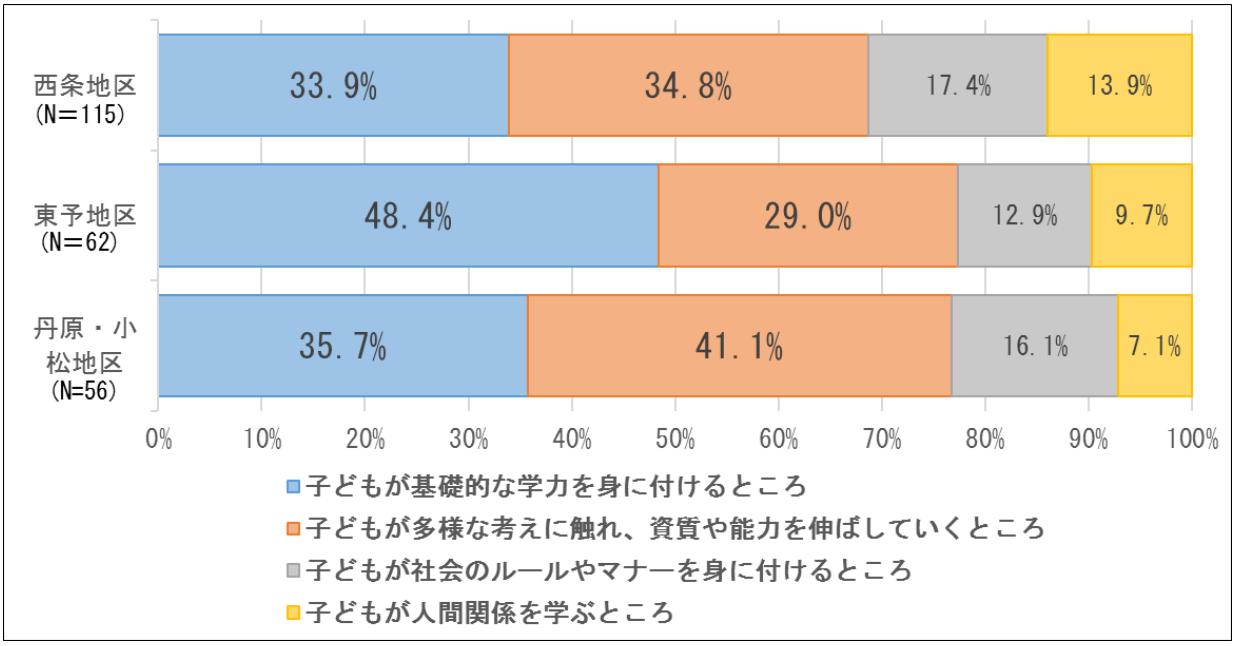
図表３－３　中学校がどのようなところであるべきか（男女別）

図表 3-4 によると、年齢が低くなるにつれて「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が高くなる一方で、年齢が高くなるにつれて「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が高くなりました。



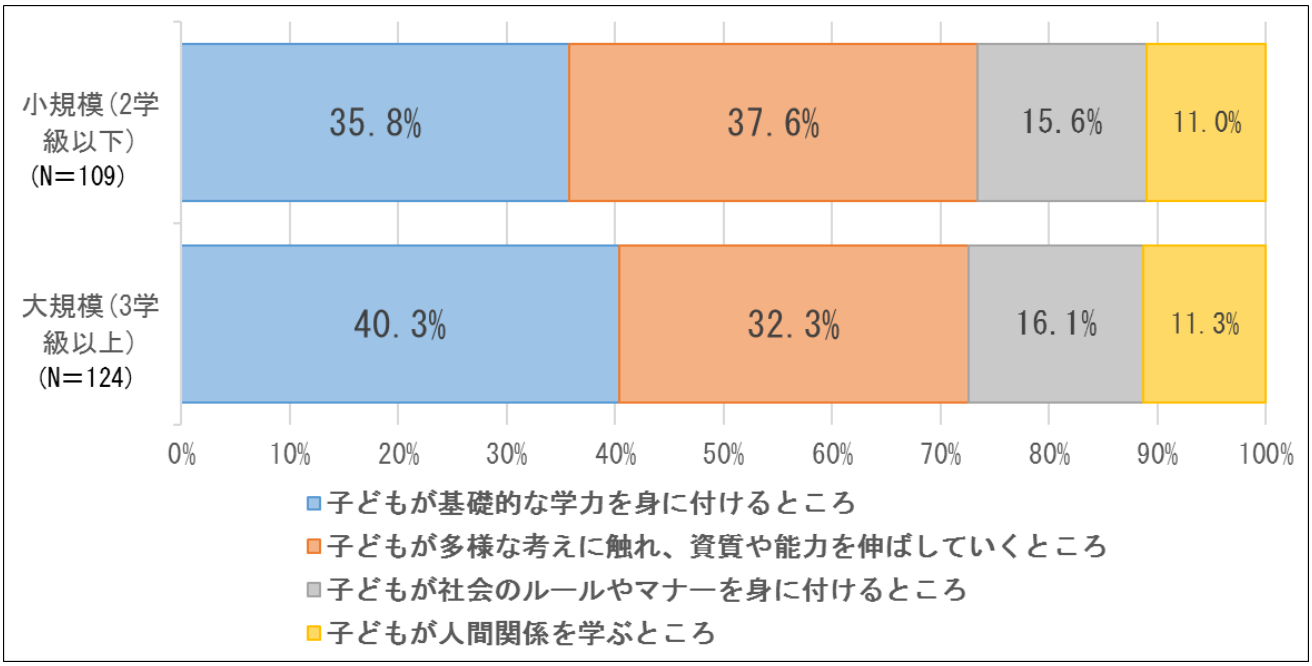
図表３－４　中学校がどのようなところであるべきか（年齢別）

図表 3-5 によると、東予地区で「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高くなる一方で、西条地区と丹原・小松地区では「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答した比率が最も高くなりました。



図表３－５　中学校がどのようなところであるべきか（所属する中学校の地区別）

図表 3-6 によると、大規模（3 年生が 3 学級以上）で「子どもが基礎的な学力を身に付けるところ」と回答した比率が最も高くなる一方で、小規模（3 年生が 2 学級以下）では「子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ」と回答する比率が最も高くなりました。



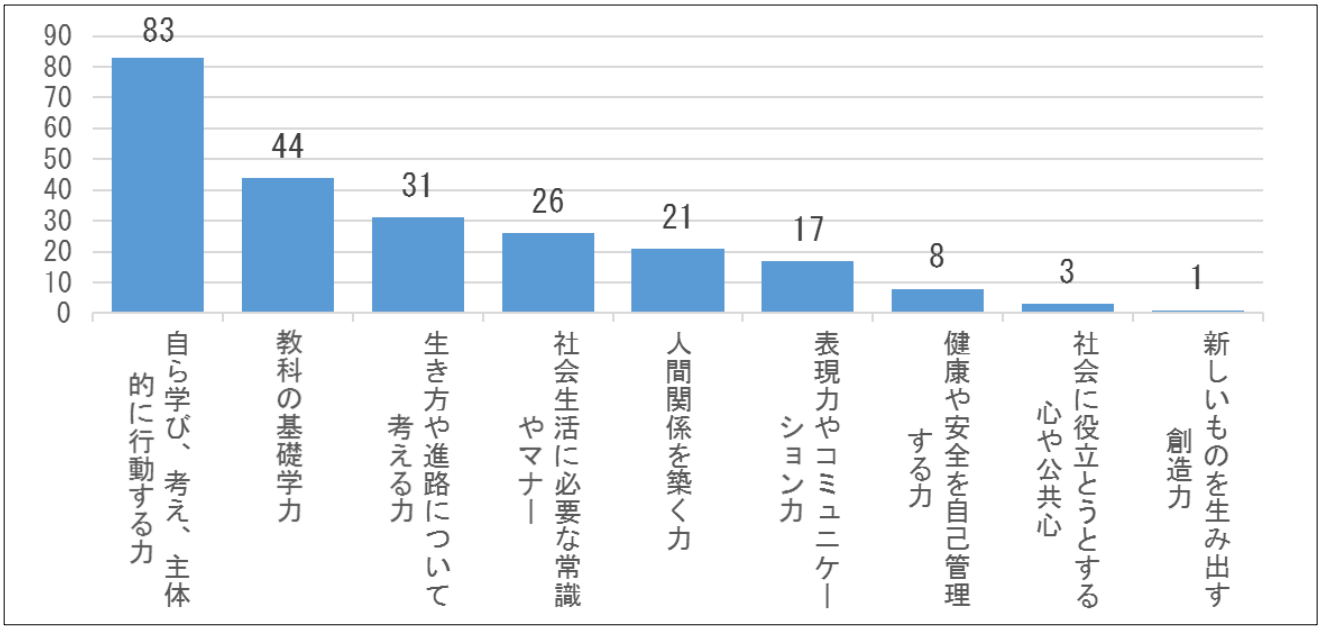
図表３－６　中学校がどのようなところであるべきか（所属する中学校の 3 年生規模別）

（２）中学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度

【結果概要】

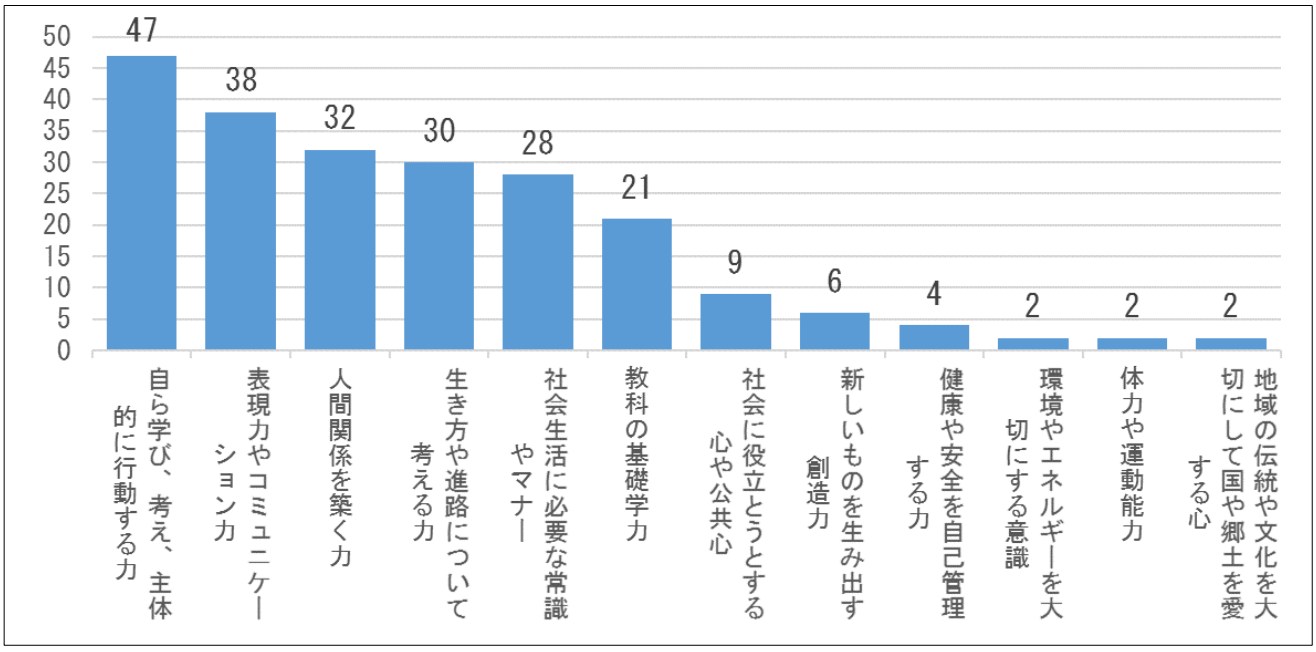
- 子どもが自ら考え、主体的に行動する力を身に付けることを最も大切にしつつ、子どもの基礎学力を身に付けることも大切だとする傾向がみられました。また、人間関係を築く力や生き方や進路について考える力を大切にする傾向もみられました（図表 3-7、3-8 参照）
- 年齢や所属する中学校の規模では大きな違いはみられませんでしたが、所属する中学校の地区別にみると、大切だと思う能力や態度に違いがみられました。（図表 3-10、3-11、3-12 参照）

図表 3-7 によると、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した方が最も多くなり、次いで「教科の基礎学力」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-8 によると、第 2 選択では「自ら学び、考え、主体的に行動する力」「表現力やコミュニケーション力」と回答した方が多くなりました。



図表３－７　中学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第１選択・単純集計）

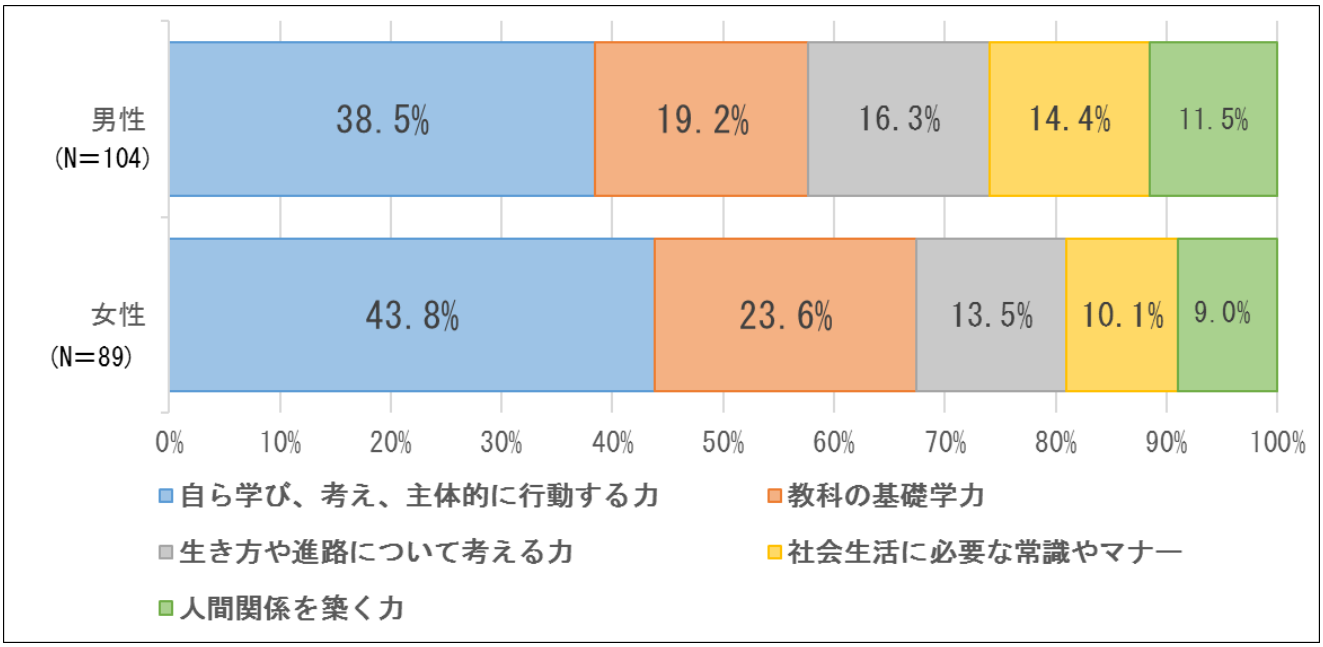
（Ｎ＝２３４）



図表３－８　中学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第２選択・単純集計）

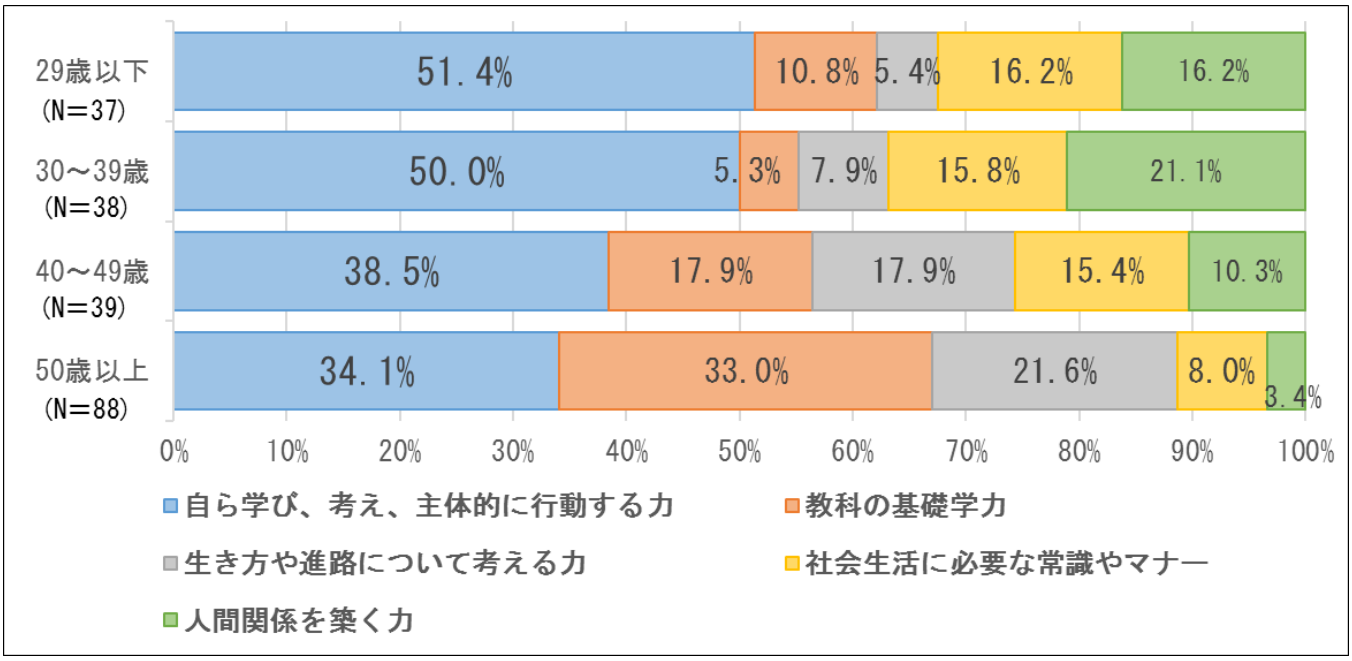
（Ｎ＝２２１）

図表 3-9 によると、男女ともに「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した方が最も多くなり、次いで「教科の基礎学力」と回答した比率が高くなりました。また、女性と比較して男性で「生き方や進路について考える力」「社会生活に必要な常識やマナー」と回答した比率がやや高くなる傾向がみられました。



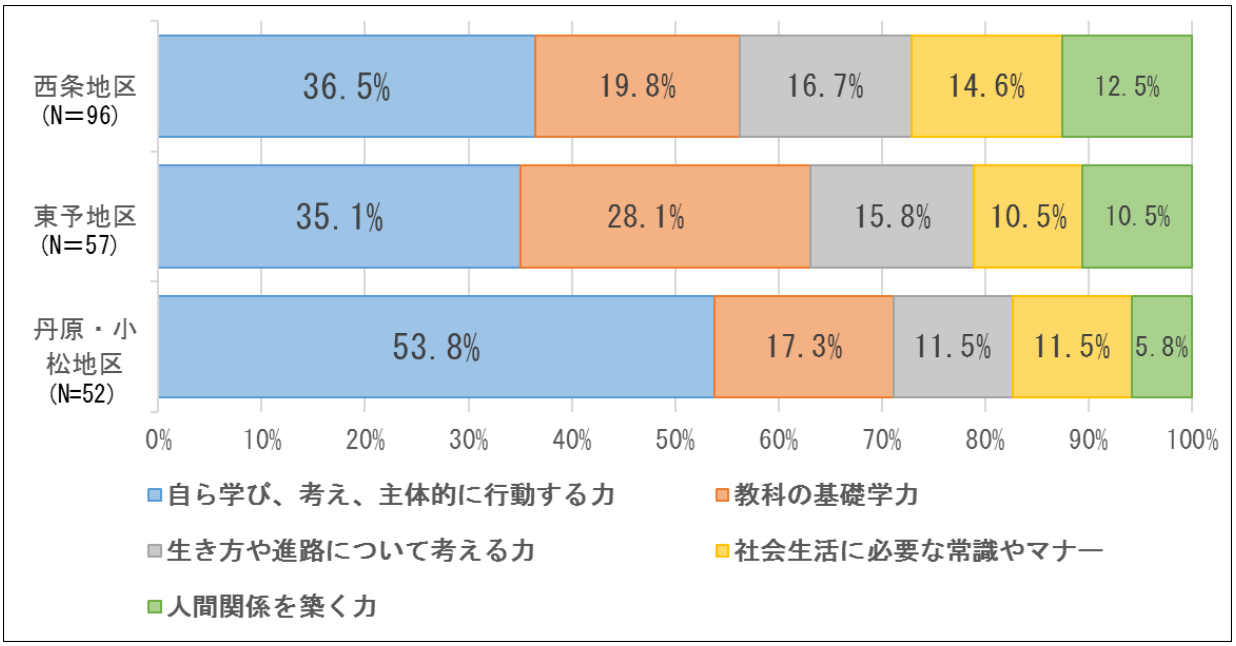
図表３－９　中学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度（第１選択上位５項目・男女別）

図表 3-10 によると、年齢が低くなるにつれて「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が高くなる傾向がみられる一方で、年齢が高くなるにつれて「教科の基礎学力」「生き方や進路について考える力」と回答した比率が高くなる傾向が見られました。



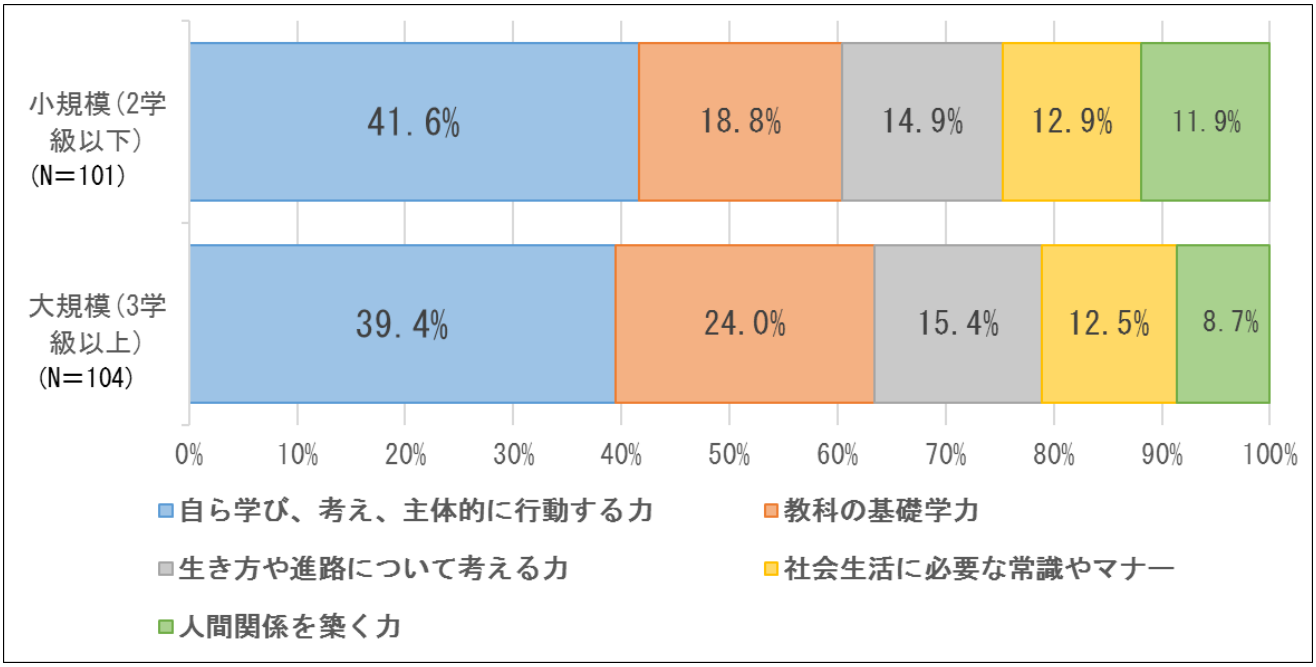
図表３－１０　中学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度
（第１選択上位５項目・年齢別）

図表 3-11 によると、すべての地区で「自ら学び、考え、主体的に行動する力」と回答した比率が最も高くなる一方で、地区によって回答の傾向が異なる傾向がみられました。



図表３－１１　中学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度
（第１選択上位５項目・所属する中学校の地区別）

図表 3-12 によると、中学校の規模にかかわらず、「自ら学び、考え、主体的に行動する力」「教科の基礎学力」と回答した比率が高くなりました。どちらかといえば、大規模（3 学級以上）と比較して小規模（2 学級以下）で「自ら学び、考え、主体的に行動する力」、逆に小規模（2 学級以下）と比較して大規模（3 学級以上）で「教科の基礎学力」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



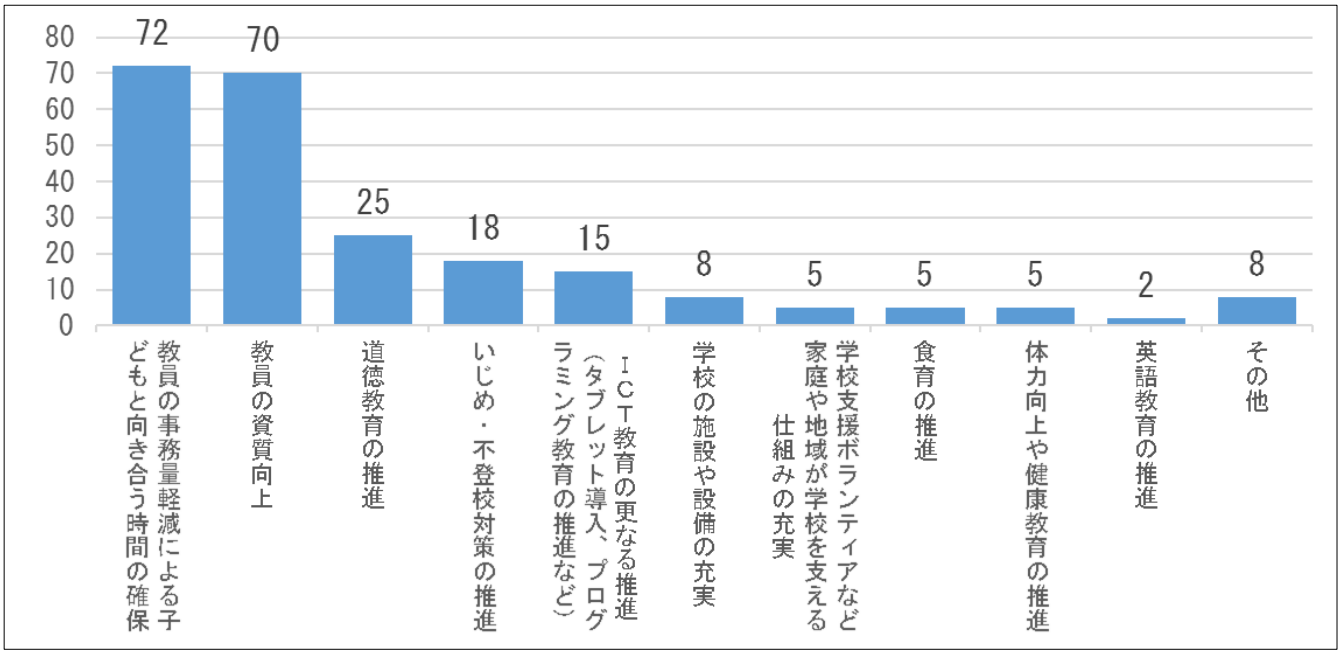
図表３－１２　中学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度
（第１選択上位５項目・所属する中学校の 3 年生規模別）

（３）（２）で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策

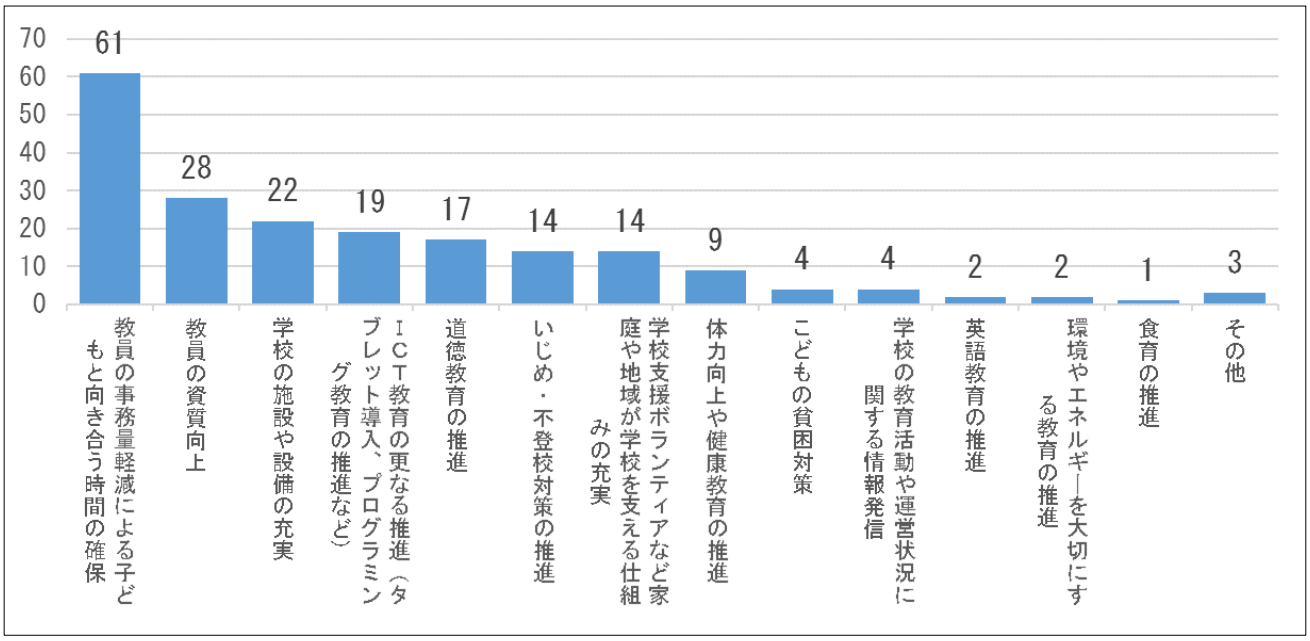
【結果概要】

- 全体を通じて教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保を求める声が強くみられました。（図表 3-13、3-14 参照）
- 所属する中学校の地区別や中学校の規模別に、今後力を入れるべき施策に対する傾向の違いがみられました。特に、一部でいじめや不登校に対する施策に力をいれるべきという回答する比率が高い傾向がみられるため、今後より詳細な分析と施策の検討を行う必要があると推察します（図表 3-16、3-17、3-18 参照）

図表 3-13 によると、「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」「教員の資質向上」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-14 によると、第 2 選択においても「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した方が最も多くなり、次いで「教員の資質向上」と回答した方が多くなりました。

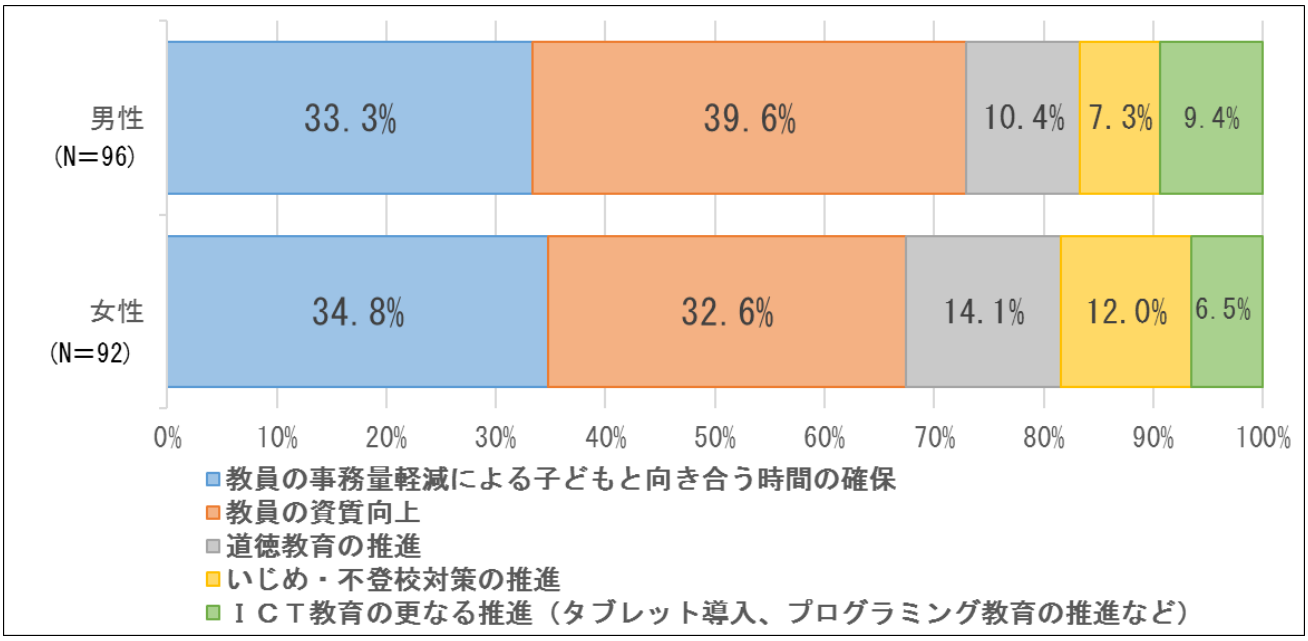


図表３－１３　（２）で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
（第１選択・単純集計）（Ｎ＝２３３）



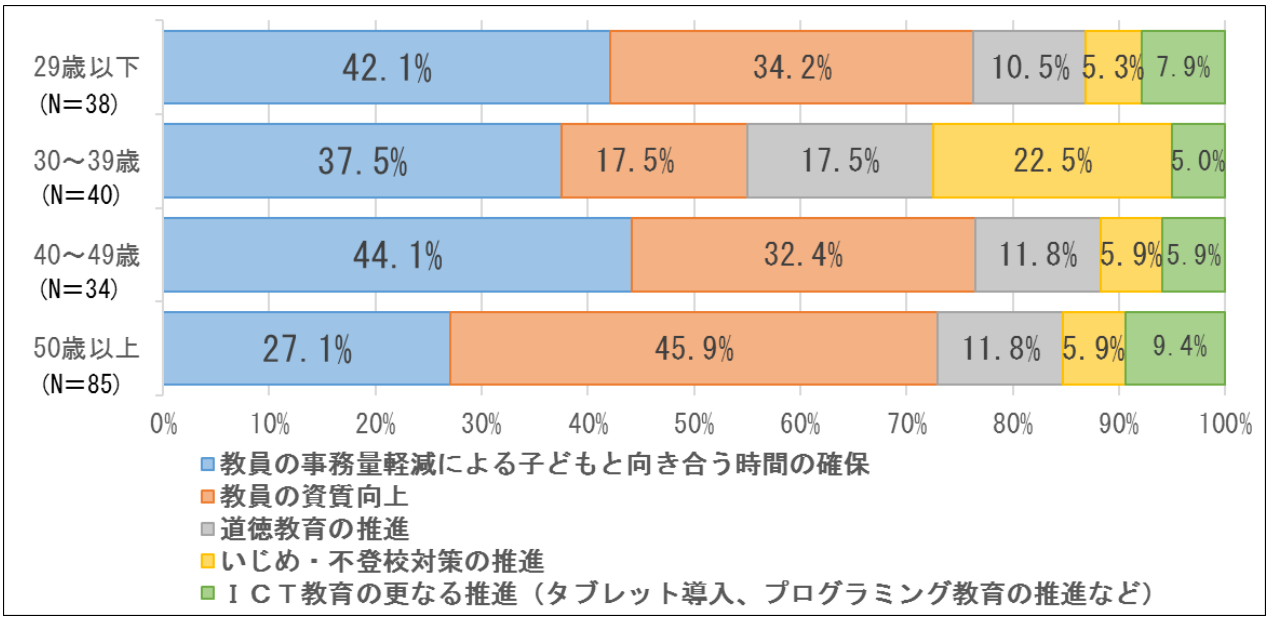
図表３－１４　（２）で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
（第２選択・単純集計）（Ｎ＝２００）

図表 3-15 によると、男性では「教員の資質向上」と回答した比率が最も高くなる一方で、女性では「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した比率が最も高くなりました。また、男性と比較して女性において「道徳教育の推進」「いじめ・不登校対策の推進」と回答した比率が高くなりました。



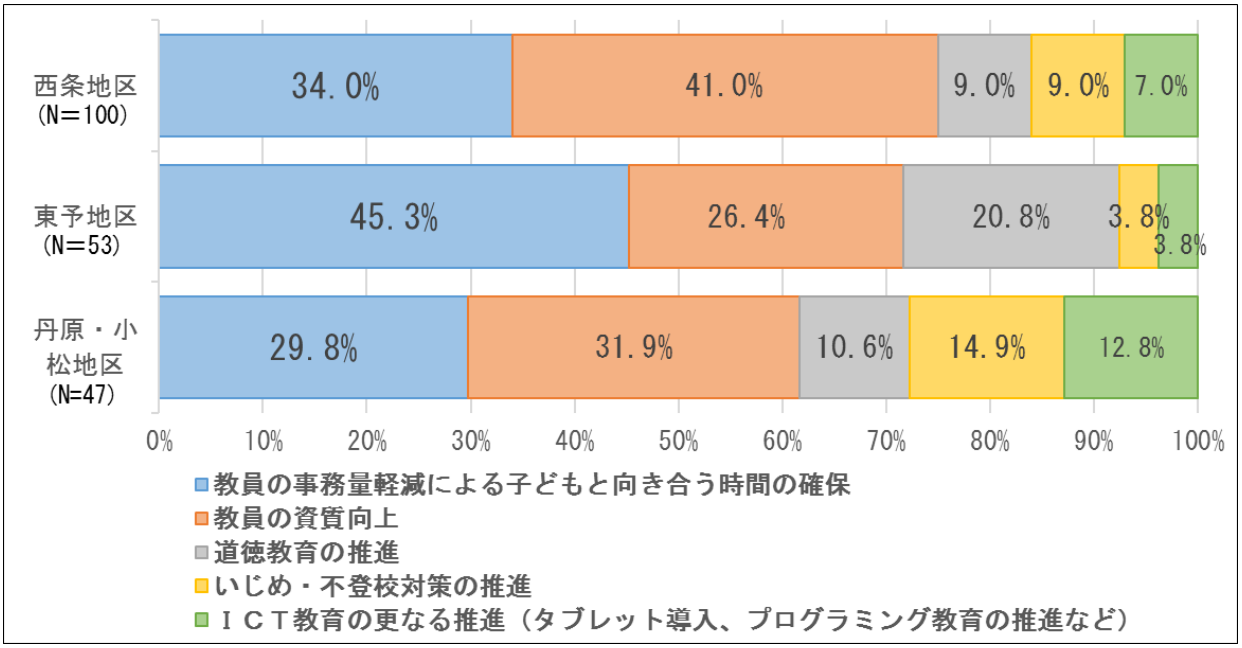
図表３－１５　（２）で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
（第１選択上位５項目・男女別）

図表 3-16 によると、50 歳以上で「教員の資質向上」と回答した比率が最も高くなり、その他の年齢では「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した比率が最も高くなりました。また、そのほかの年齢と比較し、30～39 歳で「いじめ・不登校対策の推進」が高くなる傾向がみられました。



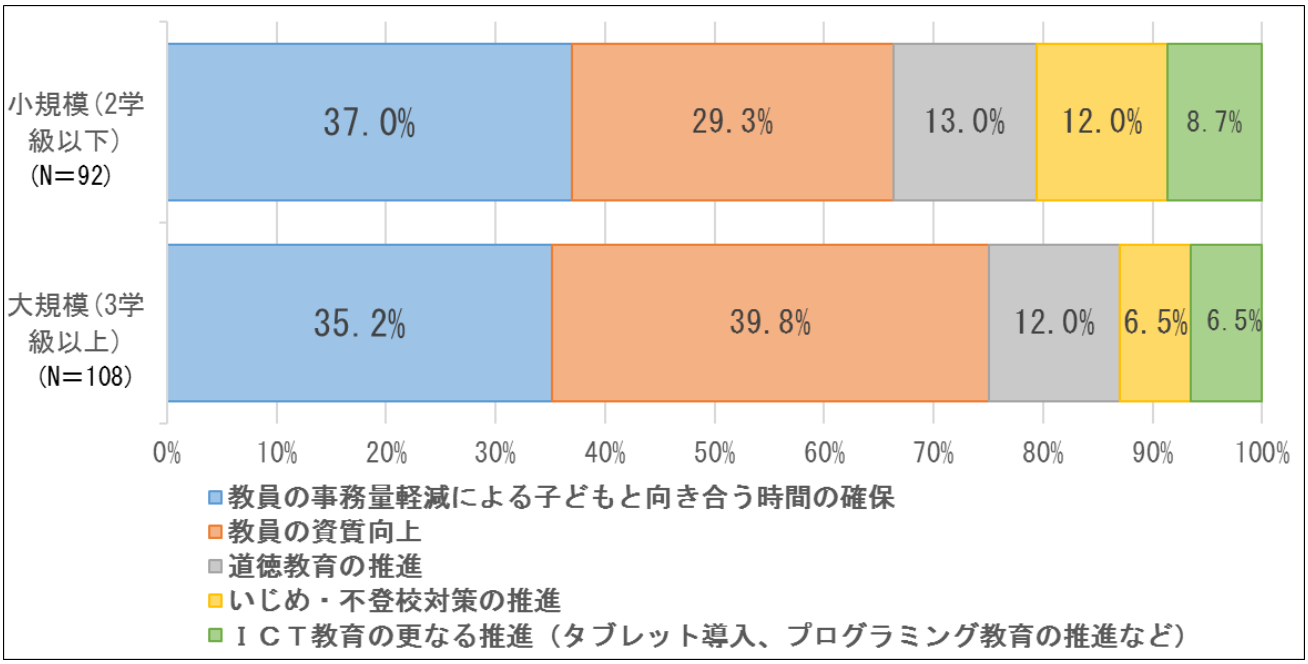
図表３－１６　（２）で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
（第１選択上位５項目・年齢別）

図表 3-17 によると、東予地区で「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した比率が最も高くなり、西条地区と丹原・小松地区で「教員の資質向上」と回答した比率が最も高くなりました。また、東予地区で「道徳教育の推進」、丹原・小松地区で「いじめ・不登校対策の推進」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表３－１７　（２）で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
（第１選択上位５項目・所属する中学校の地区別）

図表 3-18 によると、小規模（3 年生が 2 学級以下）で「教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保」と回答した比率が最も高くなる一方で、大規模（3 年生が 3 学級以上）で「教員の資質向上」と回答した比率が最も高くなりました。その他、小規模（3 年生が 2 学級以下）で「いじめ・不登校対策の推進」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



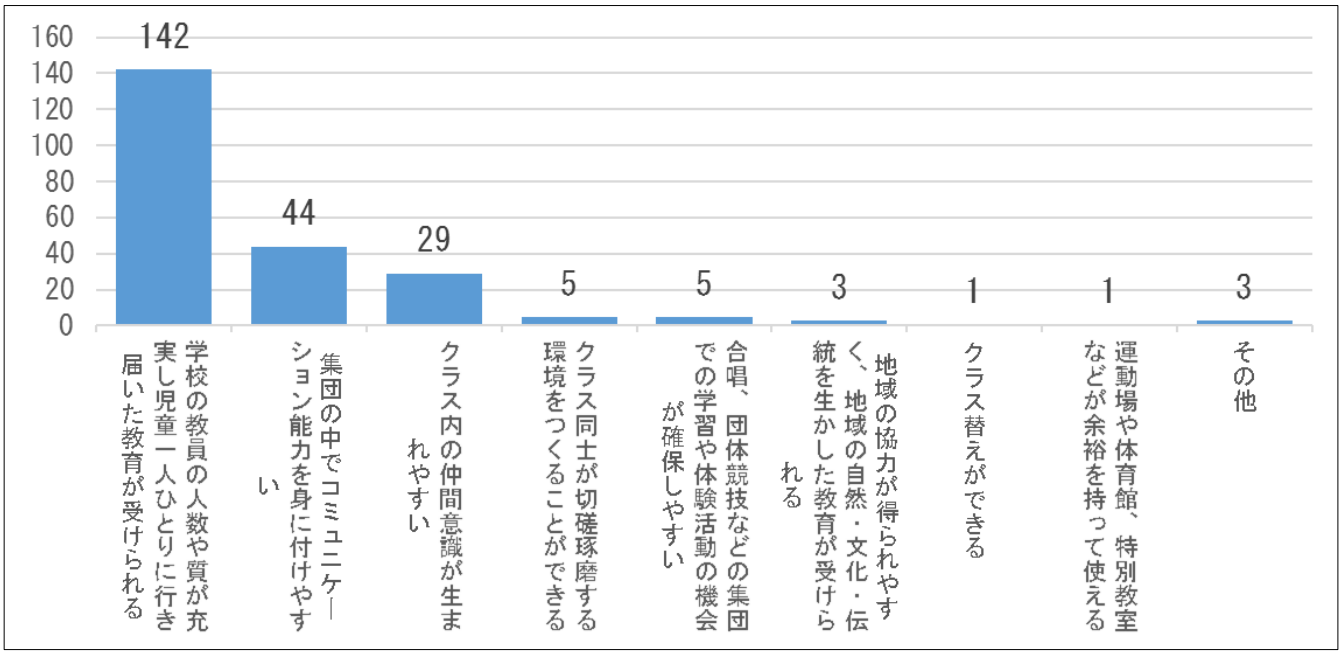
図表３－１８　（２）で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策
（第１選択上位５項目・所属する小学地区模別）

（４）中学校での学習環境を考える上で重視すべきもの

【結果概要】

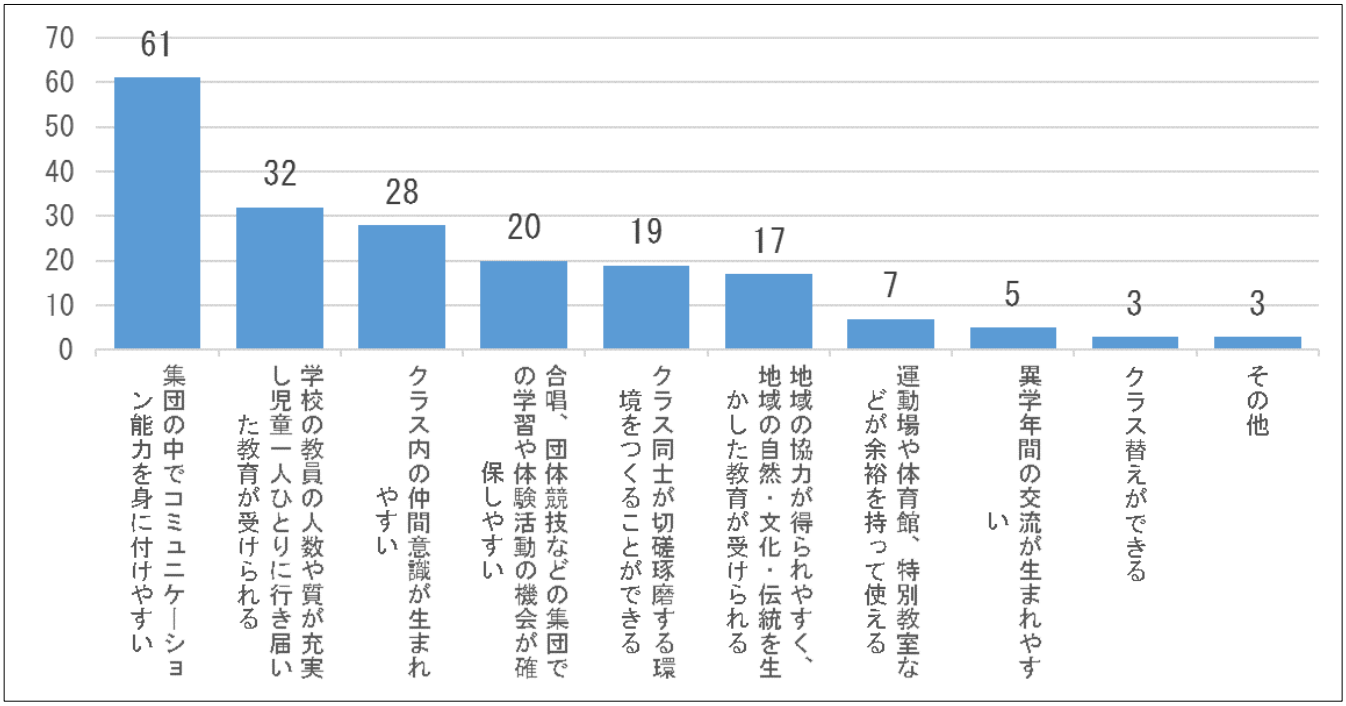
- 教員の人数や質が充実することに伴う児童・生徒一人ひとりに行き届いた教育が受けられる環境を望む声が最も多くなる一方で、集団の中でのコミュニケーション能力を身に付ける環境やクラス内の仲間意識が生まれやすい環境など、集団の中で学び合うことの重要性を意識した回答も多くなりました。（図表 3-19、3-20 参照）
- 男女別、所属する中学校の地区別、所属する中学校の規模別に大きな差異はみられませんが、特に年齢によって学習環境を考える上で重視すべき点に関する考え方の違いがみられました。（図表 3-21、3-22、3-23、3-24 参照）

図表 3-19 によると、「学校の教員の人数や質が充実し児童・生徒一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した方が最も多くなり、次いで「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した方が多くなりました。また、図表 3-20 によると、第 2 選択では「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「学校の教員の人数や質が充実し児童・生徒一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」「クラス内の仲間意識が生まれやすい」と回答した方が多くなりました。



図表３－１９　中学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第１選択・単純集計）

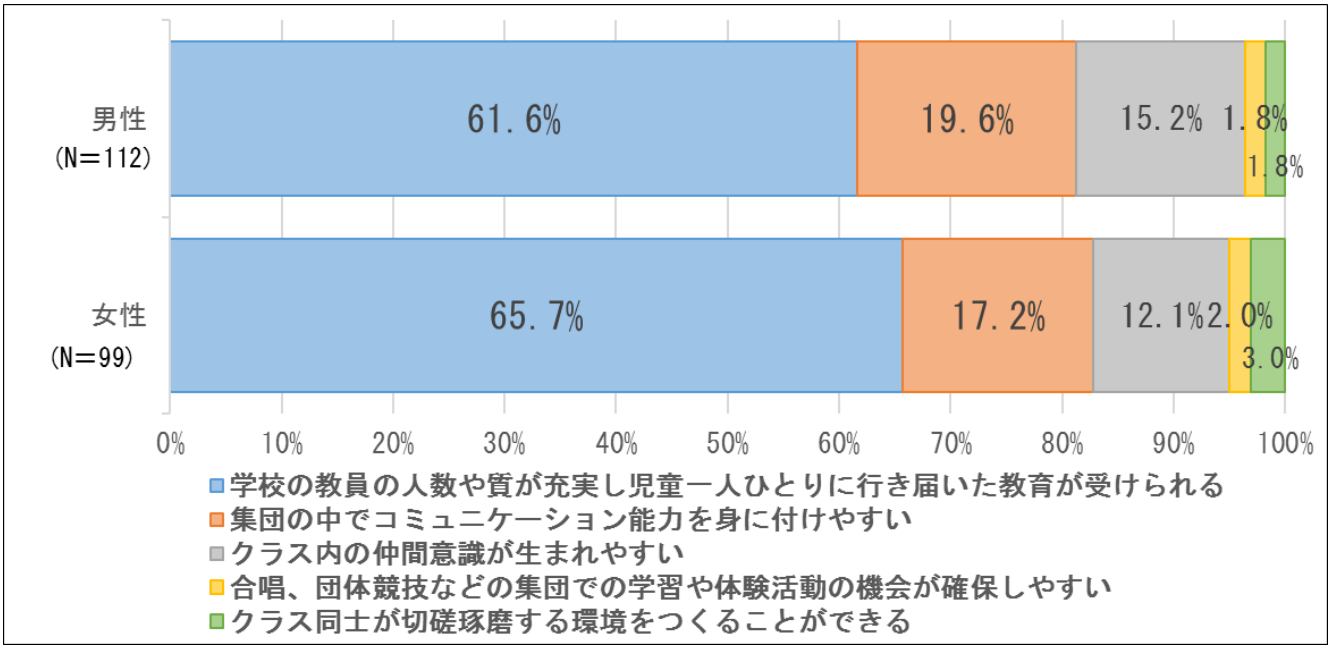
（Ｎ＝２３３）



図表３－２０　中学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第２選択・単純集計）

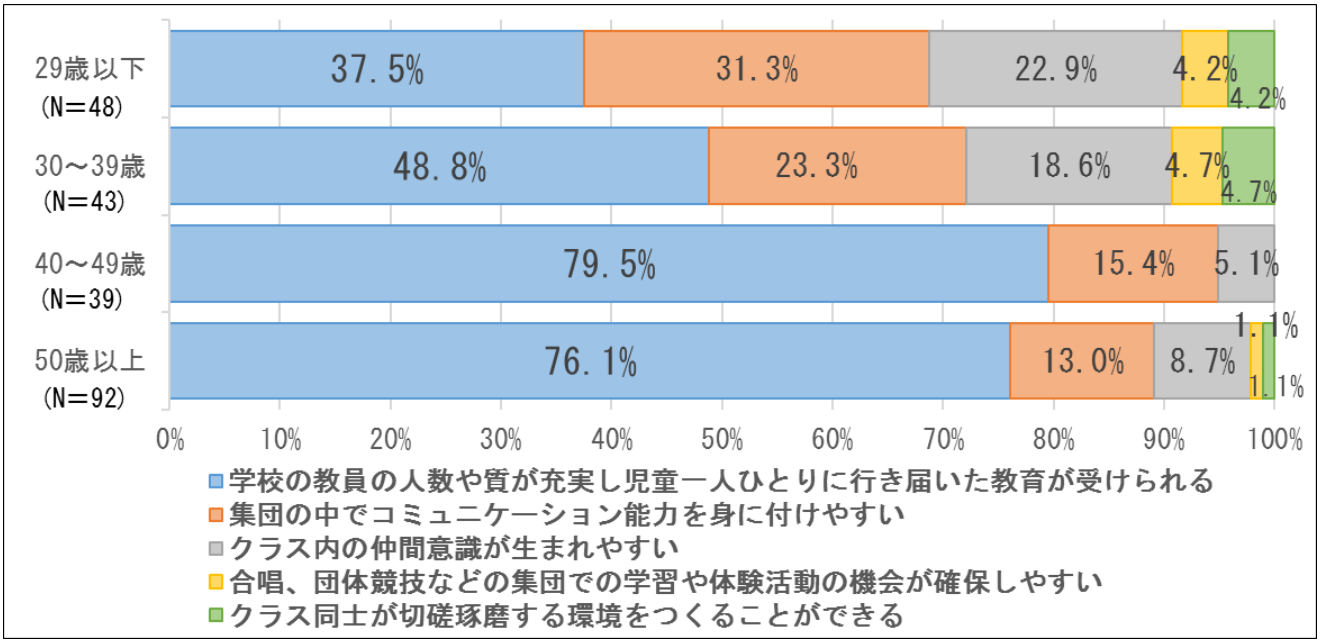
（Ｎ＝１９５）

図表 3-21 によると、男女ともに「学校の教員の人数や質が充実し児童・生徒一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなり、次いで「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した比率が高くなりました。



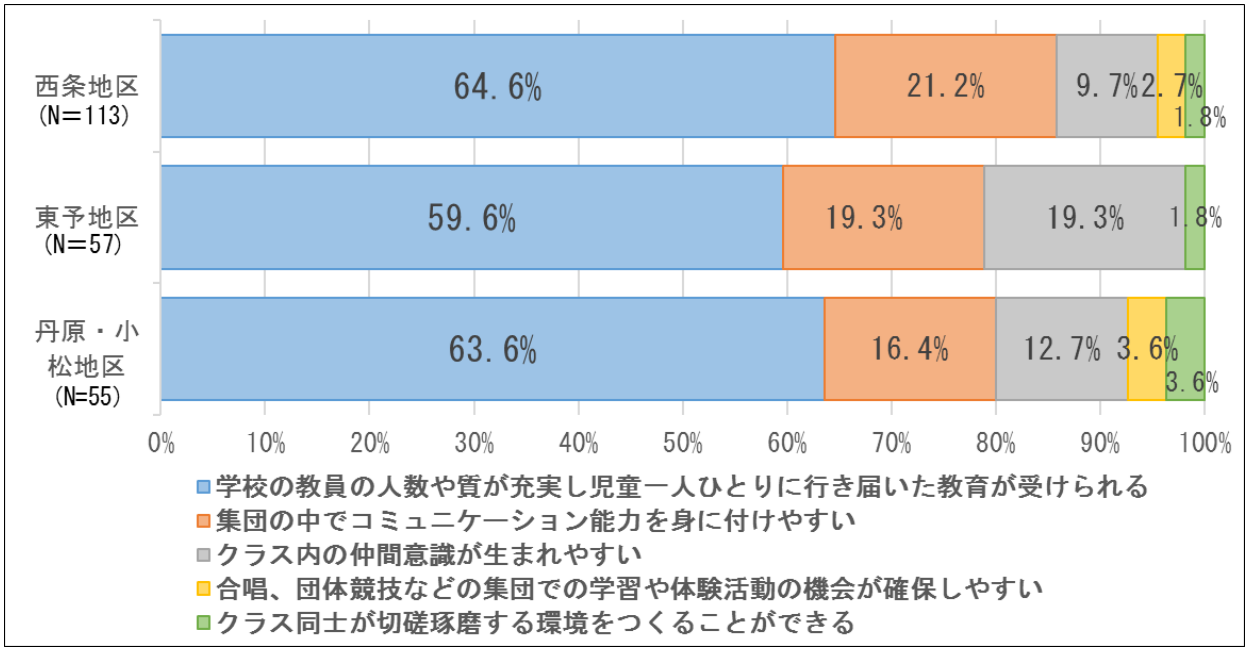
図表３－２１　中学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第１選択上位５項目・男女別）

図表 3-22 によると、すべての年齢で「学校の教員の人数や質が充実し児童・生徒一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなり、年齢が高くなるにつれて回答した比率が高くなる傾向がみられました。一方で、年齢が低くなるにつれて「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」「クラス内の仲間意識が生まれやすい」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表３－２２　中学校での学習環境を考える上で重視すべきもの（第１選択上位５項目・年齢別）

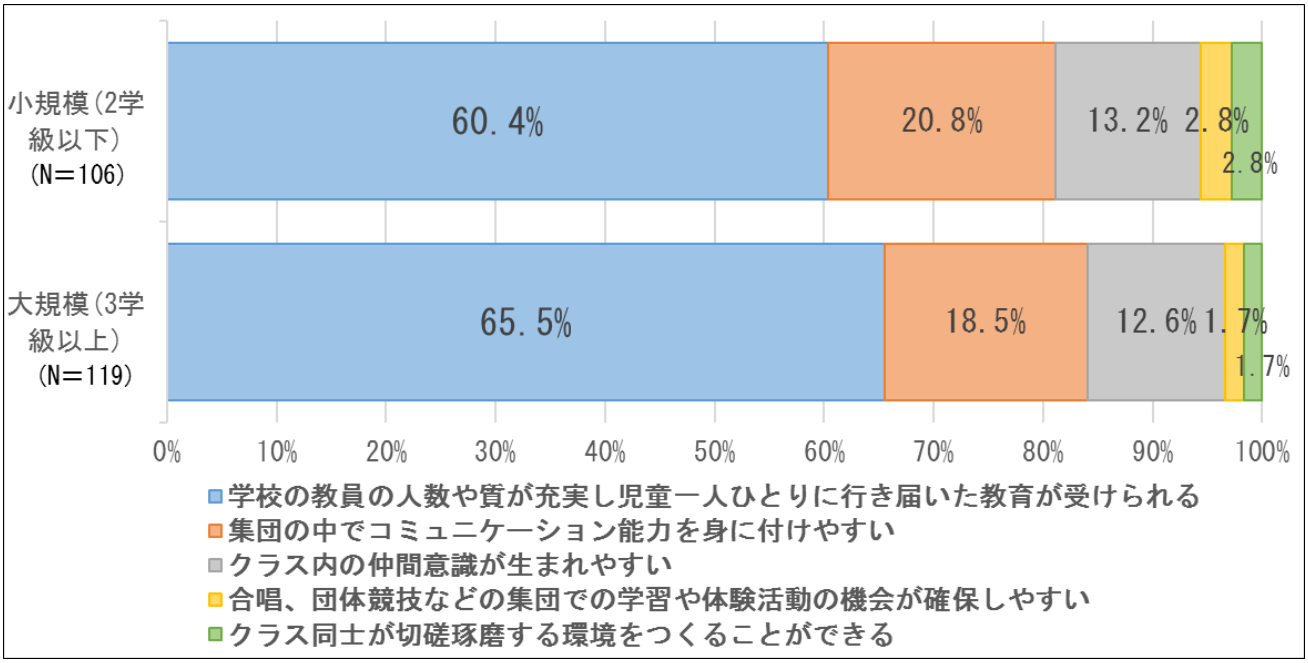
図表 3-23 によると、すべての地区で「学校の教員の人数や質が充実し児童・生徒一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなりました。次いで、すべての地区で「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」が多くなりましたが、東予地区では「クラス内の仲間意識が生まれやすい」と回答した比率が同率となりました。



図表３－２３　中学校での学習環境を考える上で重視すべきもの

（第１選択上位５項目・所属する中学校の地区別）

図表 3-24 によると、すべての中学校規模で「学校の教員の人数や質が充実し児童・生徒一人ひとりに行き届いた教育が受けられる」と回答した比率が最も高くなり、次いで「集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい」と回答した比率が高くなりました。



図表３－２４　中学校での学習環境を考える上で重視すべきもの

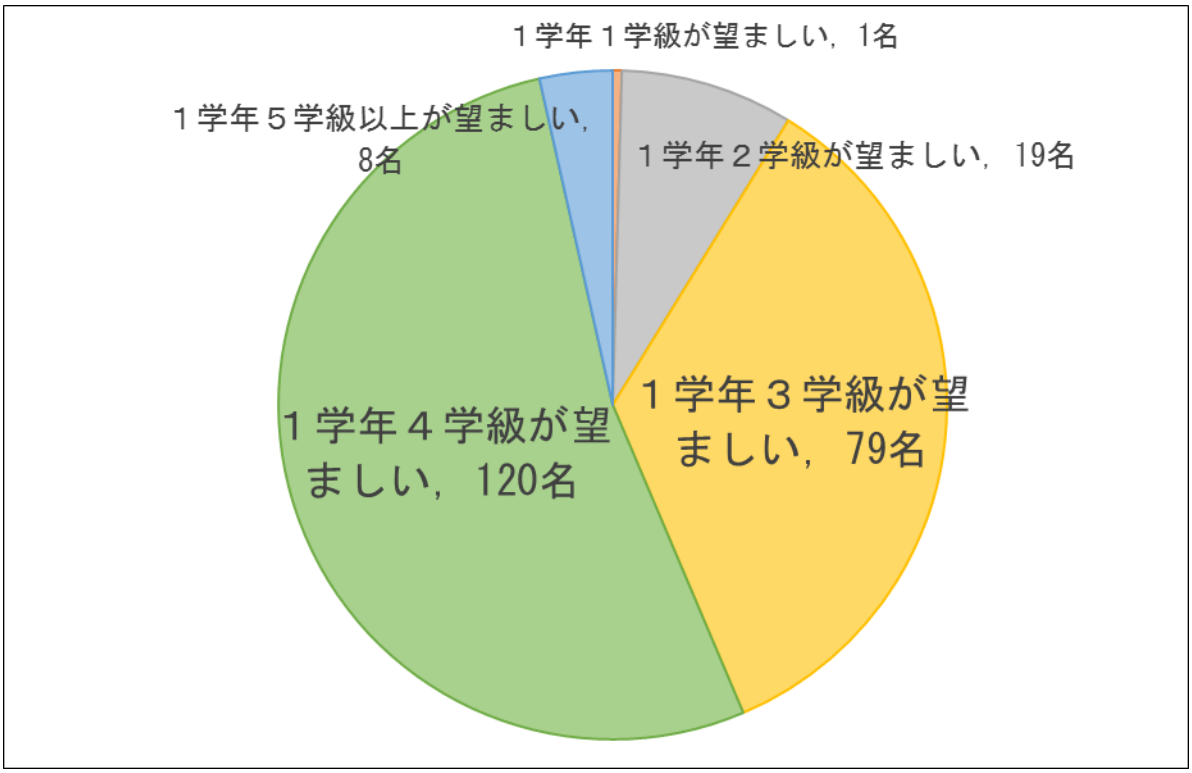
（第１選択上位５項目・所属する中学校の３年生規模別）

（５）教育環境として望ましいと思う中学校の規模

【結果概要】

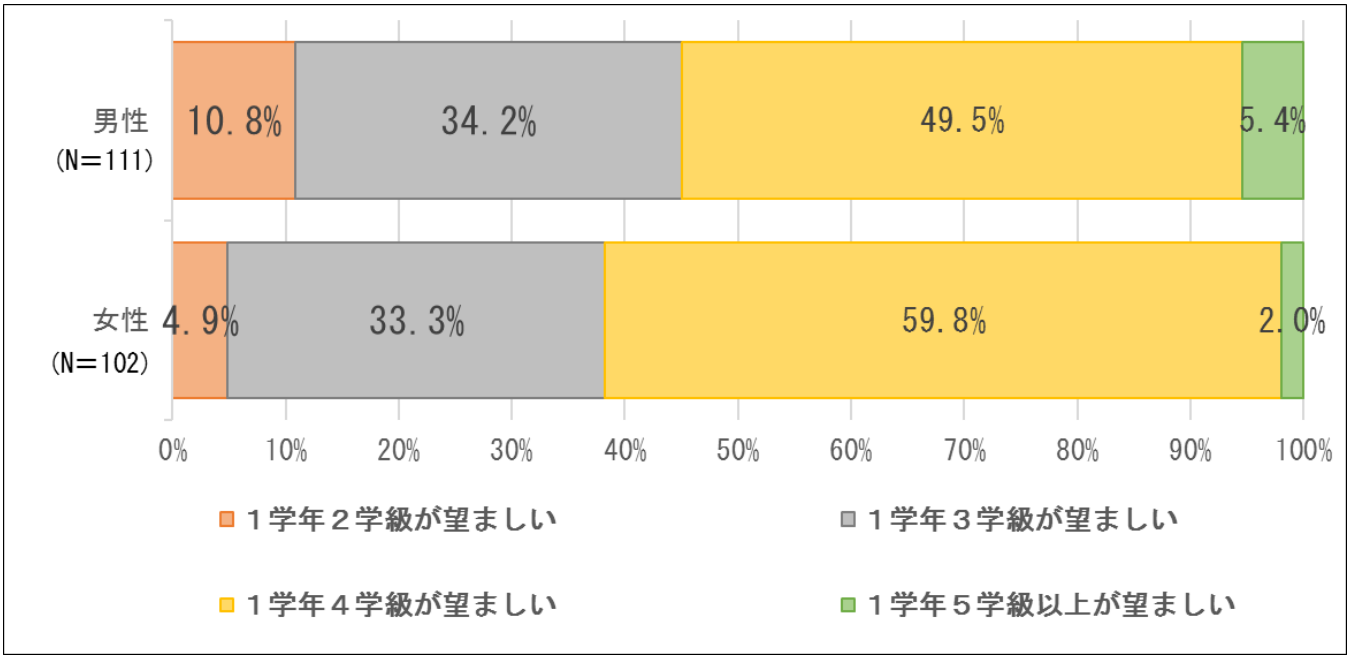
- 「1 学年 3 学級が望ましい」「1 学年 4 学級が望ましい」と回答した方が全体の 8 割を占めており、市立中学校に勤務される教員の考え方が概ね 3 学級から 4 学級で一致する結果となりました。（図表 3-25 参照）
- 小規模な中学校に所属されている教員においても、「1 学年 3 学級が望ましい」「1 学年 4 学級が望ましい」と回答した比率が 8 割を占めており、すでに生徒数の減少から理想とする教育環境との間にギャップが生じていることが推察されます。（図表 3-29 参照）

図表 3-25 によると、「1 学年 4 学級が望ましい」と回答した方が最も多くなり、次いで「1 学年 3 学級が望ましい」と回答した方が多くなりました。1 学年 3 学級以上が望ましいとした回答が全体の約 8 割を占める結果となりました。



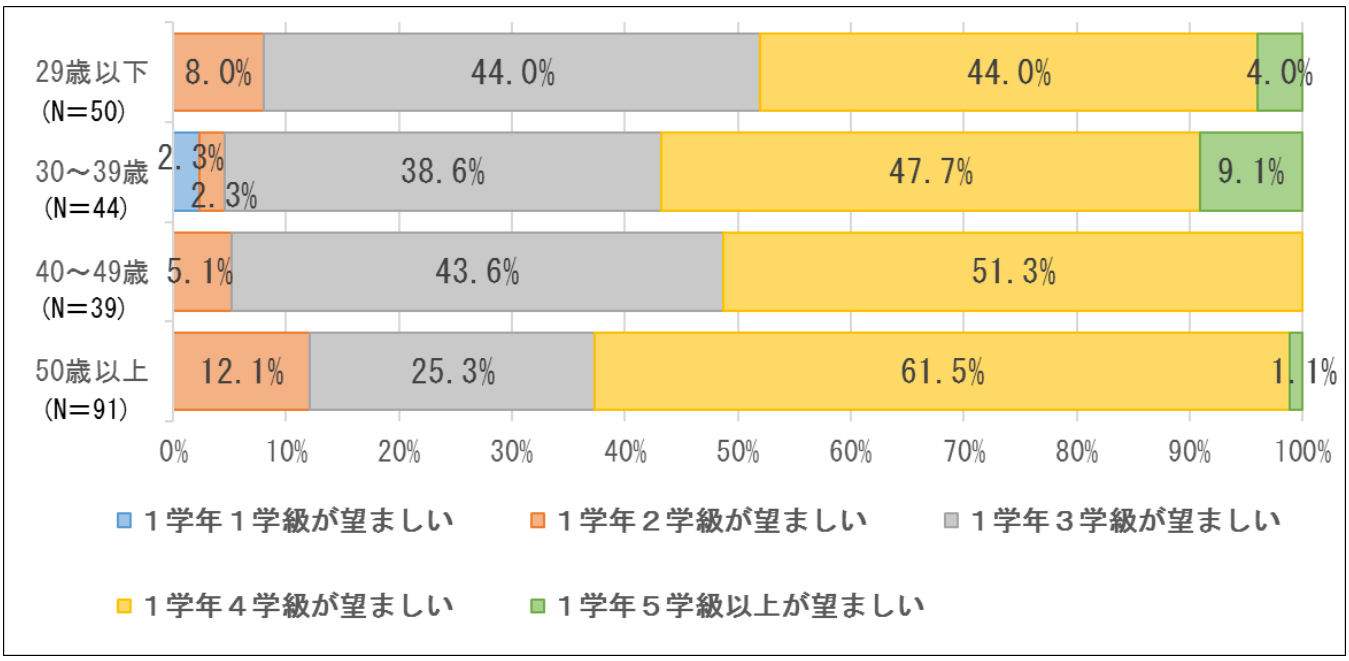
図表３－２５　教育環境として望ましいと思う中学校の規模（単純集計）（Ｎ＝２２７）

図表 3-26 によると、男女別を問わず「1 学 4 年学級が望ましい」と回答した比率が最も高くなりましたが、特徴として、男性と比較して女性において、規模の大きい中学校が教育環境として望ましいと回答する結果となりました。



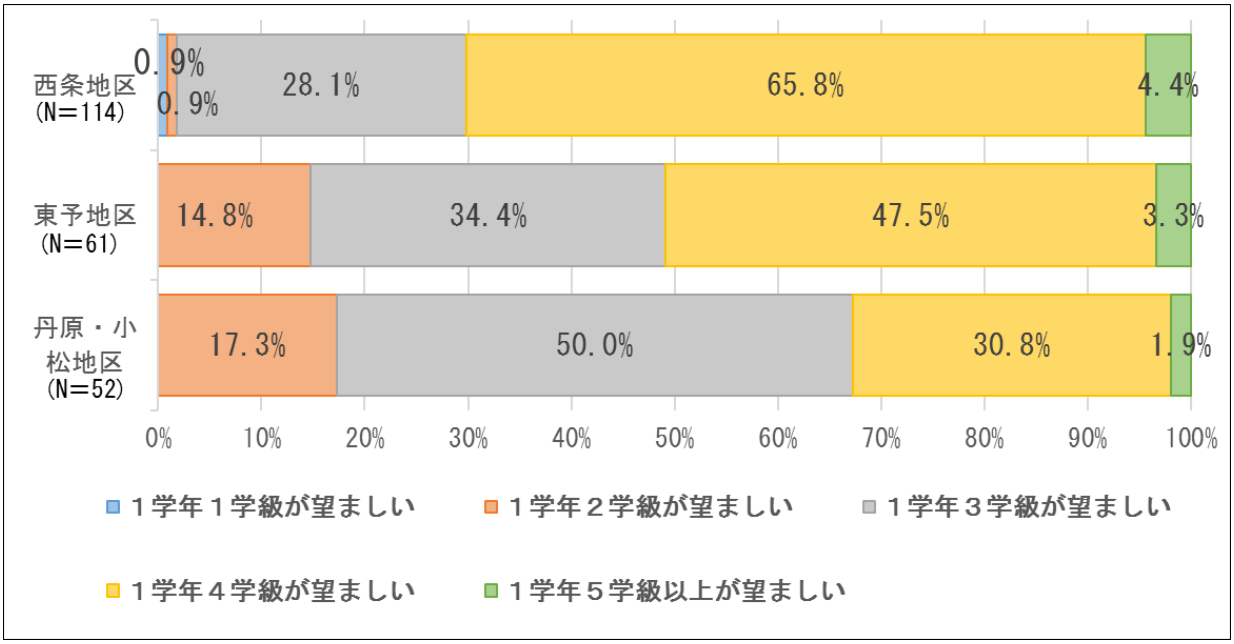
図表３－２６　教育環境として望ましいと思う中学校の規模（男女別）

図表 3-27 によると、29 歳以下を除くすべての年齢で「1 学年 4 学級が望ましい」と回答した比率が最も高くなりました。29 歳以下では、「1 学年 3 学級が望ましい」と「1 学年 4 学級が望ましい」と回答した比率が同率で最も高くとなりました。



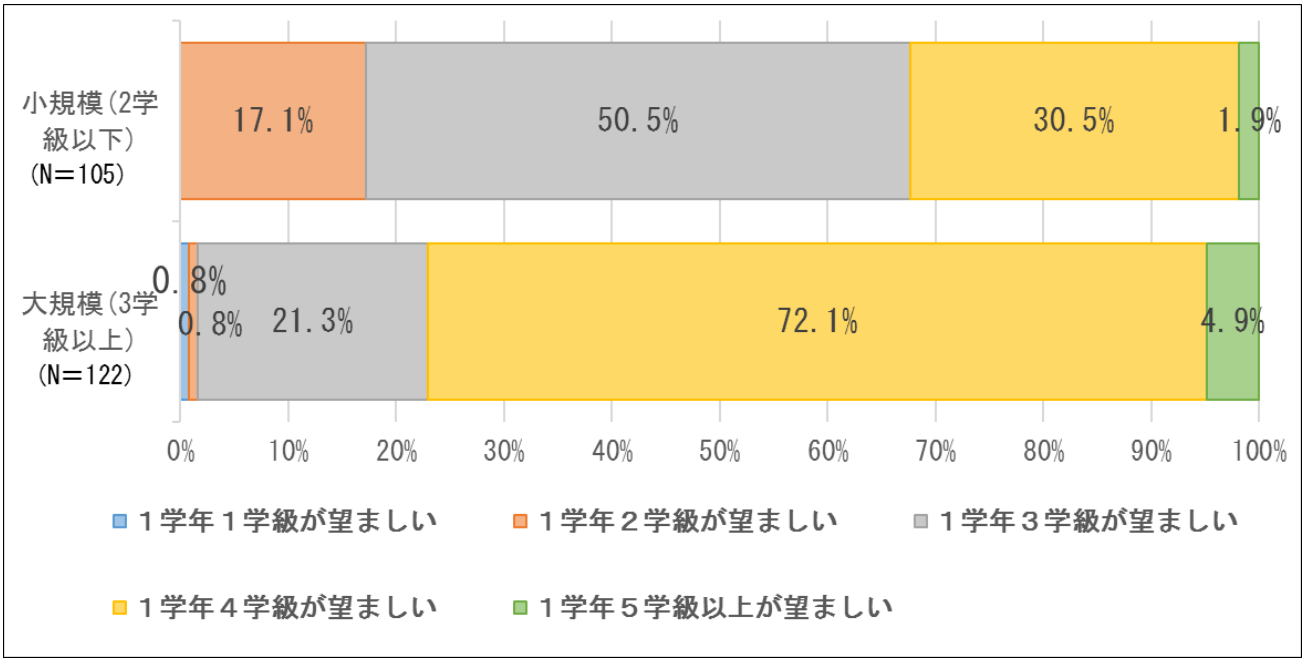
図表３－２７　教育環境として望ましいと思う中学校の規模（年齢別）

図表 3-28 によると、西条地区と東予地区では「1 学 4 年学級が望ましい」と回答した比率が最も高くなる一方で、丹原・小松地区では「1 学年 3 学級が望ましい」と回答した比率が最も高くなりました。所属する中学校の地区によって差異がみられる結果となりました。



図表３－２８　教育環境として望ましいと思う中学校の規模（所属する中学校の地区別）

図表 3-29 によると、大規模（3 学級以上）で「1 学年 4 学級以上が望ましい」と回答した比率が最も高くなり、小規模（2 学級以下）で「1 学年 3 学級が望ましい」と回答した比率が最も高くなりました。



図表３－２９　教育環境として望ましいと思う中学校の規模（所属する中学校の 3 年生規模別）

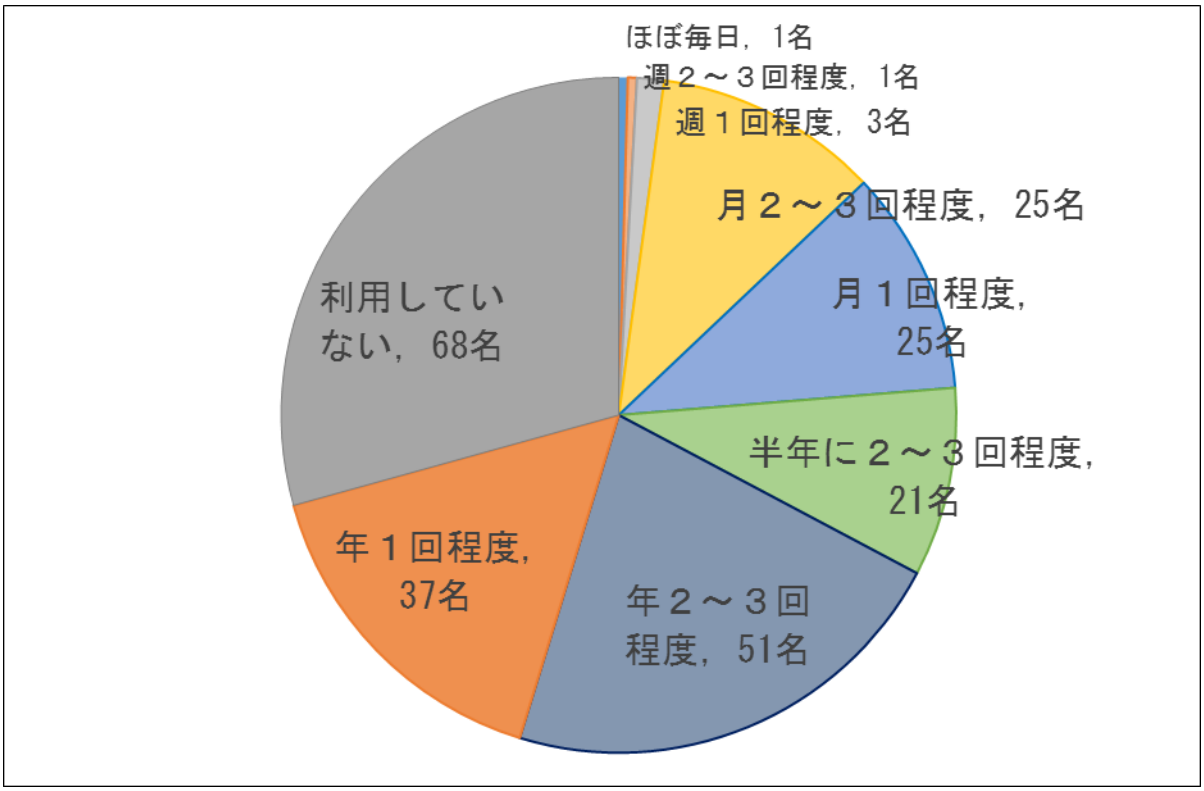
４　図書館について

（１）中学校教員における図書館の利用状況

【結果概要】

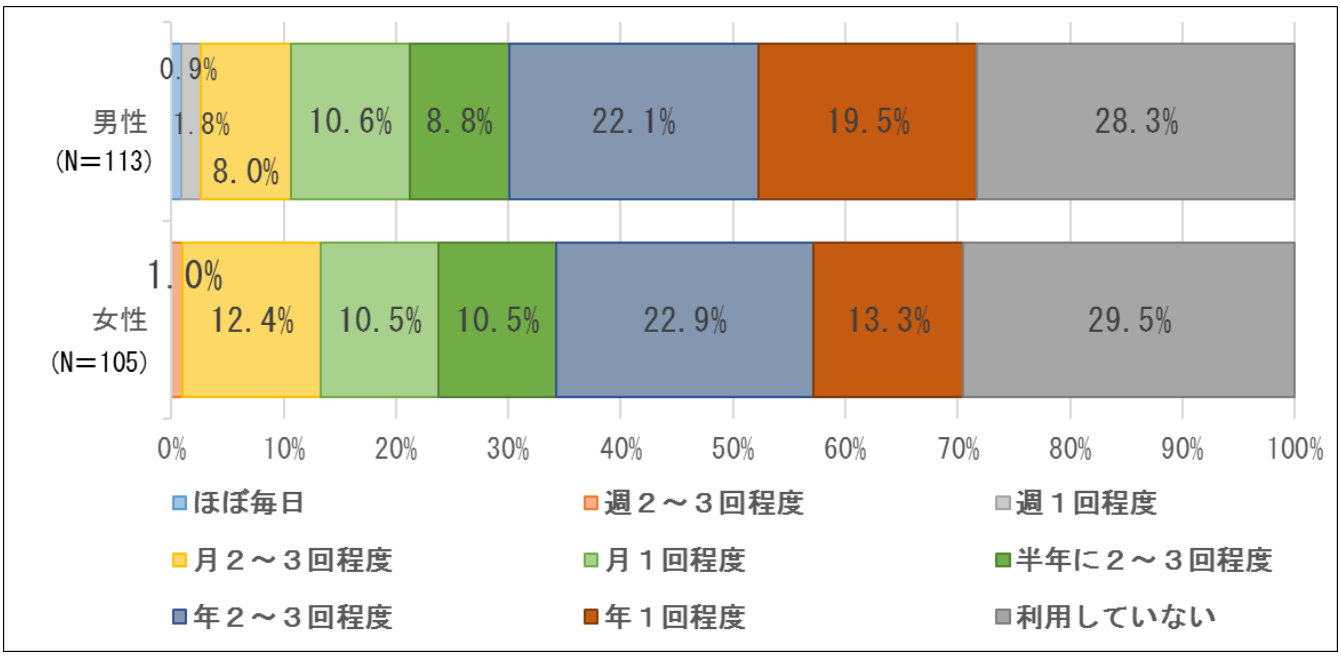
- 図書館を利用していると回答した方が 7 割を超えており、一般的にみて教員は図書館の利用頻度が高いということができます。（図表 4-1 参照）
- 他の年齢と比較し、29 歳以下で図書館の利用頻度が低い傾向がみられました。（図表 4-3）
- 所属する中学校の地区によっても、図書館の利用頻度に違いがみられました。（図表 4-4）

図表 4-1 によると、図書館を「利用していない」と回答した方が最も多く、次いで「年 2～3 回程度」と回答した方が多くなりました。



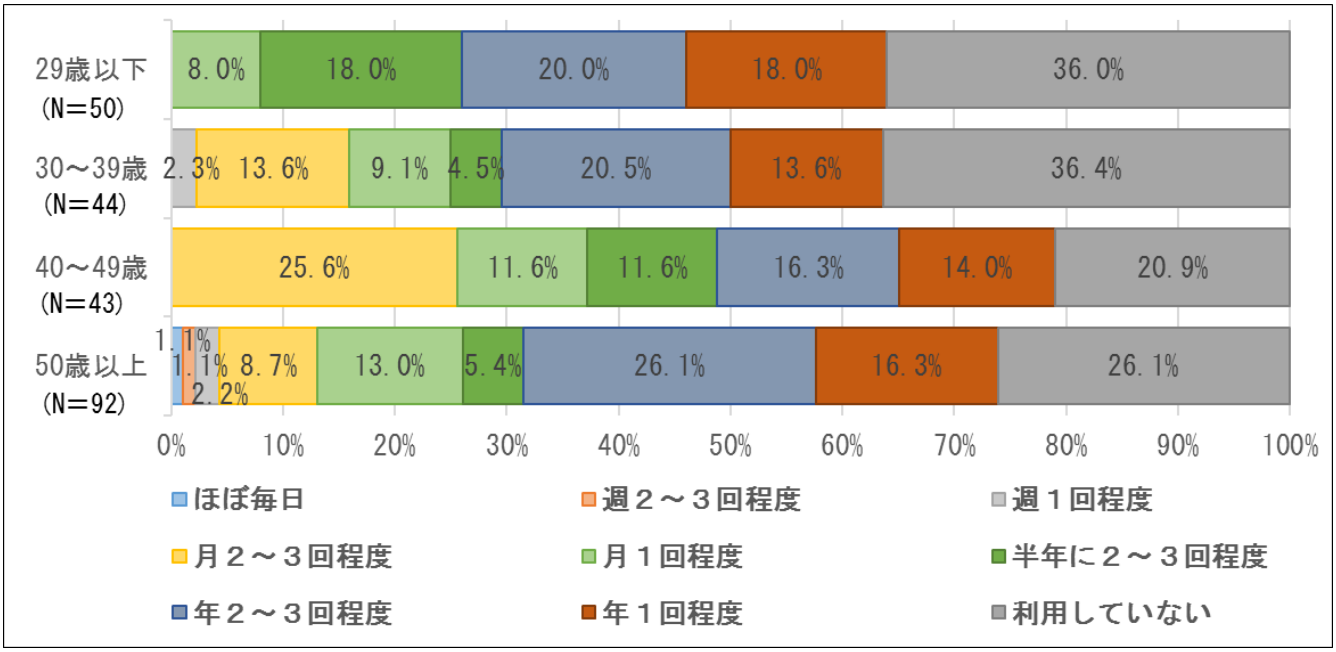
図表４－１　図書館の利用状況（単純集計）（Ｎ＝２３２）

図表 4-2 によると、男女ともに図書館を「利用していない」と回答した比率が最も高くなる中、どちらかといえば、男性と比較して女性において、図書館を利用していると回答した比率が高くなる傾向がみられました。



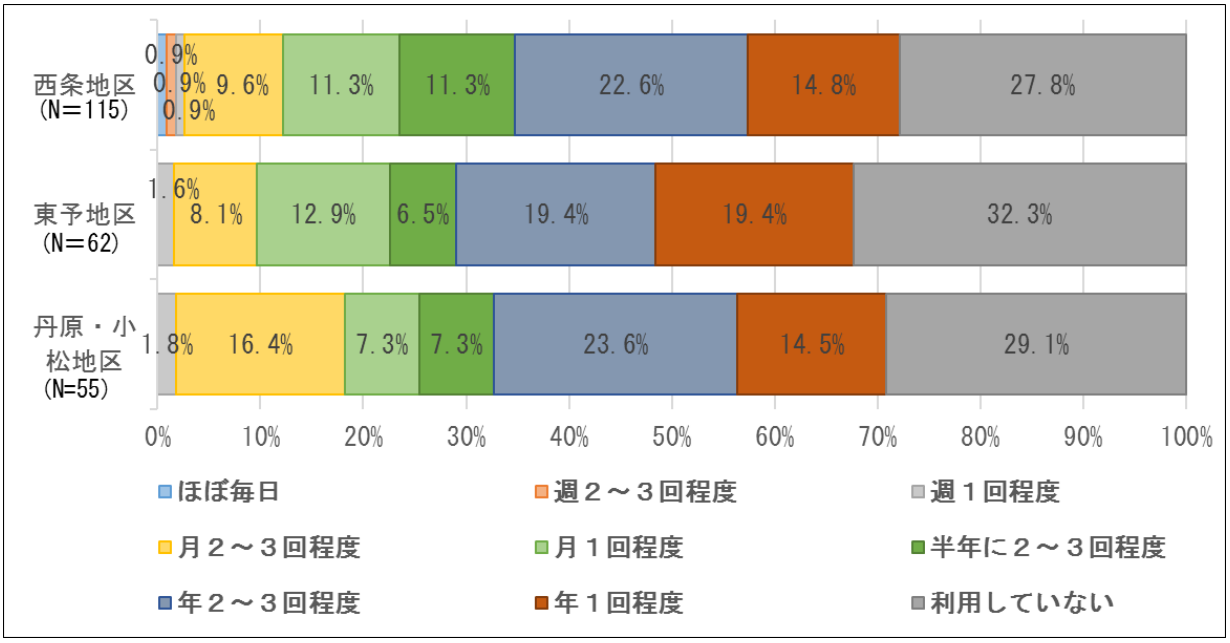
図表４－２　図書館の利用状況（男女別）

図表 4-3 によると、40～49 歳と 50 歳以上で図書館を利用していると回答した比率が高くなる一方で、29 歳以下においては、図書館を利用している頻度が最も低くなりました。



図表４－３　図書館の利用状況（年齢別）

図表 4-4 によると、所属する中学校の地区によって図書館を利用する頻度に違いがみられました。特に、丹原・小松地区では図書館を利用する頻度が高くなる傾向がみられました。



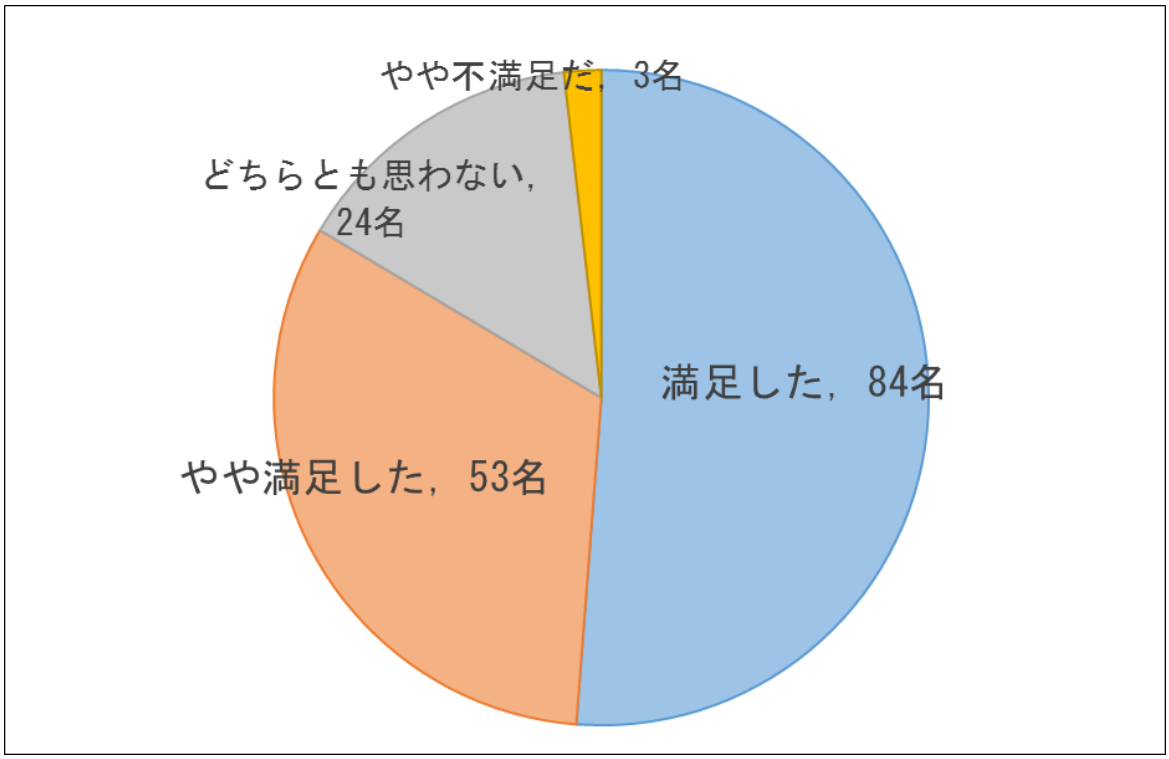
図表４－４　図書館の利用状況（所属する中学校の地区別）

（２）中学校教員における図書館の利用環境に対する満足度

【結果概要】

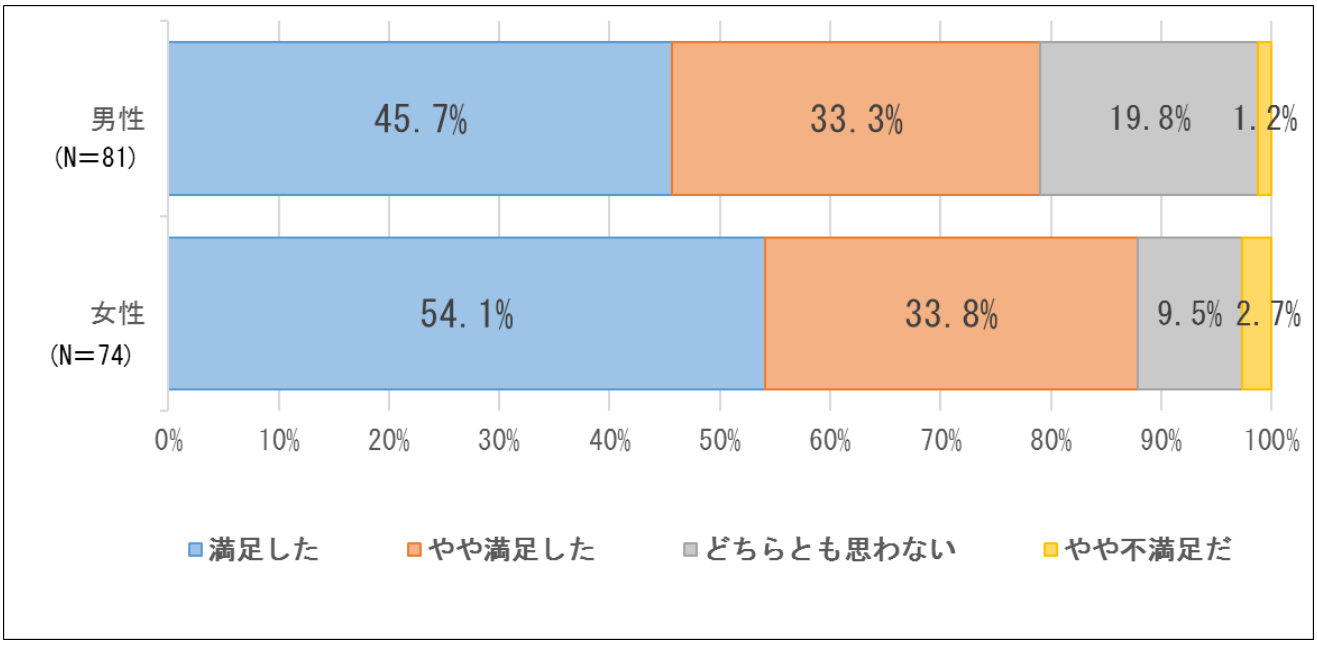
- 全体を通じ、図書館の利用環境に比較的満足している傾向がみられました。（図表 4-5 参照）
- 男女別または年齢別でみると、緩やかに傾向の違いがみられるものの、概ね差異は生じていないものと考えられます。（図表 4-6、4-7 参照）
- 主に利用する図書館別にみると、図書館によって満足度が異なる結果となりました。即座に対応しなければならない状況ではありませんが、少なくとも何が要因なのか検証する必要があると考えられます。（図表 4-8 参照）

図表 4-5 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、図書館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した方が多くなり、「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した方を大きく上回る結果となりました。



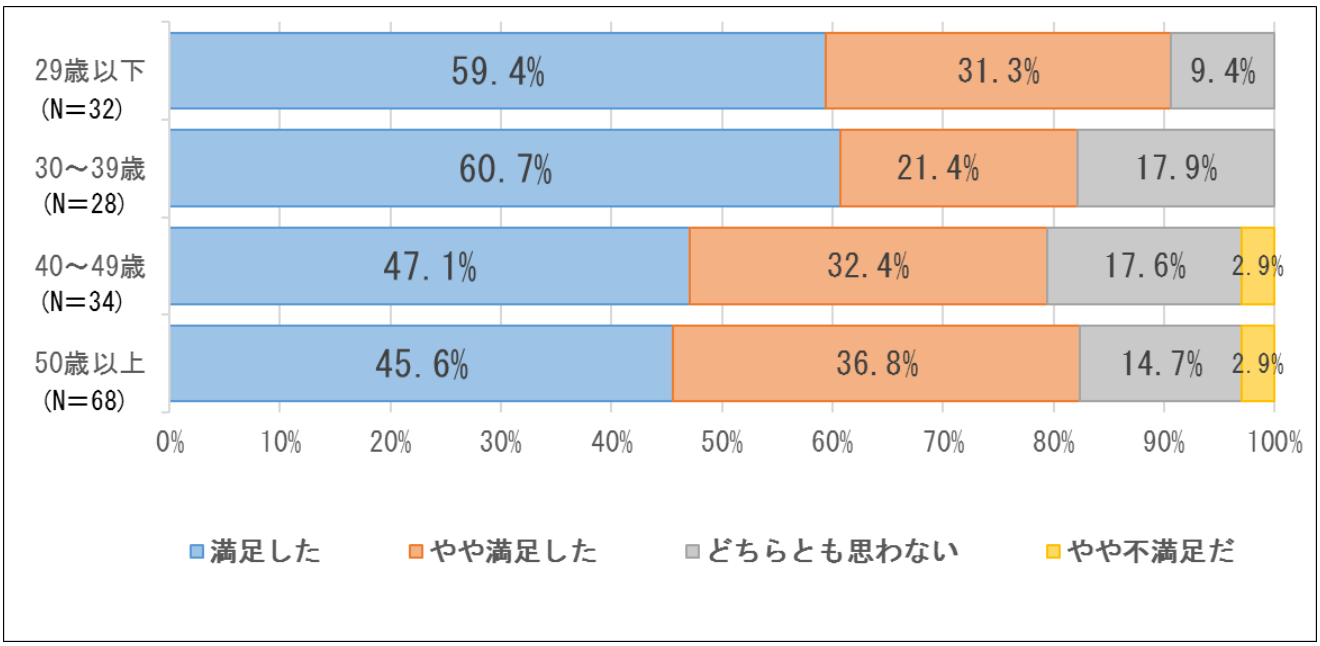
図表４－５　図書館の利用環境に対する満足度（単純集計）（Ｎ＝１６４）

図表 4-6 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、男女別を問わず図書館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなりました。どちらかといえば、男性と比較して女性で「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



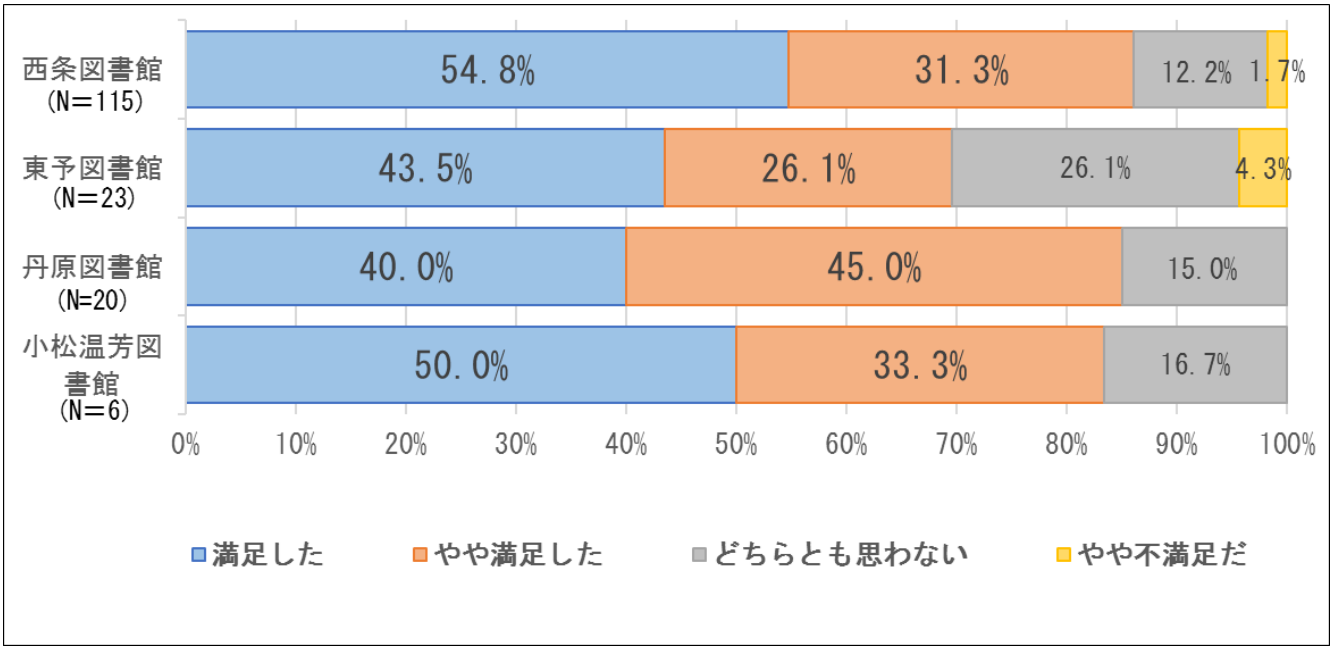
図表４－６　図書館の利用環境に対する満足度（男女別）

図表 4-7 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、すべての年齢を通じて図書館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した比率が高くなる一方で、年齢が高くなるにつれて、「満足した」「やや満足した」回答した比率が低くなる傾向がみられました。



図表４－７　図書館の利用環境に対する満足度（年齢別）

図表 4-8 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、西条図書館および小松温芳図書館を主に利用している方が、図書館の利用環境に「満足している」と回答した比率が高くなりました。一方で、主に利用する図書館によって利用環境の満足度に差異が生じる結果となりました。



図表４－８　図書館の利用環境に対する満足度（主に利用した図書館別）

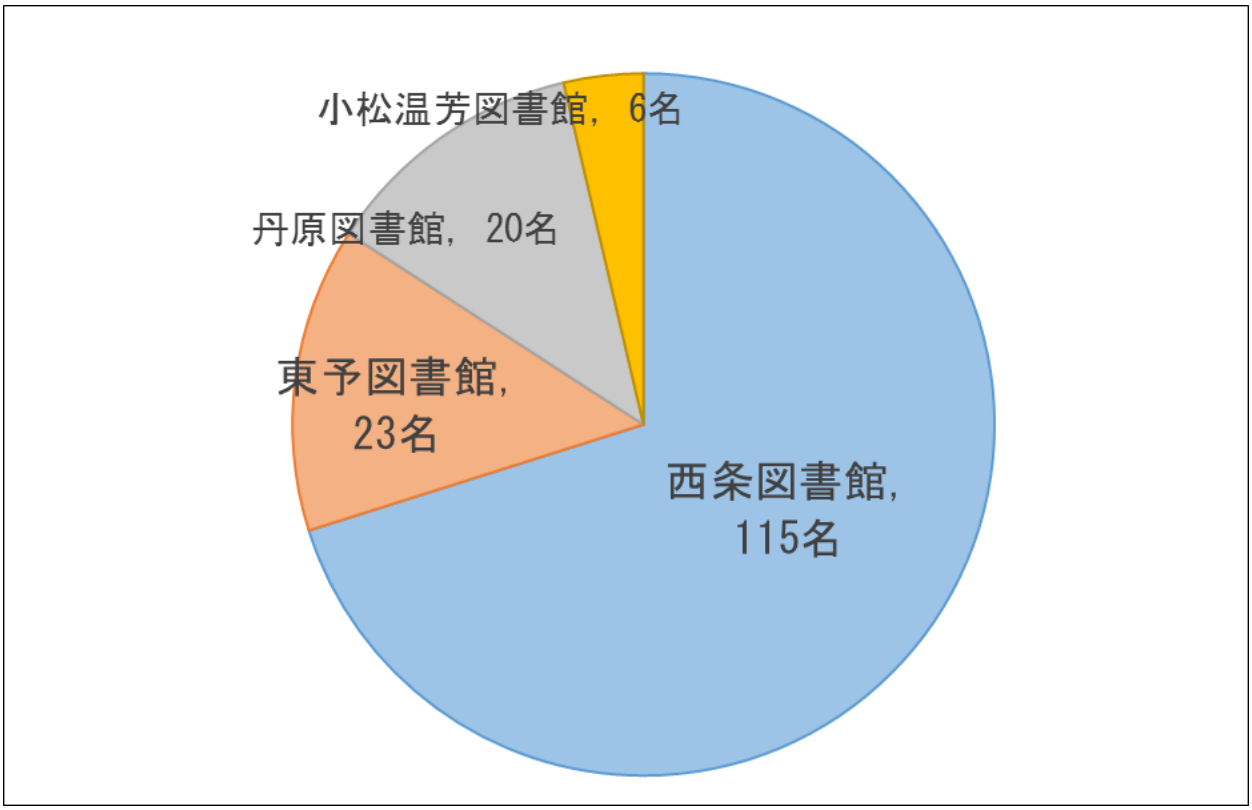
（３）中学校教員が主に利用している図書館

【結果概要】

- 各地区における人口構成と比較し、西条図書館を利用していると回答した比率が高くなる一方で、小松温芳図書館を利用していると回答した比率が低くなりました。（図表 4-9 参照）
- 年齢によって主に利用している図書館の傾向に違いがみられました。特に、西条図書館は比較的若い年齢の方が利用している傾向がみられました。（図表 4-11 参照）

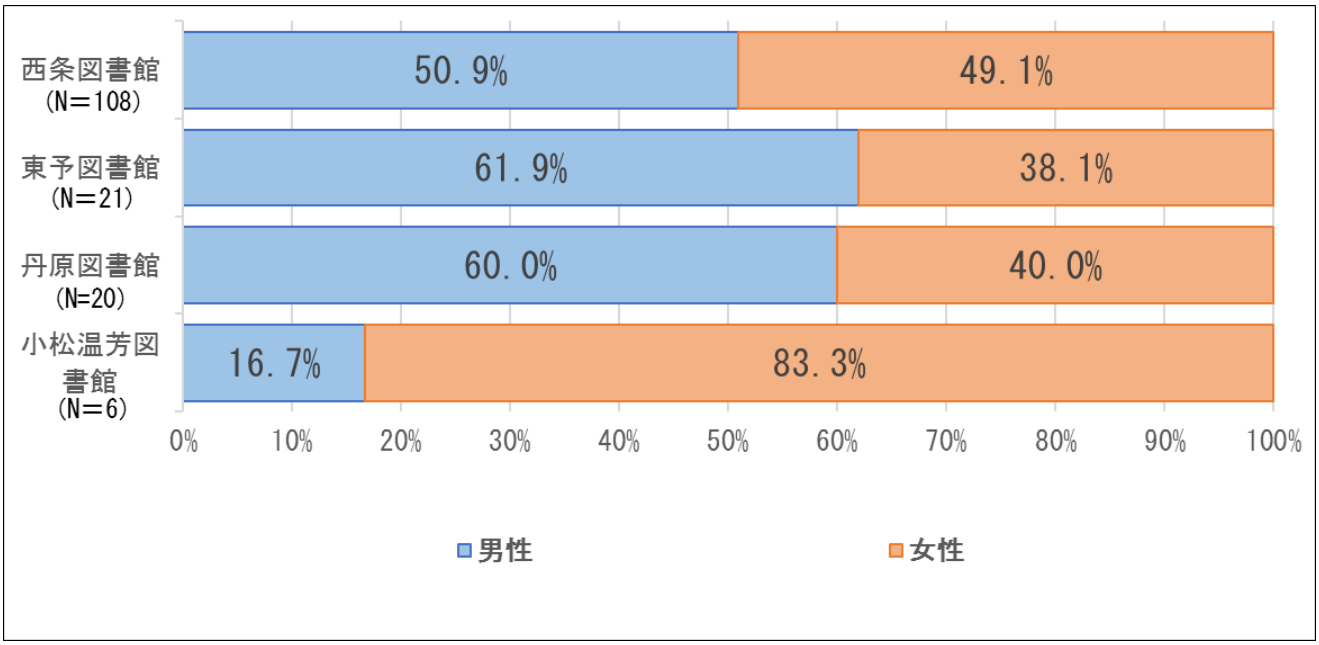
図表 4-9 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、西条図書館を主に利用していると回答した方が多くなり、西条地区の人口規模と比較しても多い傾向となりました。また、その他の図書館については、各地区における人口構成と比較し、主に利用していると回答した比率が低くなる傾向がみられました。

なお、主に移動図書館を利用していると回答した方はいませんでした。



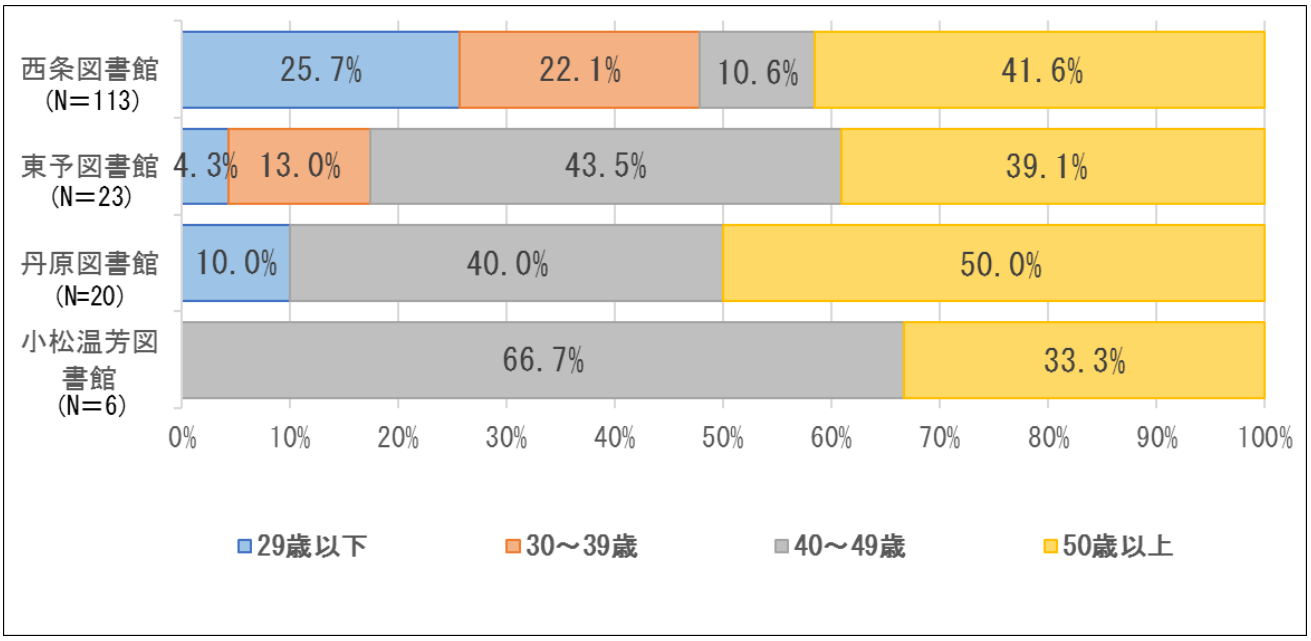
図表４－９　主に利用している図書館（単純集計）（Ｎ＝１６４）

図表 4-10 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、小松温芳図書館を主に利用したと回答した方の大半が女性という傾向がみられました。



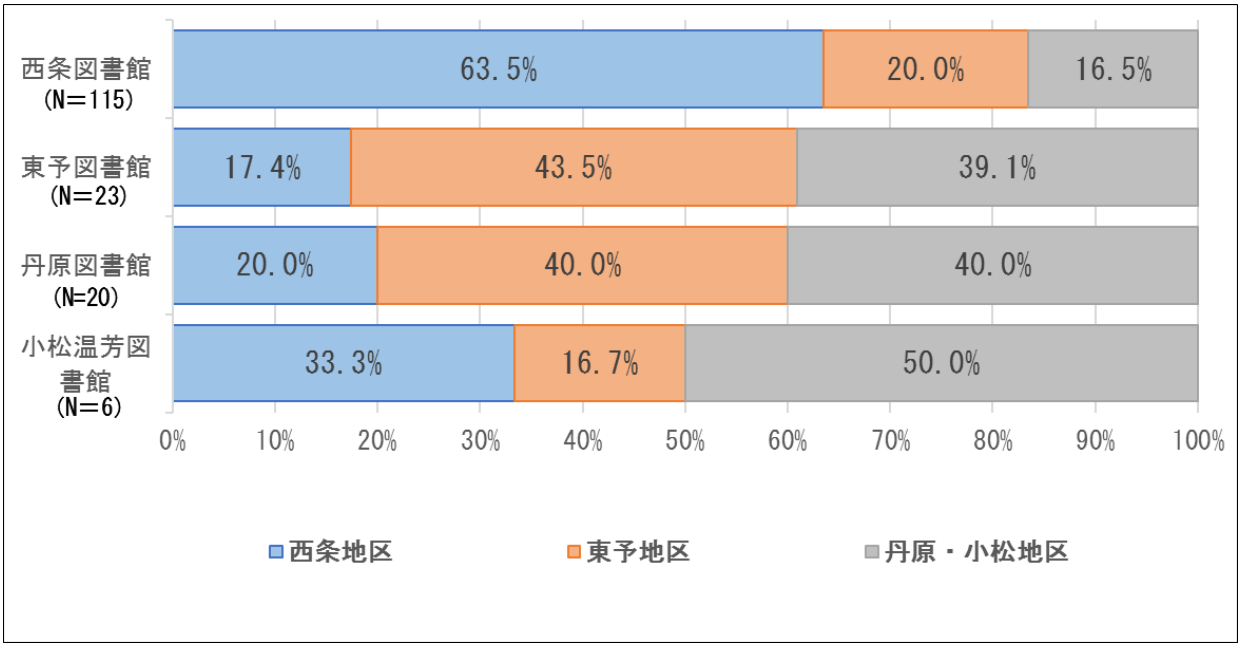
図表４－１０　主に利用している図書館別の男女構成

図表 4-11 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、西条図書館では若い年齢の方の利用が多くなる傾向がみられる一方で、丹原図書館では主な利用者の 9 割が 40 歳以上、小松温芳図書館ではすべての利用者が 40 歳以上という傾向がみられました。



図表４－１１　主に利用している図書館別の年齢構成

図表 4-12 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、西条図書館、東予図書館、小松温芳図書館については、図書館が立地する地区の中学校に所属する教員が最も利用している傾向がみられました。一方で、丹原図書館については東予地区と丹原・小松地区の中学校に所属する方の利用が同率となりました。



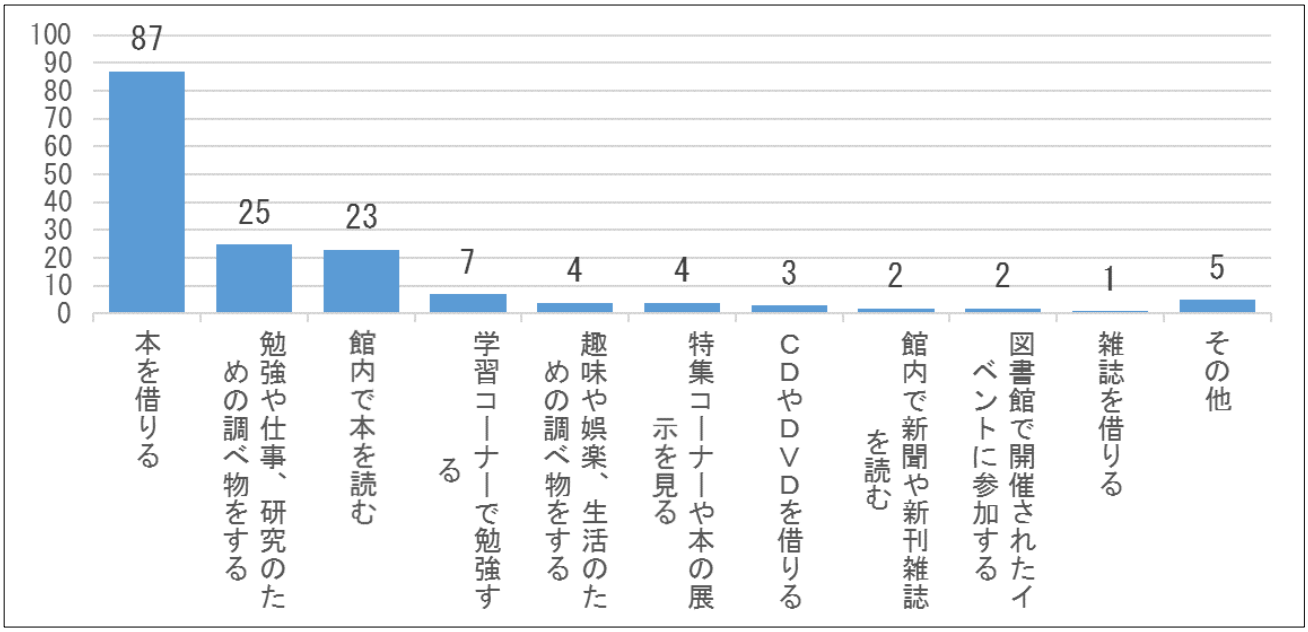
図表４－１２　中学校教員が主に利用している図書館（所属する中学校地区別）

（４）中学校教員が図書館を利用した主な目的

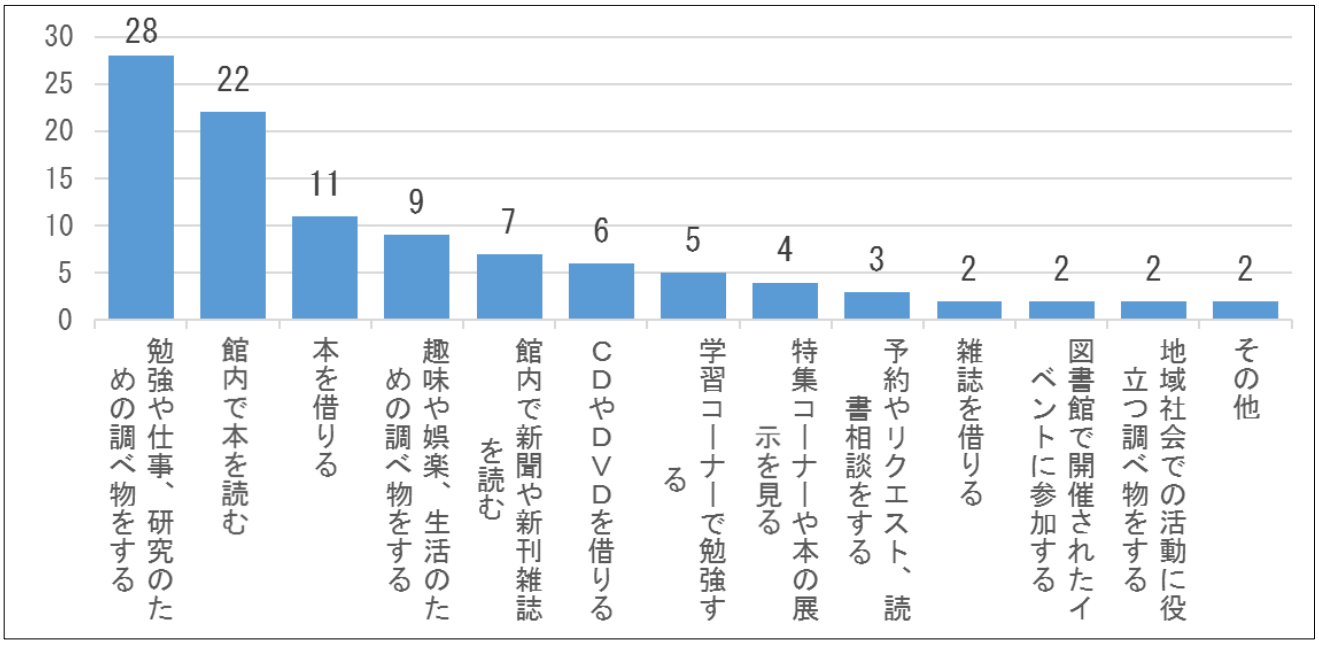
【結果概要】

- 図書館を利用した方の多くが、本を借りるために図書館を利用している傾向がみられました。（図表 4-13、4-14 参照）
- 年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、勉強や仕事、研究のための調べ物をするために図書館を利用する比率が高くなる一方で、年齢が低くなるにつれて、館内で本を読むために図書館を利用している比率が高くなる傾向がみられました。（図表 4-16 参照）

図表 4-13 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、「本を借りる」ために利用したとと回答した方が最も多くなり、次いで「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」「館内で本を読む」ために利用したと回答した方が多くなりました。また、図表 4-14 によると、第 2 選択についても、「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」「館内で本を読む」ために利用したと回答した方が多くなりました。

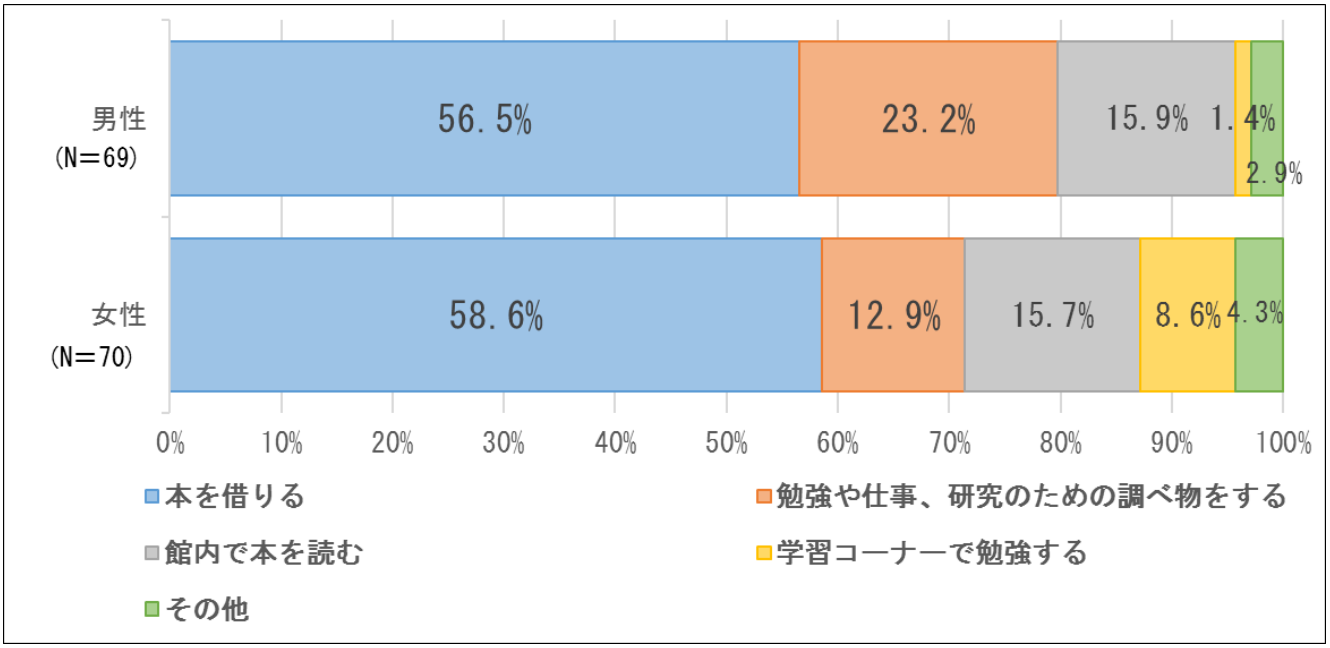


図表４－１３　図書館を利用した主な目的（第１選択・単純集計）（Ｎ＝１６３）



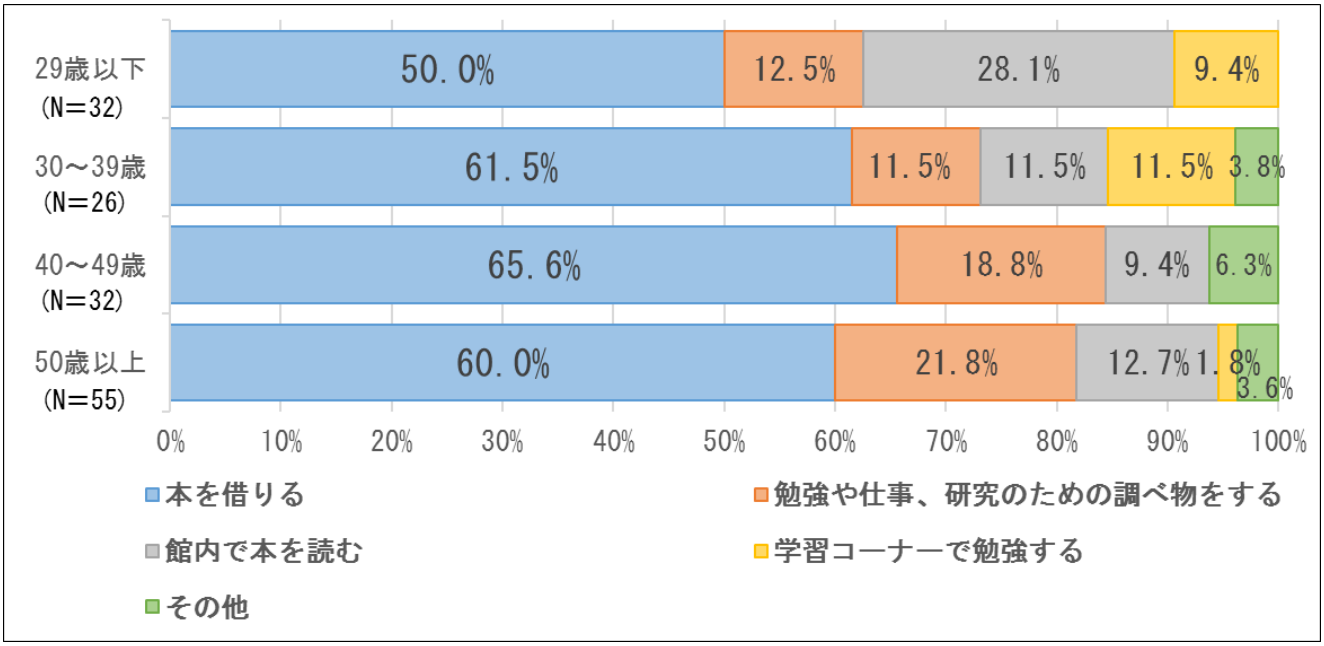
図表４－１４　図書館を利用した主な目的（第２選択・単純集計）（Ｎ＝１０３）

図表 4-15 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、男女ともに「本を借りる」ために図書館を利用したと回答した比率が高くなりました。また、女性と比較して男性で「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」と回答した比率が高くなり、女性で「学習コーナーで勉強する」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



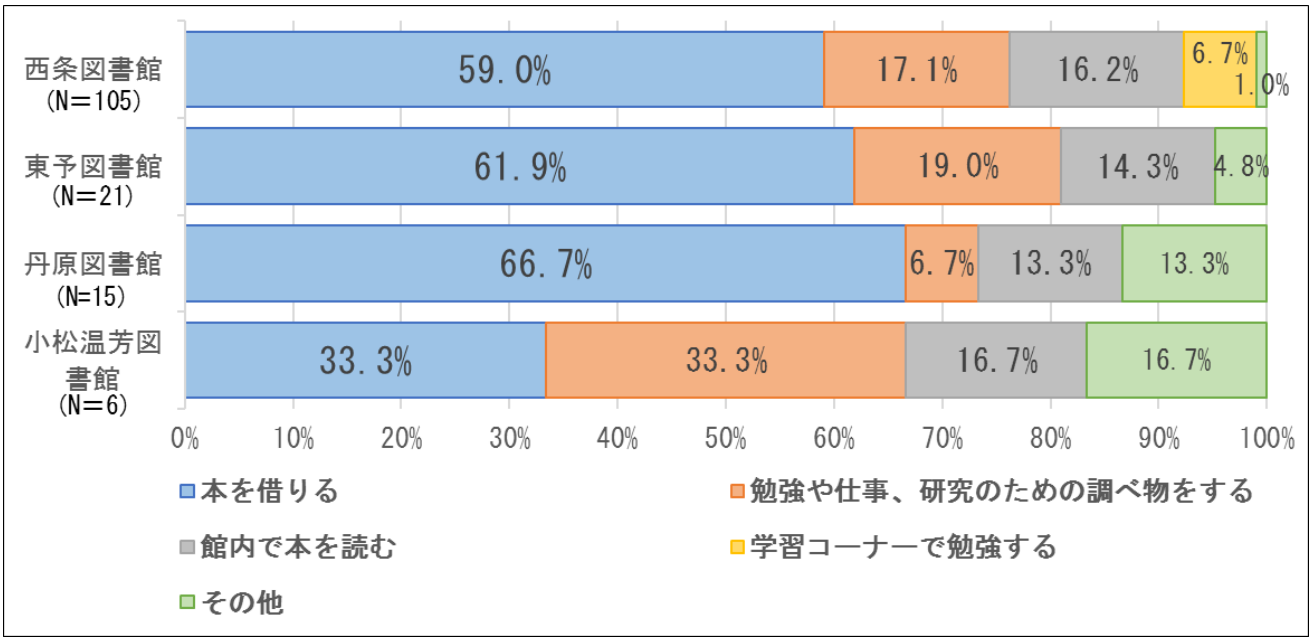
図表４－１５　図書館を利用した主な目的（第１選択上位５項目・男女別）

図表 4-16 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、すべての年齢で「本を借りる」ために図書館を利用したと回答した比率が高くなりました。また、年齢が高くなるにつれて「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」と回答した比率が高くなり、逆に年齢が低くなるにつれて「館内で本を読む」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表４－１６　図書館を利用した主な目的（第１選択上位５項目・年齢別）

図表 4-17 によると、図書館を利用したと回答した中学校教員のうち、小松温芳図書館を除くすべての図書館で「本を借りる」ために図書館を利用したと回答した比率が最も高くなりました。小松温芳図書館では、「本を借りる」と「勉強や仕事、研究のための調べ物をする」と回答した比率が同率となりました。



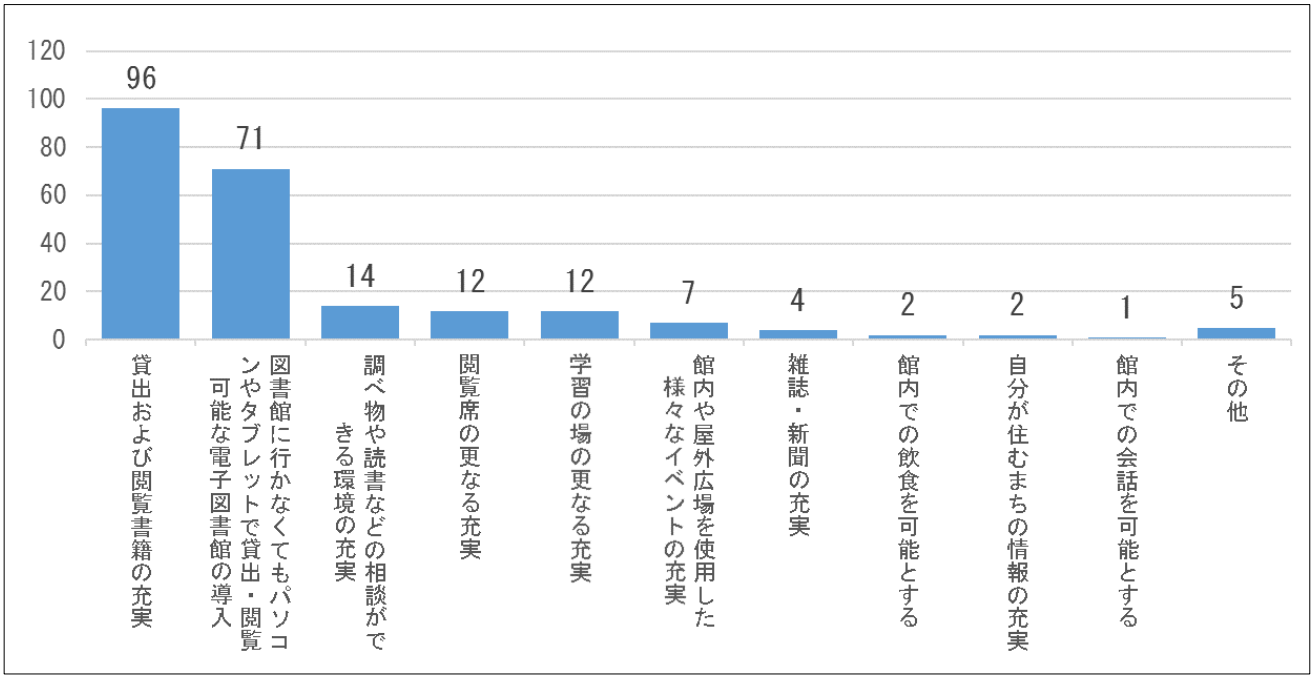
図表４－１７　図書館を利用した主な目的（第１選択上位５項目・主に利用している図書館別）

（５）図書館に関連して今後力を入れるべき点

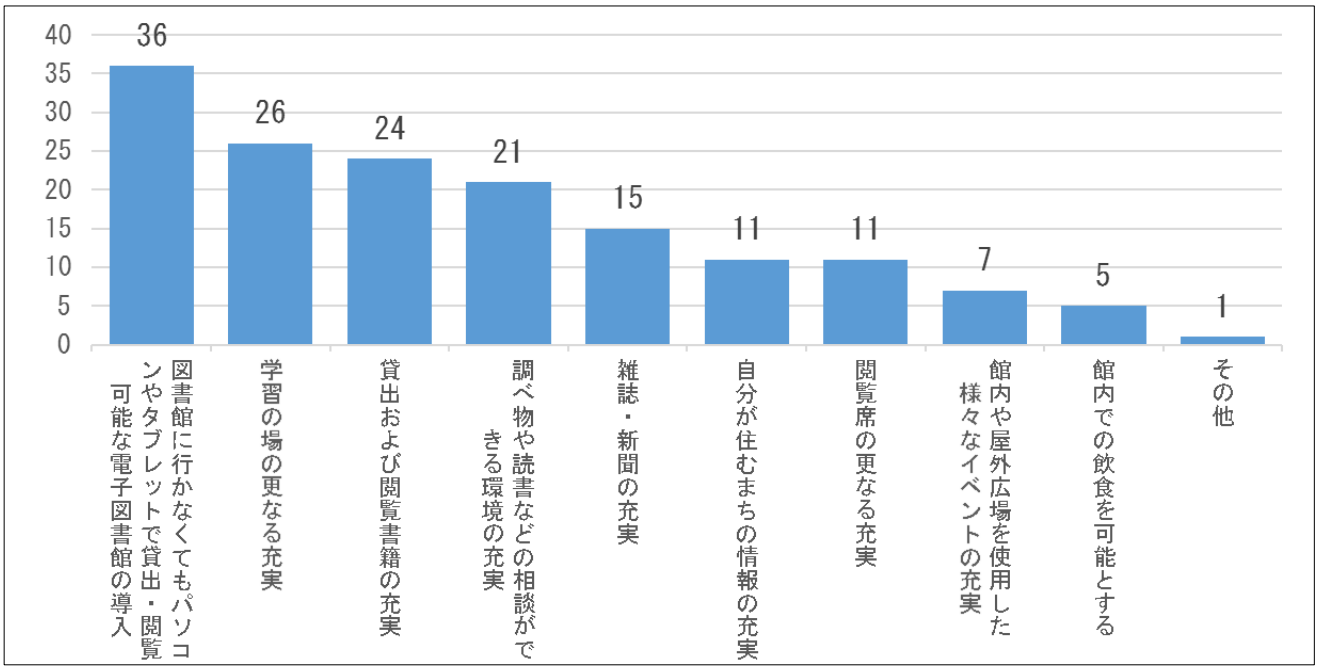
【結果概要】

- 書籍の充実に力を入れるべきとする方が多くなる一方で、近年導入が進みつつある電子図書館の導入に力を入れるべきとする方が多くなりました。（図表 4-18、4-19 参照）
- 年齢別にみると、若い年齢で電子図書館の導入に力を入れるべきと回答した比率が高くなり、逆に 40 歳以上では書籍の充実を求める傾向がみられました。（図表 4-21 参照）
- 主に利用する図書館別または所属する中学校の地区別にみると、今後力をいれるべき点に関する考え方に違いがみられました。（図表 4-22、4-23 参照）

図表 4-18 によると、「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した方が最も多くなり、次いで「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-19 によると、第 2 選択では「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」「学習の場の更なる充実」と回答した方が多くなりました。

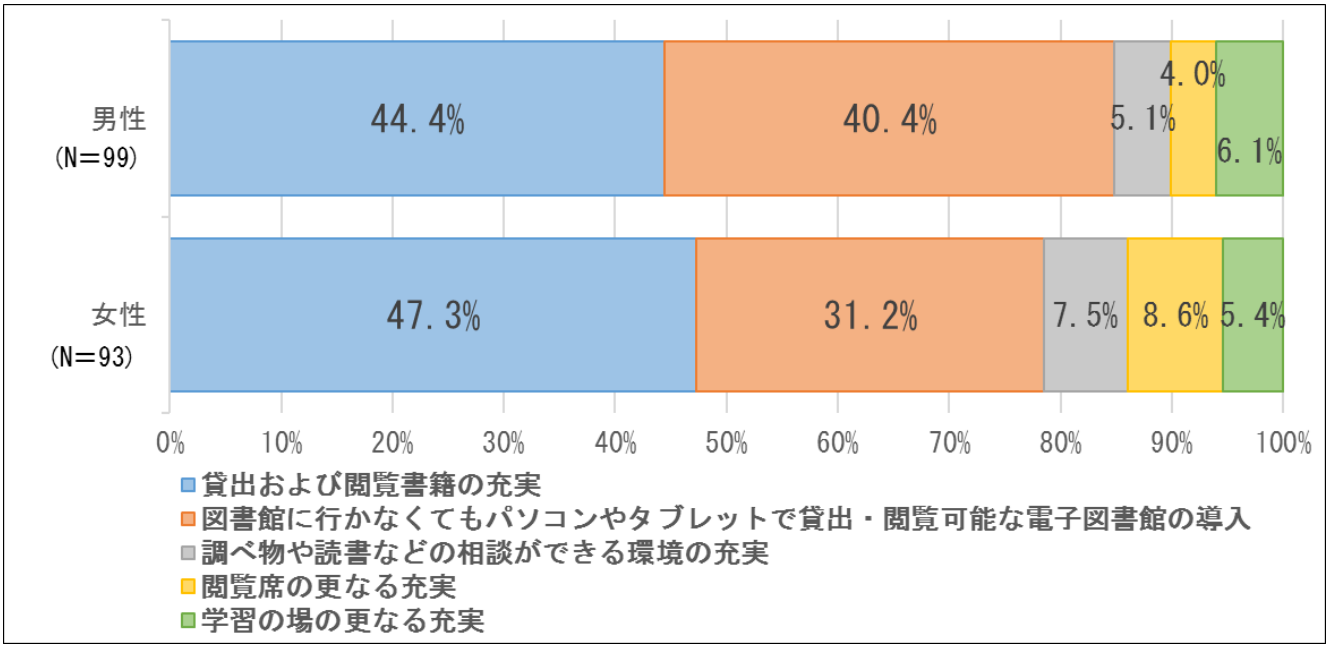


図表４－１８　図書館に関連して今後力を入れるべき点（第１選択・単純集計）（Ｎ＝２２６）



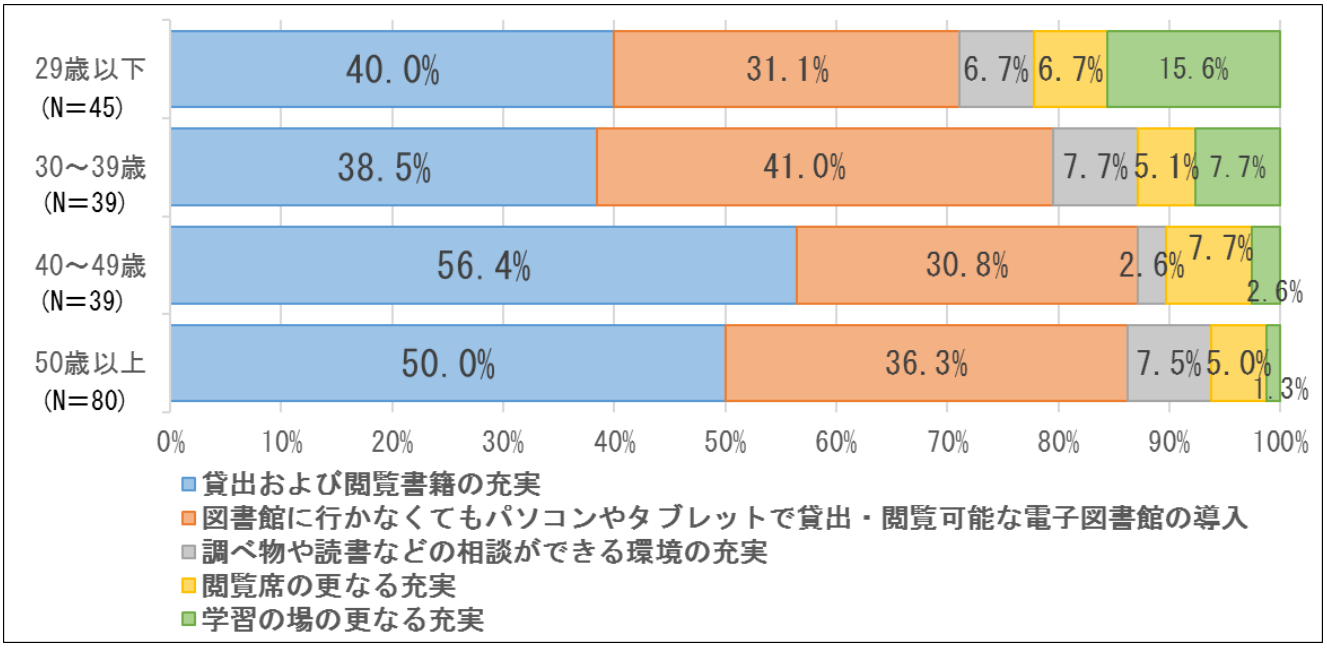
図表４－１９　図書館に関連して今後力を入れるべき点（第２選択・単純集計）（Ｎ＝１５７）

図表 4-20 によると、男女ともに「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した比率が最も高くなりました。また、女性と比較して男性で「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した比率が高くなり、女性では「閲覧席の更なる充実」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



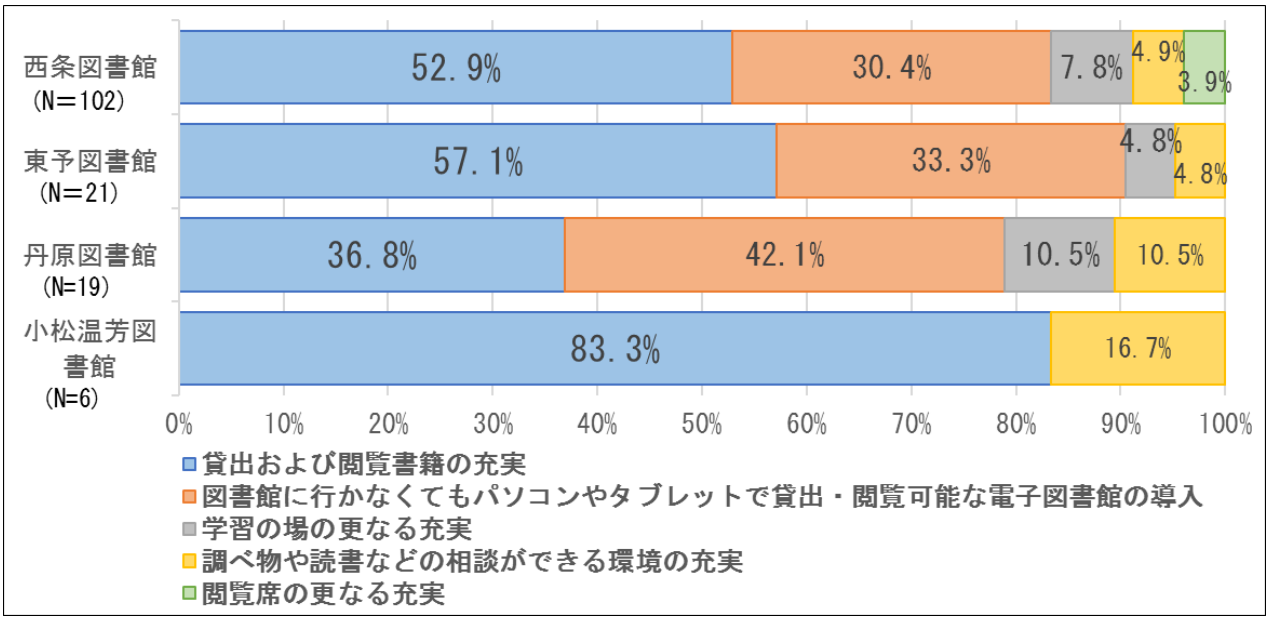
図表４－２０　図書館に関連して今後力を入れるべき点（第１選択上位５項目・男女別）

図表 4-21 によると、30～39 歳を除くすべての年齢で「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した比率が最も高くなり、30～39 歳では「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した比率が最も高くなりました。また、年齢が低くなるにつれて「学習の場の更なる充実」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表４－２１　図書館に関連して今後力を入れるべき点（第１選択上位５項目・年齢別）

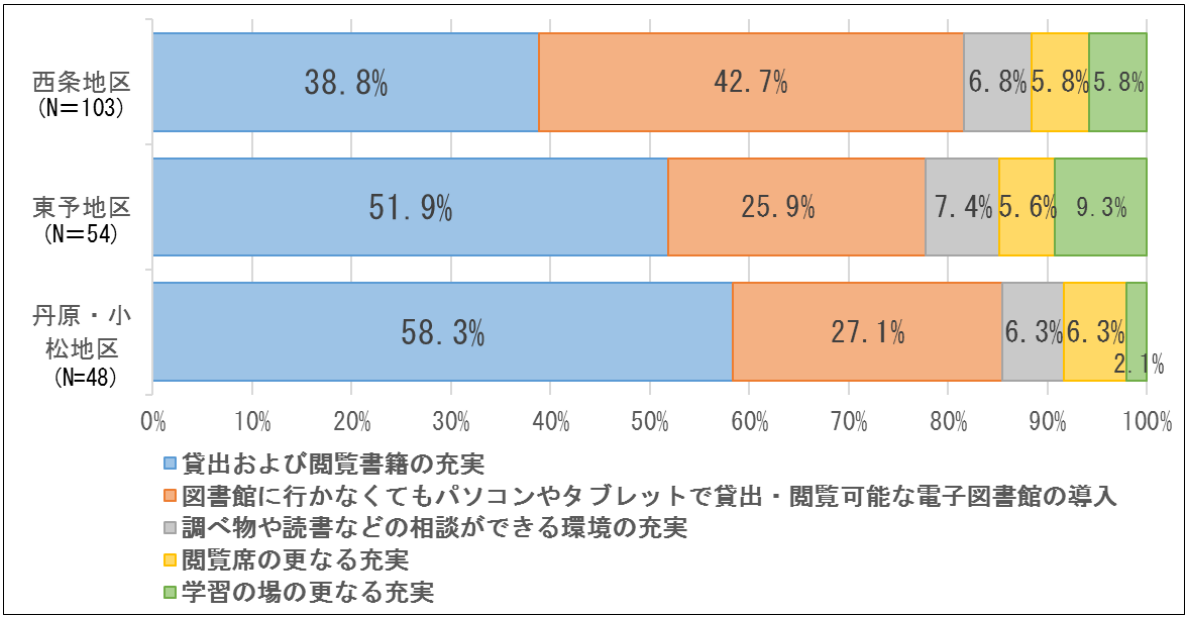
図表 4-22 によると、丹原図書館を除くすべての図書館を主に利用した方で「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した比率が最も高くなり、丹原図書館を主に利用した方では「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した比率が最も高くなりました。



図表４－２２　図書館に関連して今後力を入れるべき点

（第１選択上位５項目・主に利用している図書館別）

図表 4-23 によると、西条地区を除くすべての地区で「貸出および閲覧書籍の充実」と回答した比率が最も高くなり、西条地区では「図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入」と回答した比率が最も高くなりました。



図表４－２３　図書館に関連して今後力を入れるべき点

（第１選択上位５項目・所属する中学校の地区別）

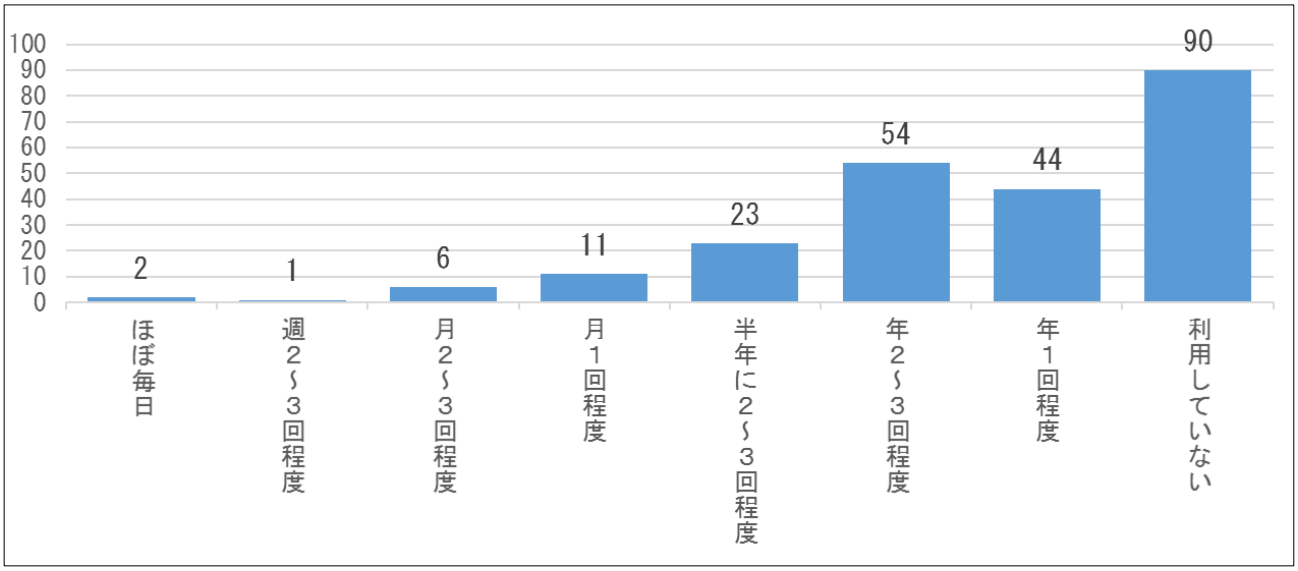
５　公民館について

（１）中学校教員における公民館の利用状況

【結果概要】

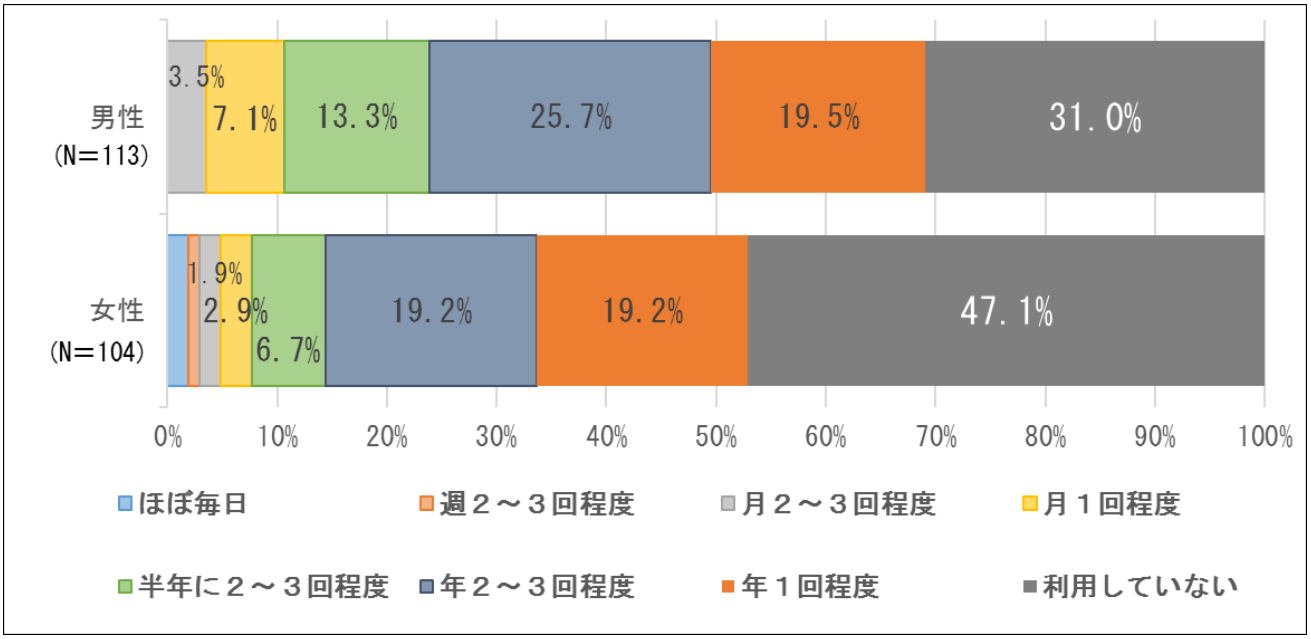
- 公民館を利用していないと回答した方が約２．５人に１人となりました。中学校と地域の連携を強化する観点から、いかに教員にとって利用しやすい公民館としていくのかという点が課題になっていると想定されます。（図表 5-1 参照）
- 年齢別にみると、年齢が低くなるにつれて公民館を利用する機会が少なくなっていることがわかります。また、所属する中学校の地区別にみると、地区によって公民館の使われ方が異なることがわかります。（図表 5-3、5-4 参照）
- 中学校の規模が小さいほど、教員における公民館の利用頻度が高くなる傾向がみられます。地域とのつながりを有する業務が多いことが要因ではないかと推察されます。（図表 5-5 参照）

図表 5-1 によると、公民館を「利用していない」と回答した方が最も多く、次いで「年 2～3 回程度」「年 1 回程度」と回答した方が多くなりました。また、月 1 回以上利用していると回答した方は少なくなりました。



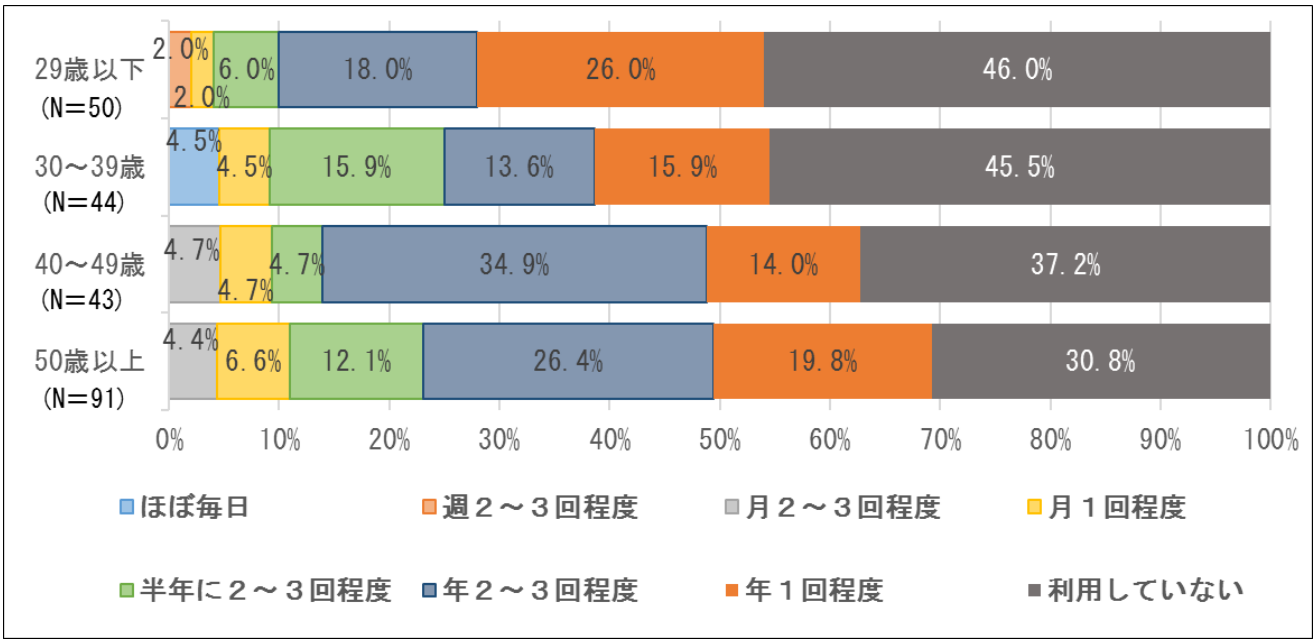
図表５－１　公民館の利用状況（単純集計）（Ｎ＝２３１）

図表 5-2 によると、女性と比較して男性で公民館を利用している傾向がみられました。



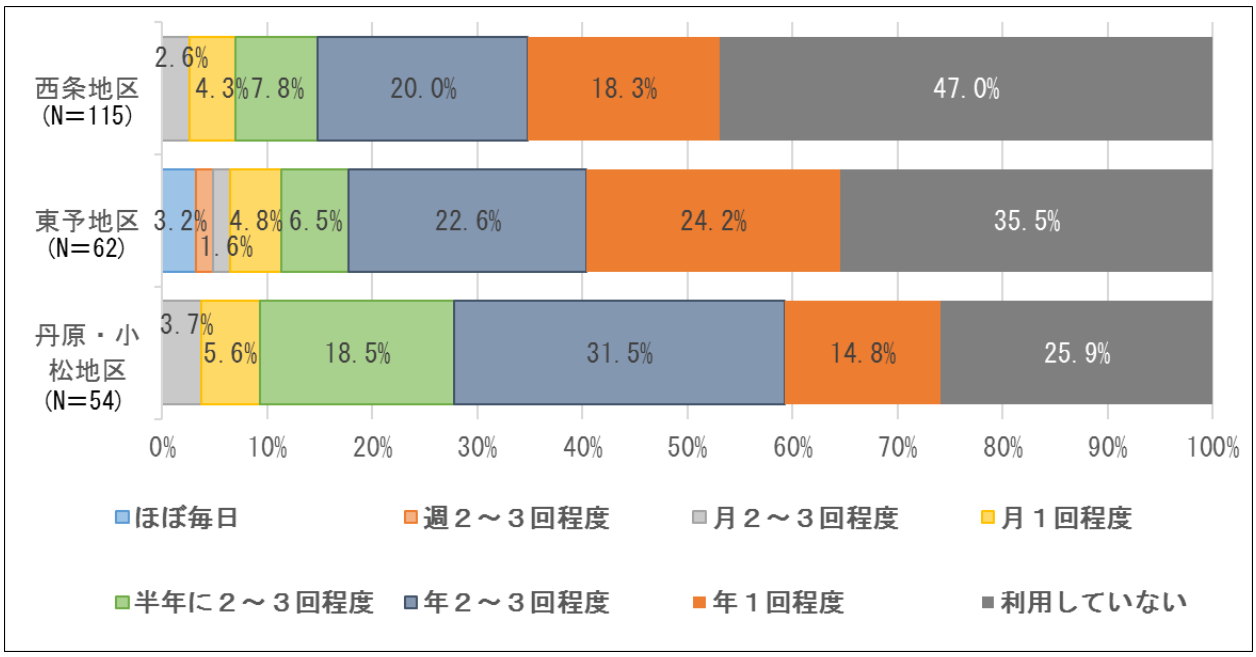
図表５－２　公民館の利用状況（男女別）

図表 5-3 によると、年齢が高くなるにつれて公民館を利用したと回答した比率が高くなる一方で、30～39 歳でほぼ毎日利用したと回答した比率が最も高くなる傾向がみられました。



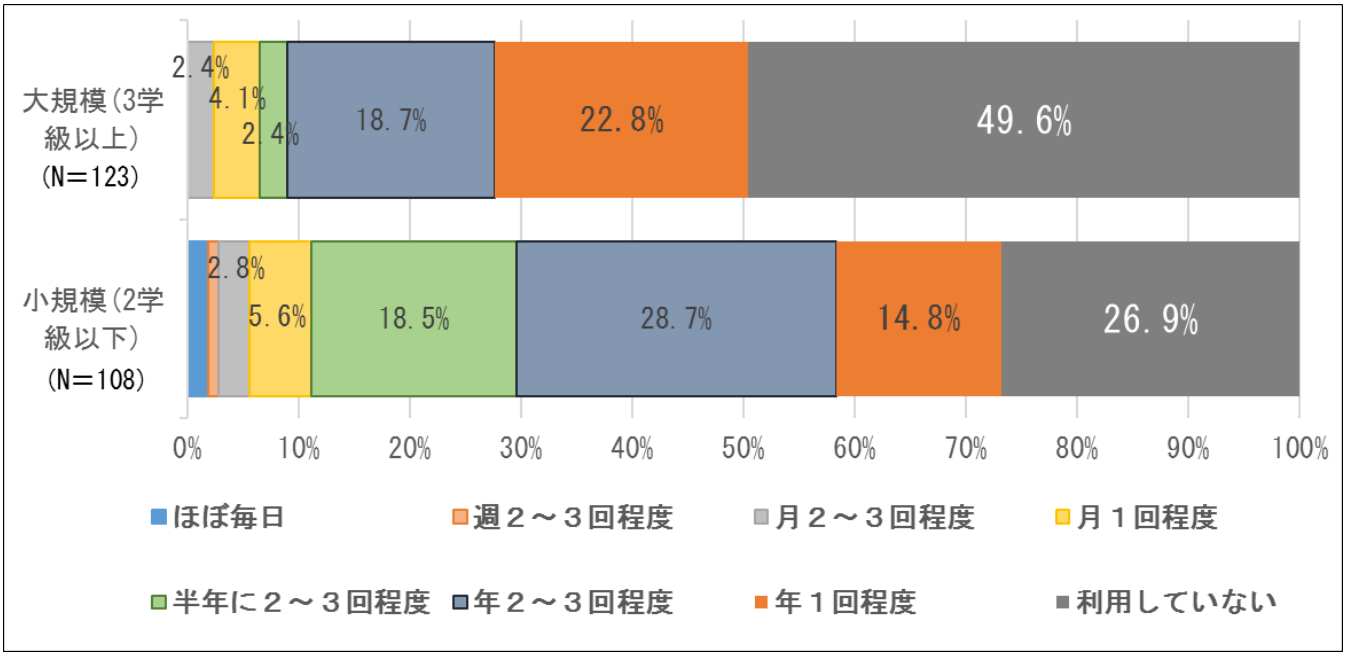
図表５－３　公民館の利用状況（年齢別）

図表 5-4 によると、丹原・小松地区で公民館の利用頻度が高くなる傾向がみられました。



図表５－４　公民館の利用状況（所属する中学校の地区別）

図表 5-5 によると、中学校の規模が小さいほど、教員における公民館の利用頻度が高くなる傾向がみられました。逆に、中学校の規模が大きいほど、公民館を利用していないと回答した教員の比率が高くなる傾向がみられました。



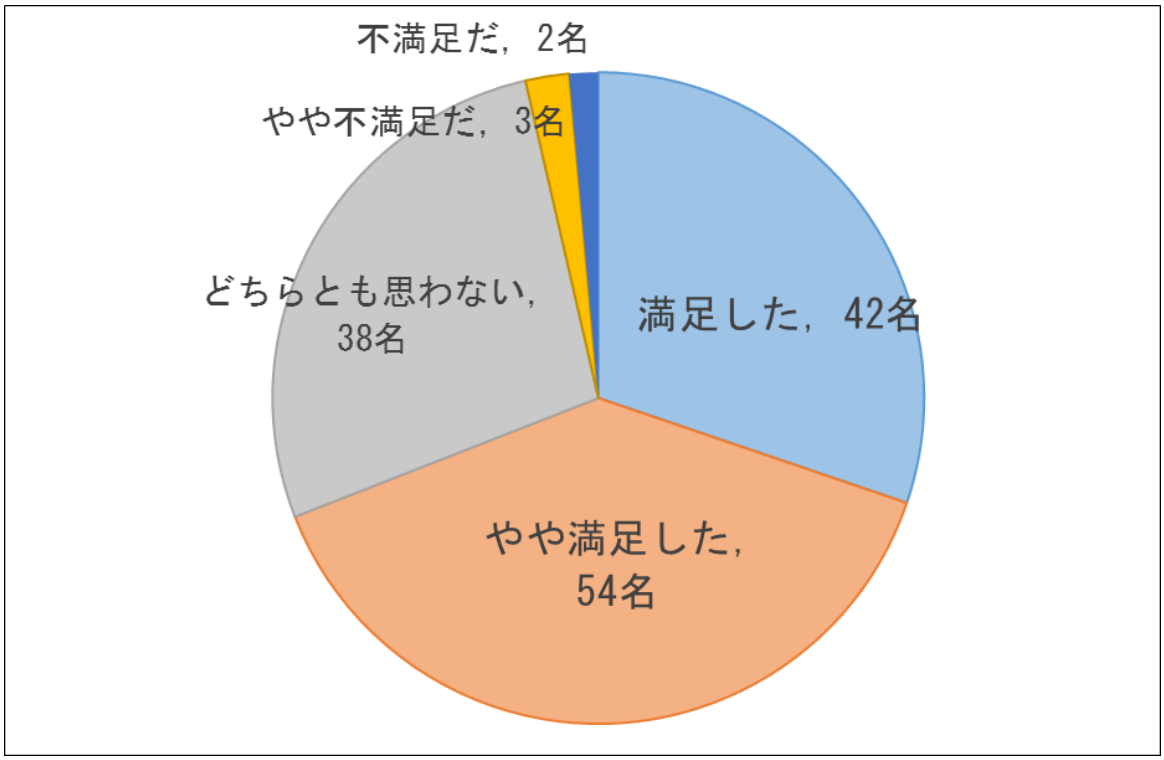
図表５－５　公民館の利用状況（所属する中学校の規模別）

（２）中学校教員における公民館の利用環境に対する満足度

【結果概要】

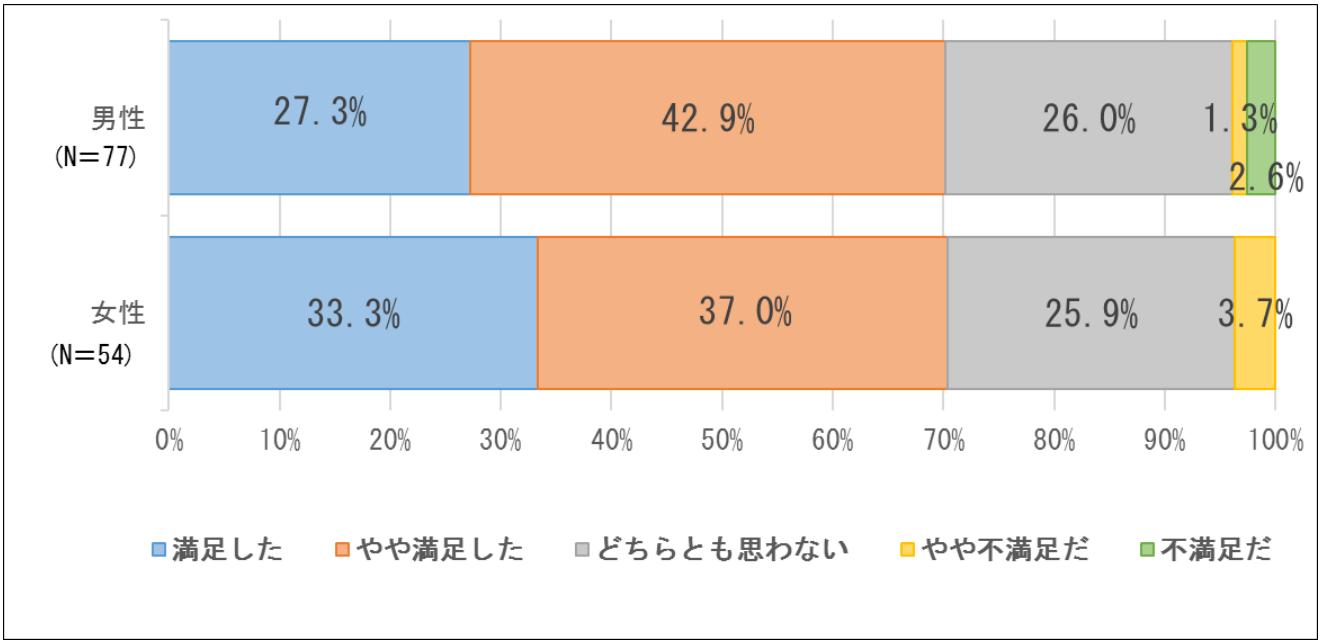
- 公民館を利用したと回答した大半の中学校教員が、公民館の利用環境に「満足している」「やや満足している」結果となりました。（図表 5-6 参照）
- 地区別にみると、西条地区で「満足した」「やや満足した」と回答した比率が最も高くなる一方で、「やや不満足だ」「不満足だ」という意見もみられました。（図表 5-9 参照）

図表 5-6 によると、公民館を利用したと回答した中学校教員のうち、公民館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答した方が多くなり、「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した方を大幅に上回る結果となりました。



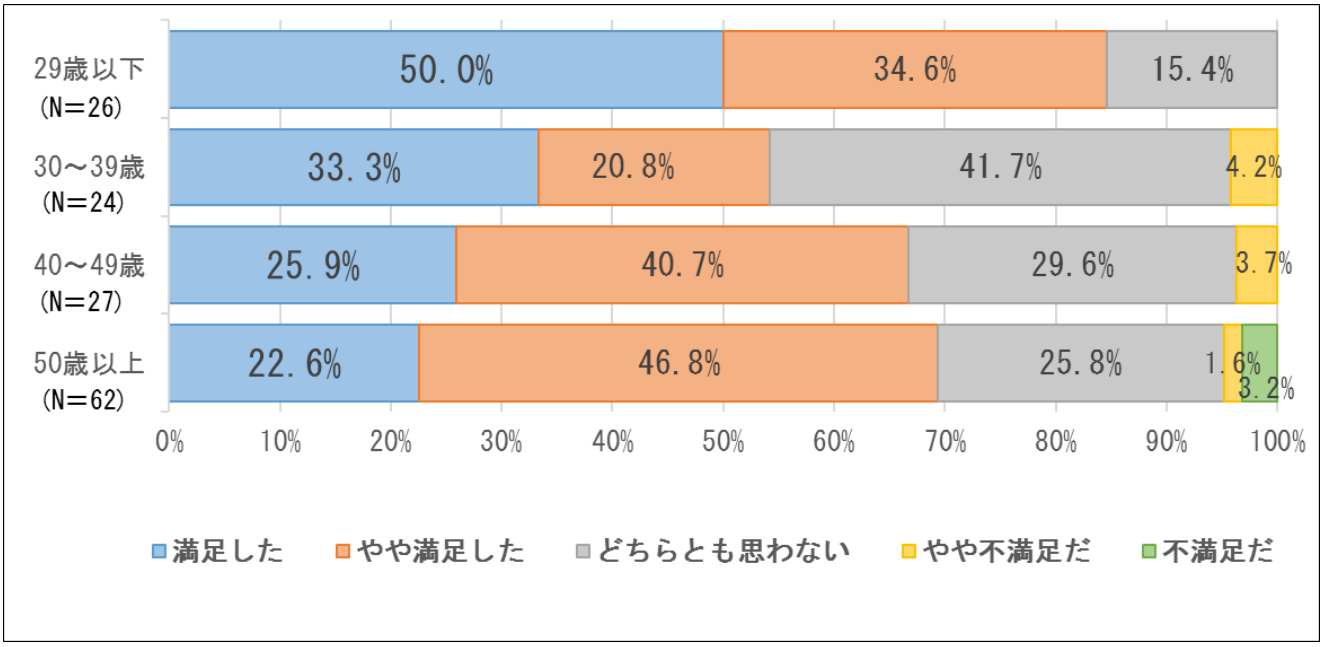
図表５－６　公民館の利用環境に対する満足度（単純集計）（Ｎ＝１３９）

図表 5-7 によると、公民館を利用したと回答した中学校教員のうち、男女別を問わず公民館の利用環境に「満足した」「やや満足した」と回答する比率が高くなりました。どちらかといえば、男性と比較して女性において「満足した」と回答する傾向がみられました。



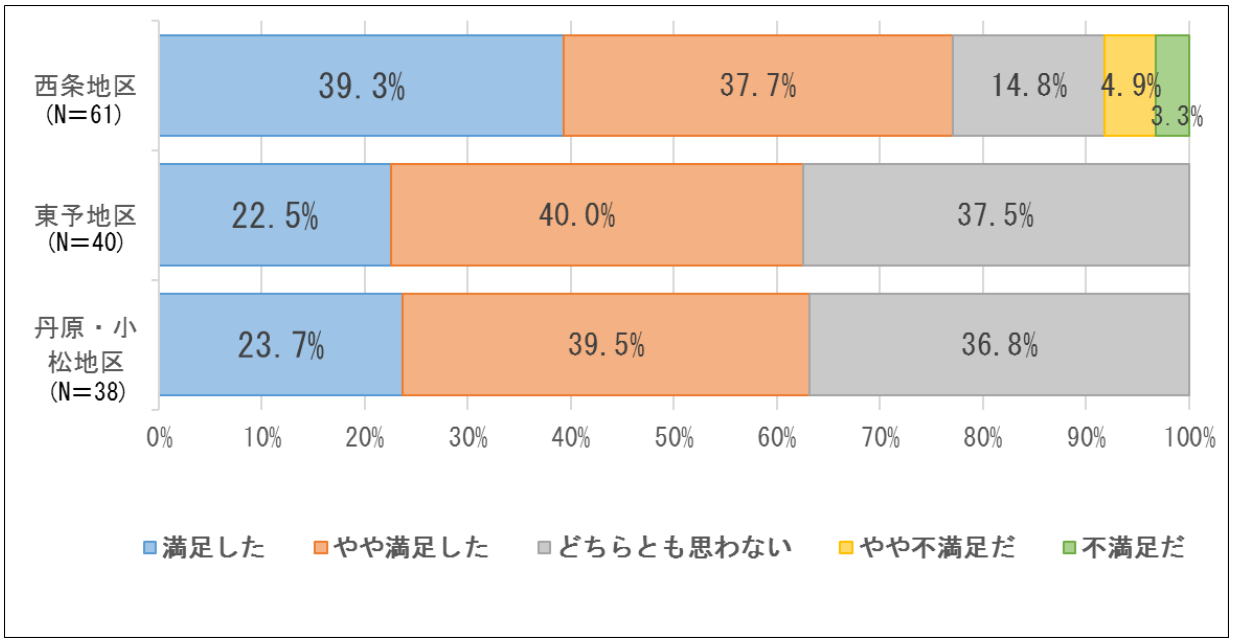
図表５－７　公民館の利用環境に対する満足度（男女別）

図表 5-8 によると、公民館を利用したと回答した中学校教員のうち、年齢が高くなるにつれて、公民館の利用環境に「満足した」と回答した比率が低くなる一方で、「やや満足した」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表５－８　公民館の利用環境に対する満足度（年齢別）

図 5-9 によると、公民館を利用したと回答した中学校教員のうち、すべての地区で「満足した」「やや満足した」と回答した比率が 50%以上となりましたが、西条地区で「やや不満足だ」「不満足だ」と回答した比率も一定程度みられました。



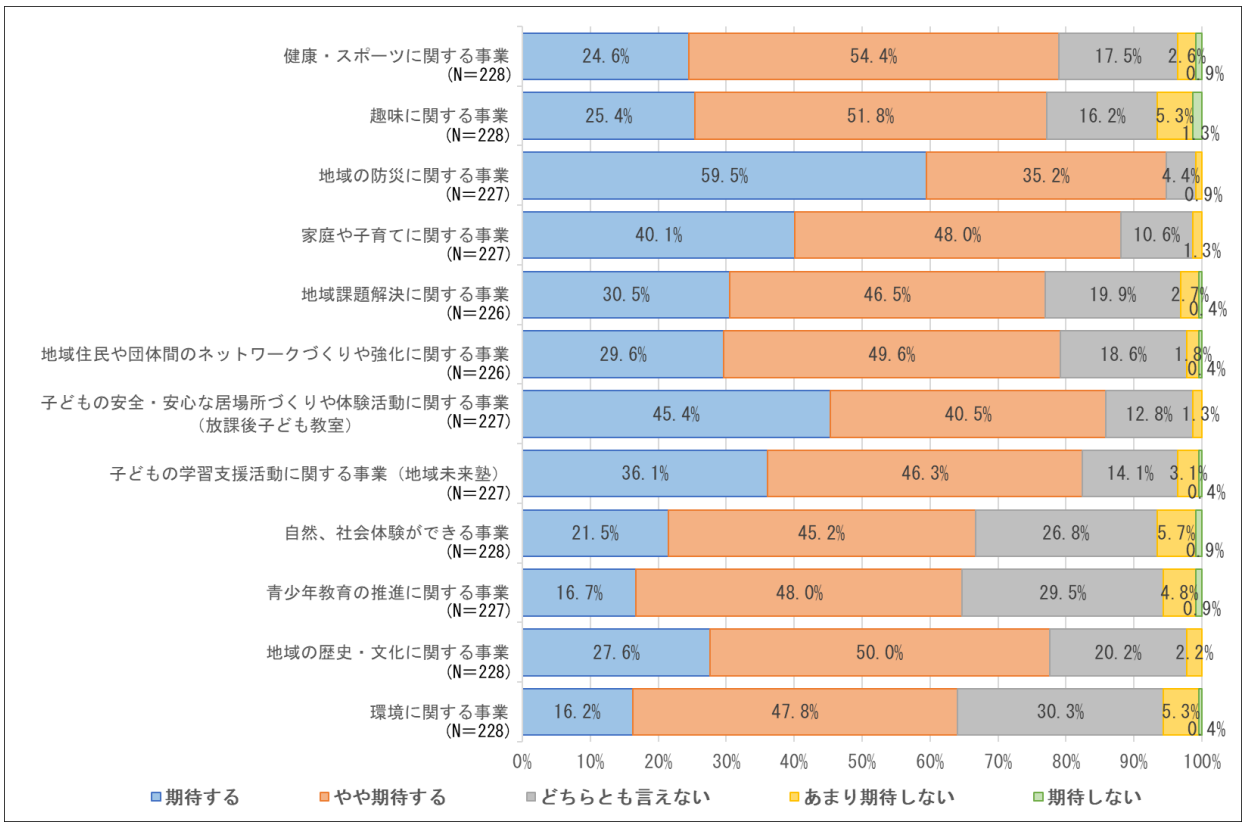
図表５－９　公民館の利用環境に対する満足度（所属する中学校の地区別）

（３）中学校教員が公民館に期待する事業

【結果概要】

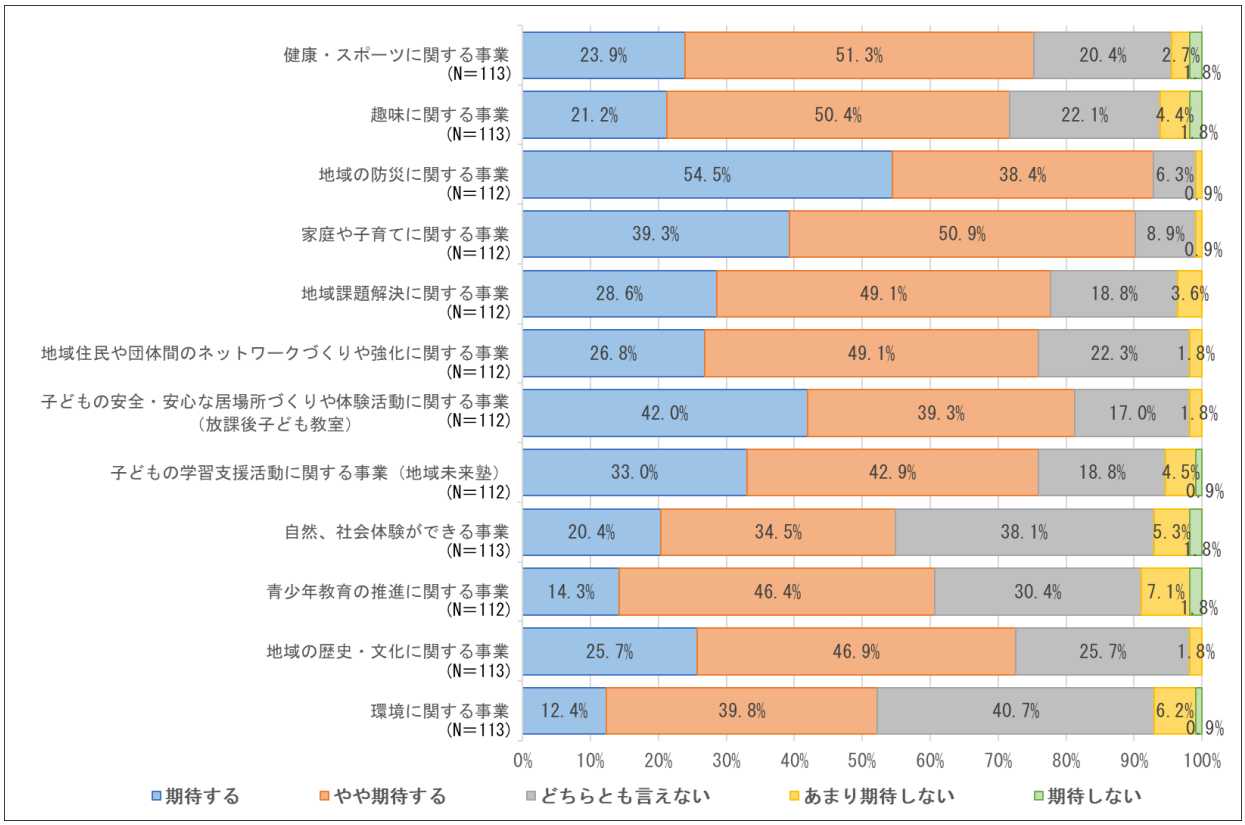
- 男女別、年齢別、所属する中学校の地区別に関係無く、地域の防災に関する事業に対する期待が最も高くなりました。（図表 5-10、5-11、5-12、5-13、5-14、5-15、5-16、5-17、5-18 参照）
- 50 歳以上において、分野を問わず総じて公民館事業に対する期待が高くなりました。（図表 5-15 参照）
- 所属する中学校の地区別にみると、すべての地区を通じて概ね同様の傾向を示しました。（図表 5-16，5-17，5-18 参照）

図表 5-10 によると、「地域の防災に関する事業」に対する期待が最も高くなり、次いで「子どもの安全・安心ない場所づくりや体験活動に関する事業（放課後子ども教室）」「家庭や子育てに関する事業」「子どもの学習支援活動に関する事業（地域未来塾）」に対する期待が高くなりました。

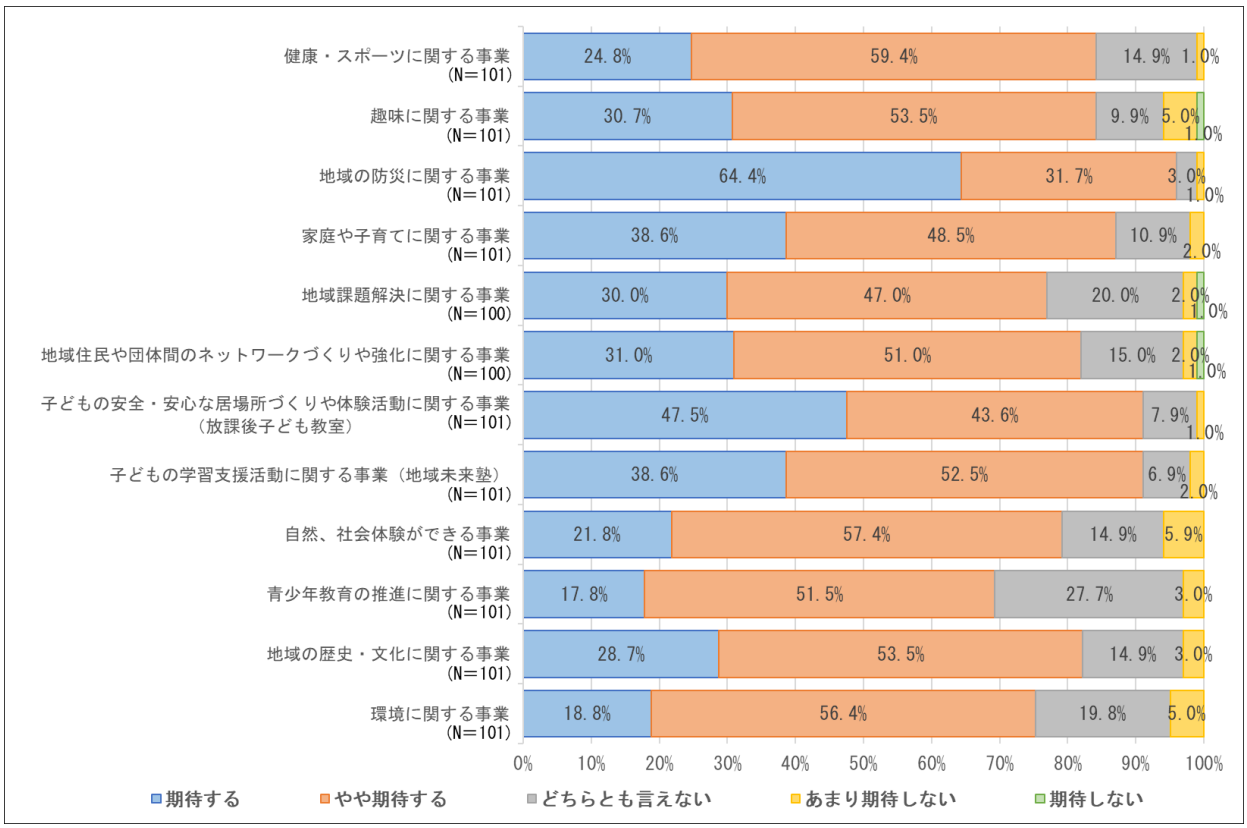


図表５－１０　公民館における事業別期待度（単純集計）

図表 5-11、5-12 によると、男女ともに「地域の防災に関する事業」に対する期待が最も高くなり、次いで「子どもの安全・安心ない場所づくりや体験活動に関する事業（放課後子ども教室）」に対する期待が高くなりました。

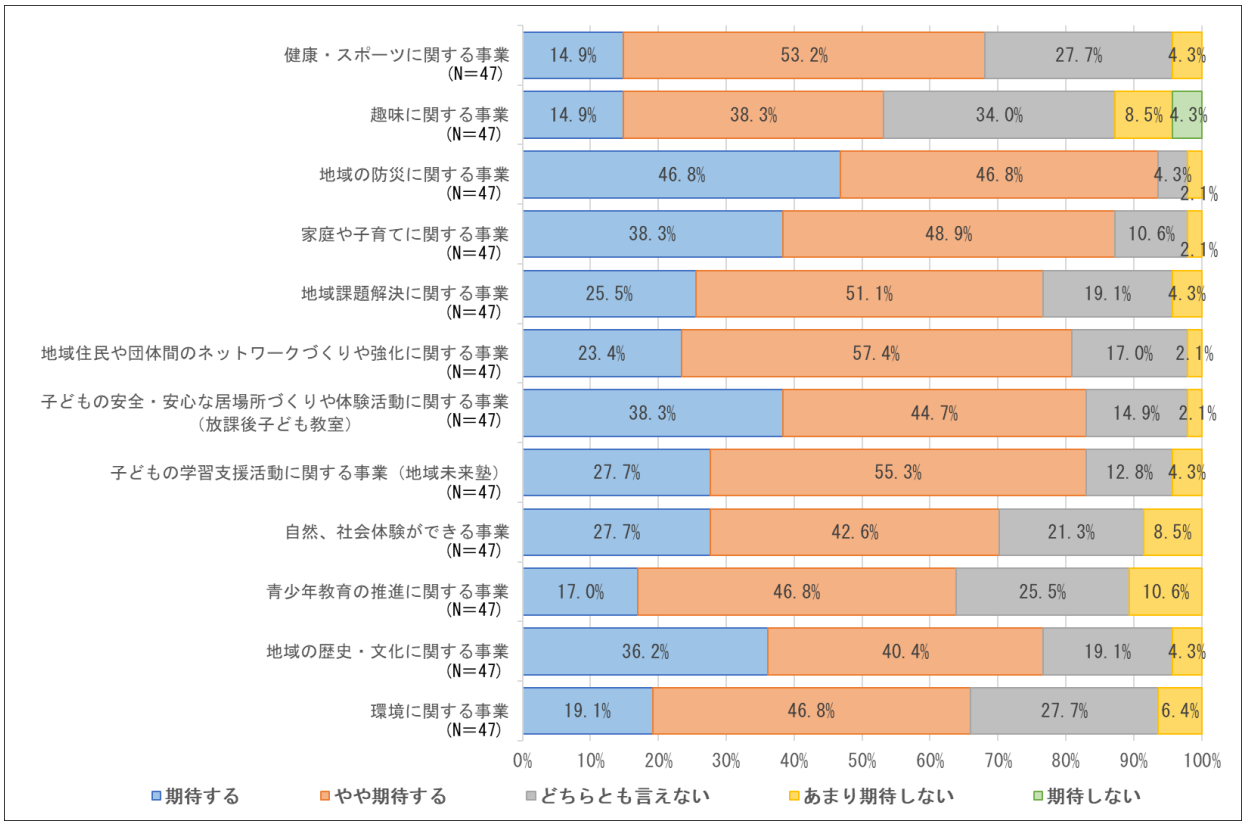


図表５－１１　公民館における事業別期待度（男性）

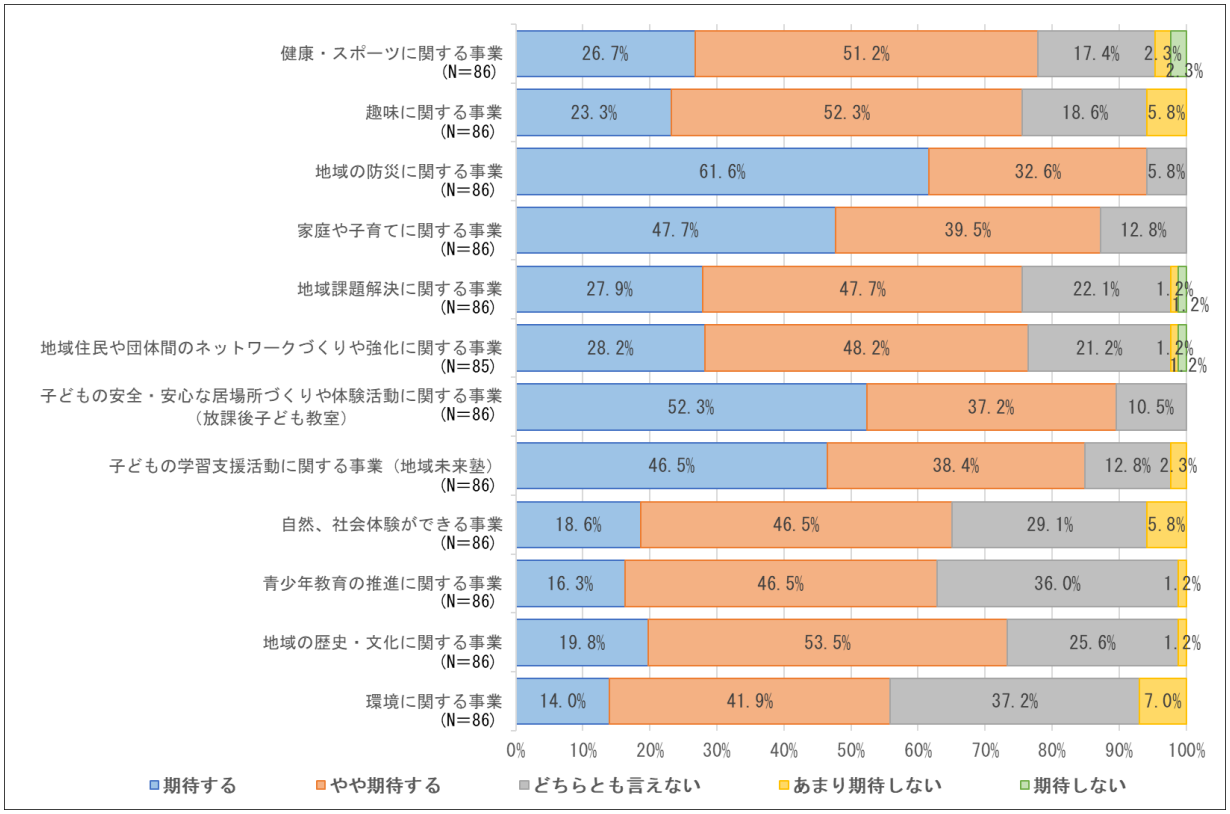


図表５－１２　公民館における事業別期待度（女性）

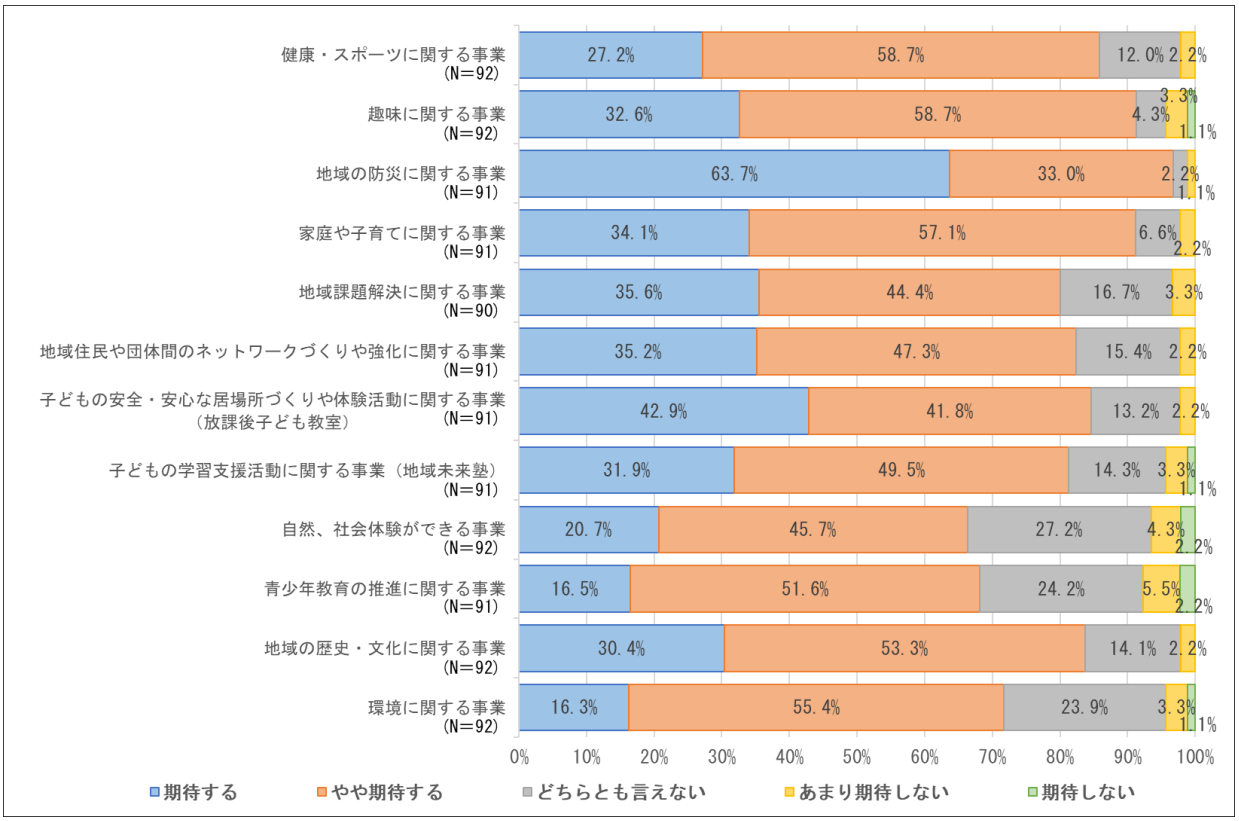
図表 5-13、5-14、5-15 によると、すべての年齢で「地域の防災に関する事業」に対する期待が最も高くなりました。また、50 歳以上では、分野に限らず幅広い事業を公民館に期待している傾向がみられました。



図表５－１３　公民館における事業別期待度（２９歳以下）

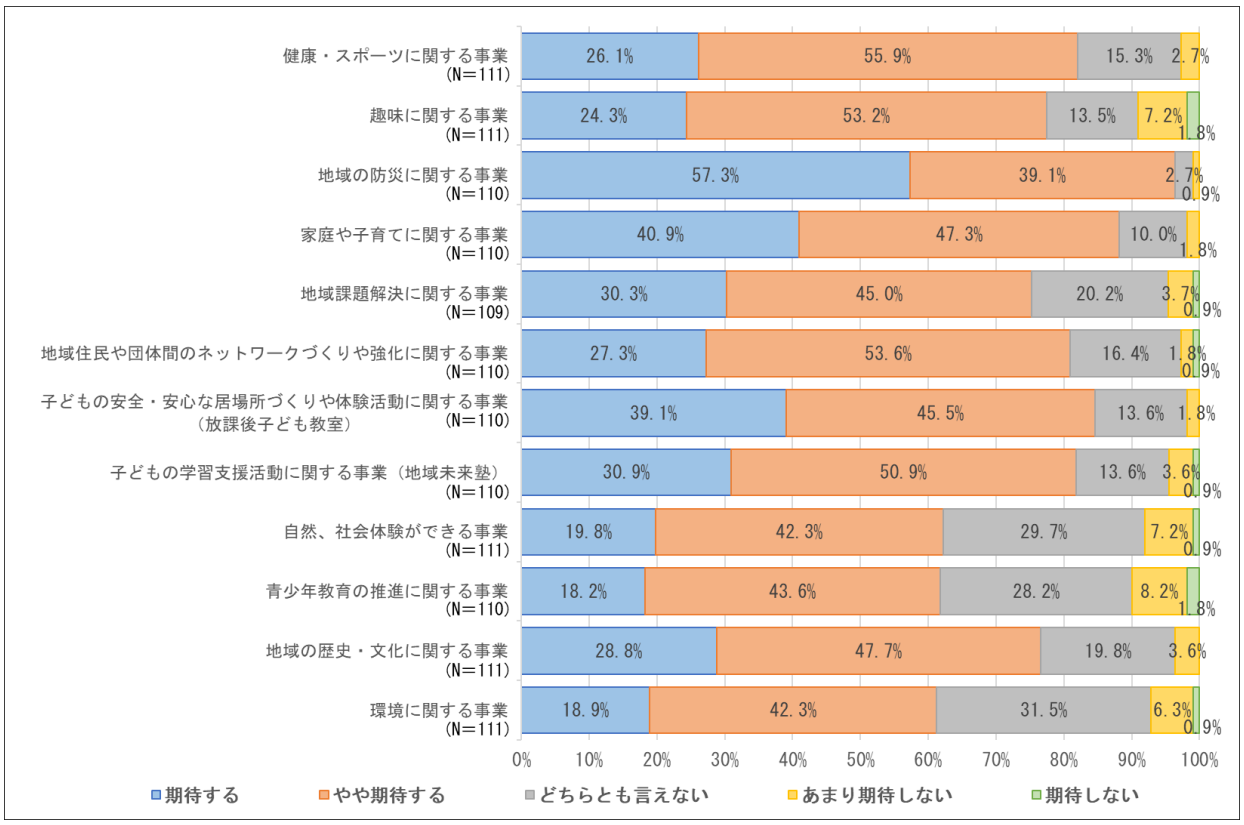


図表５－１４　公民館における事業別期待度（３０～４９歳）

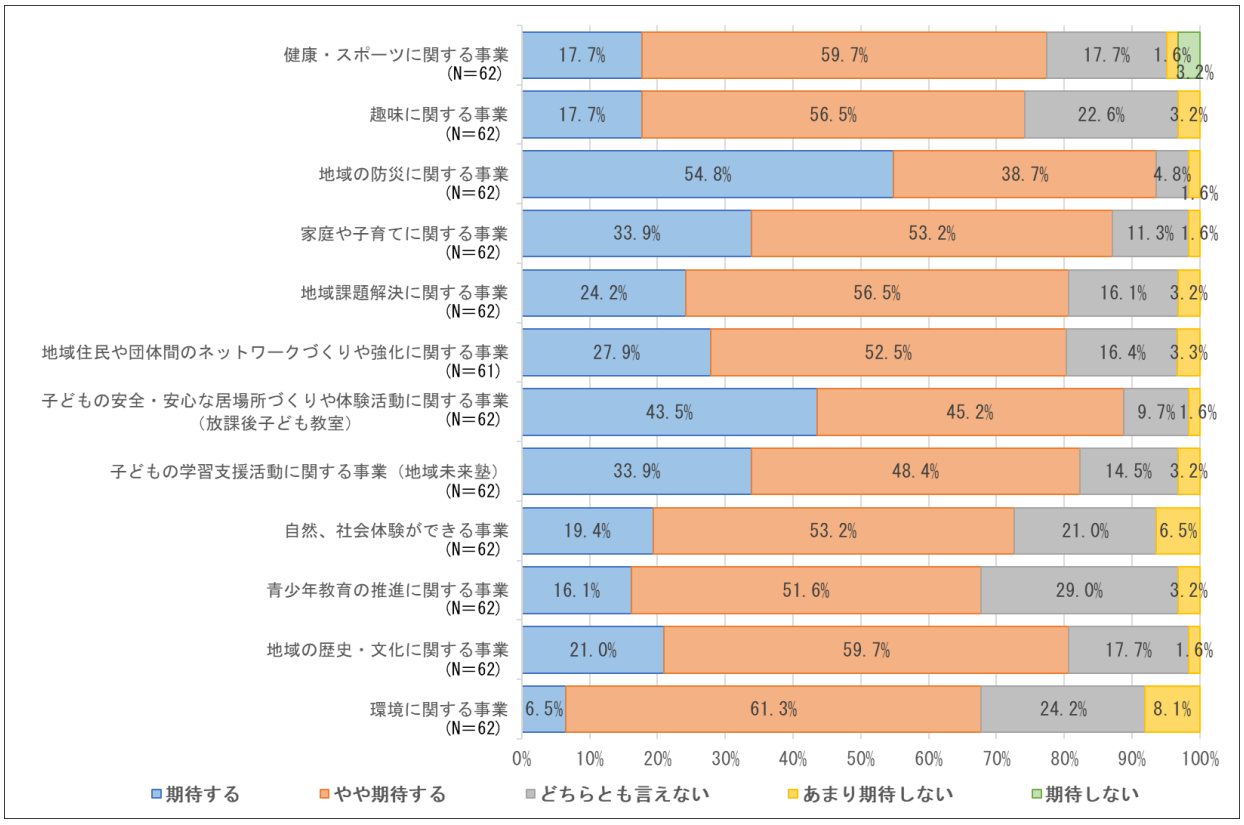


図表５－１５　公民館における事業別期待度（５０歳以上）

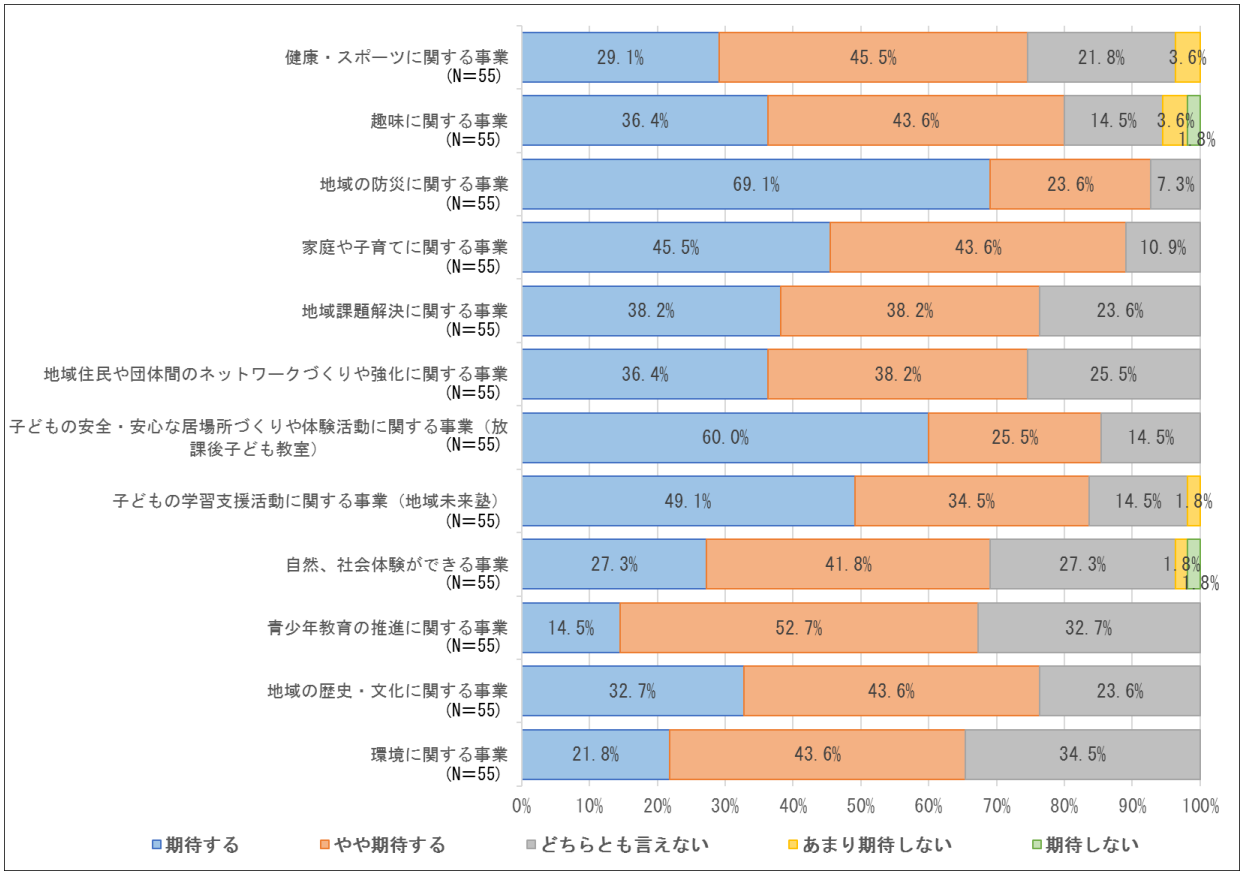
図表 5-16、5-17、5-18 によると、すべての地区を通じて概ね同様の傾向がみられました。



図表５－１６　公民館における事業別期待度（西条地区）



図表５－１７　公民館における事業別期待度（東予地区）



図表５－１８　公民館における事業別期待度（丹原・小松地区）

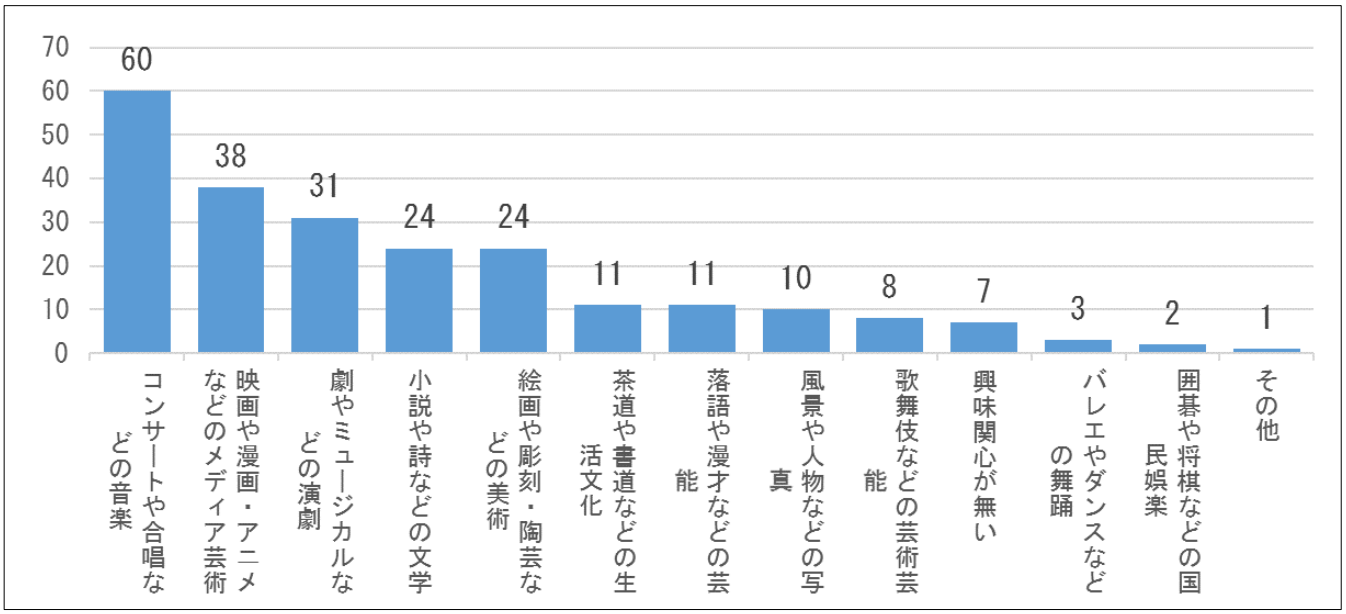
６　地域文化・歴史文化について

（１）中学校教員における芸術文化に対する興味関心

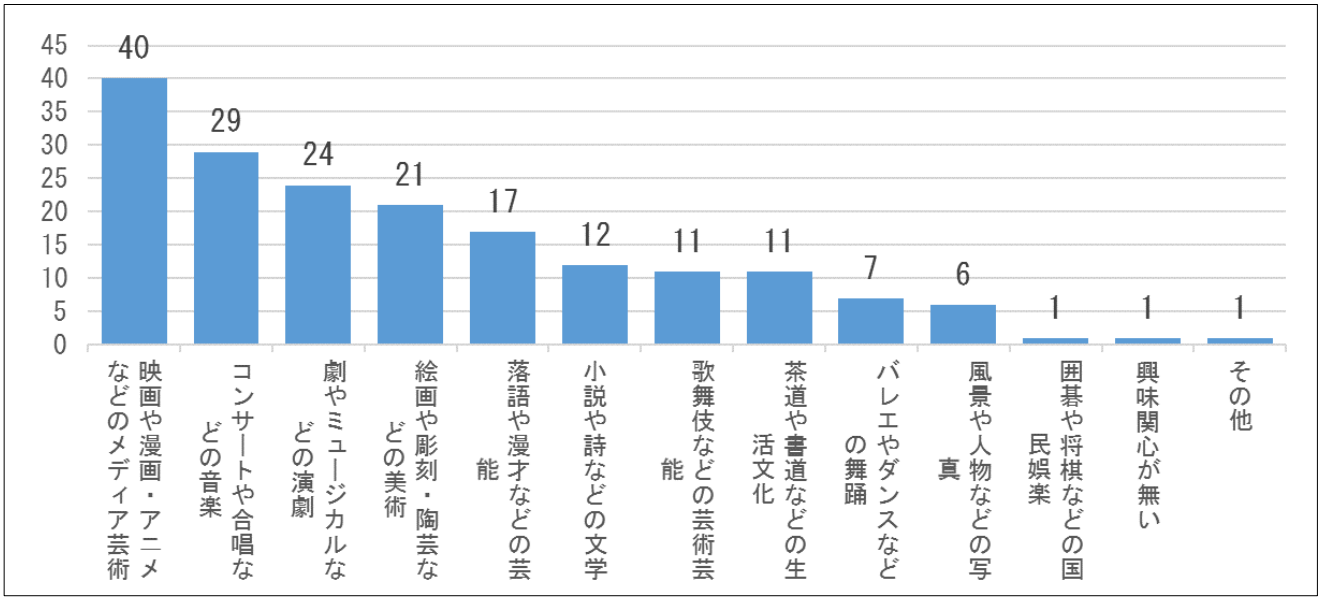
【結果概要】

- すべての年齢を通じて「コンサートや合唱などの音楽」が高くなる中、若い年齢を中心に「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」が高くなる傾向がみられました。（図表 6-3、6-4 参照）
- 所属する中学校の地区によって、興味関心を抱く項目に差異が生じています。（図表 6-5 参照）

図表 6-1 によると、「コンサートや合唱などの音楽」と回答した方が最も多くなり、次いで「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」「劇やミュージカルなどの演劇」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-2 によると、第 2 選択でも同じく「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した方が最も多くなり、次いで「コンサートや合唱などの音楽」「劇やミュージカルなどの演劇」と回答した方が多くなりました。

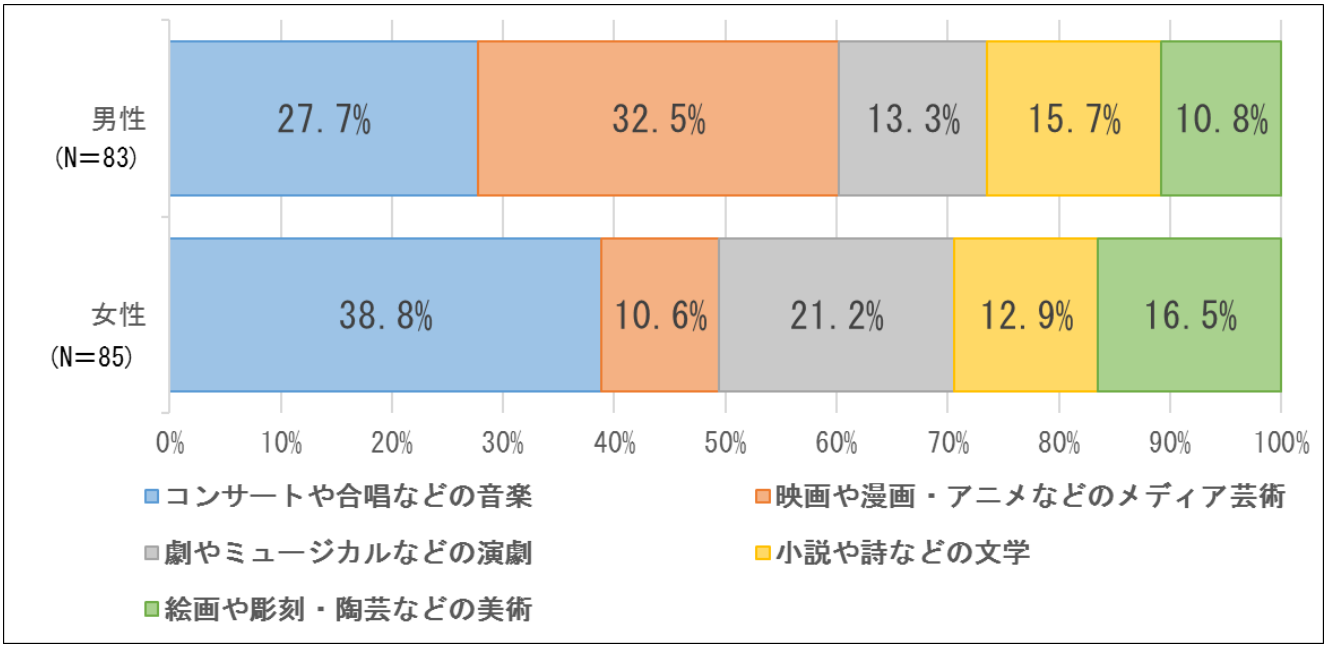


図表６－１　芸術文化に対する興味関心（第１選択・単純集計）（Ｎ＝２３０）



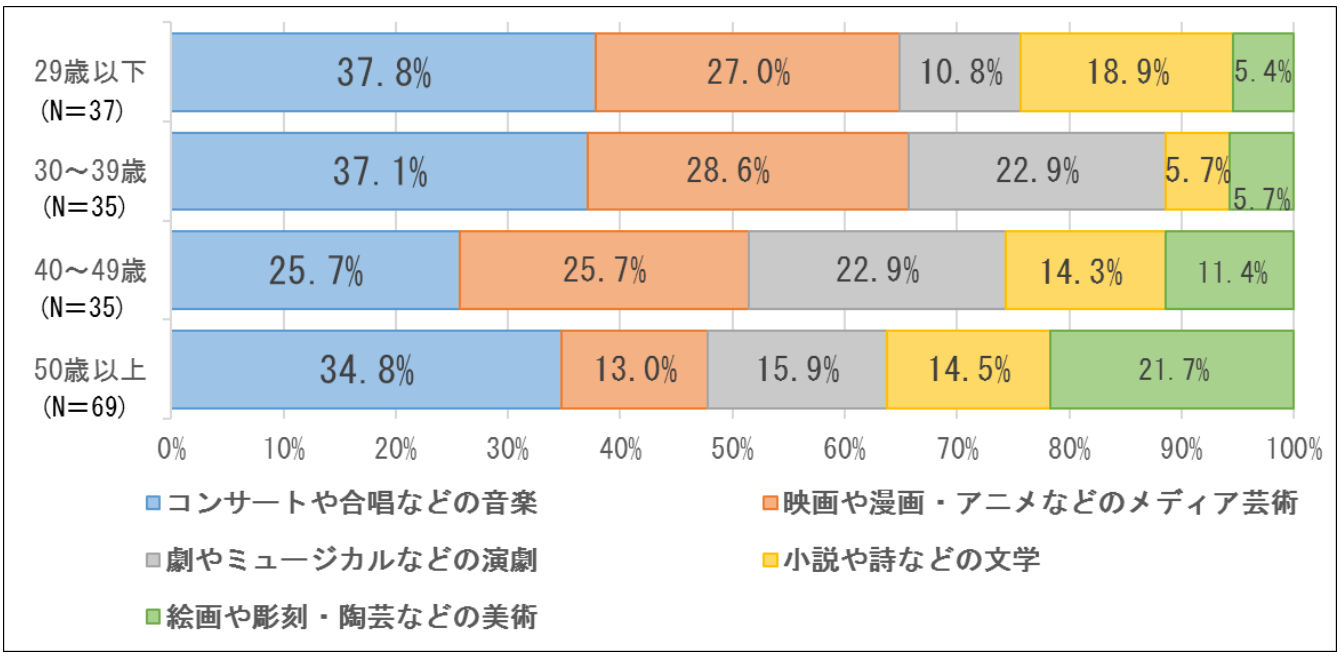
図表６－２　芸術文化に対する興味関心（第２選択・単純集計）（Ｎ＝１８１）

図表 6-3 によると、男性では「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した比率が最も高くなり、女性では「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が最も高くなりました。



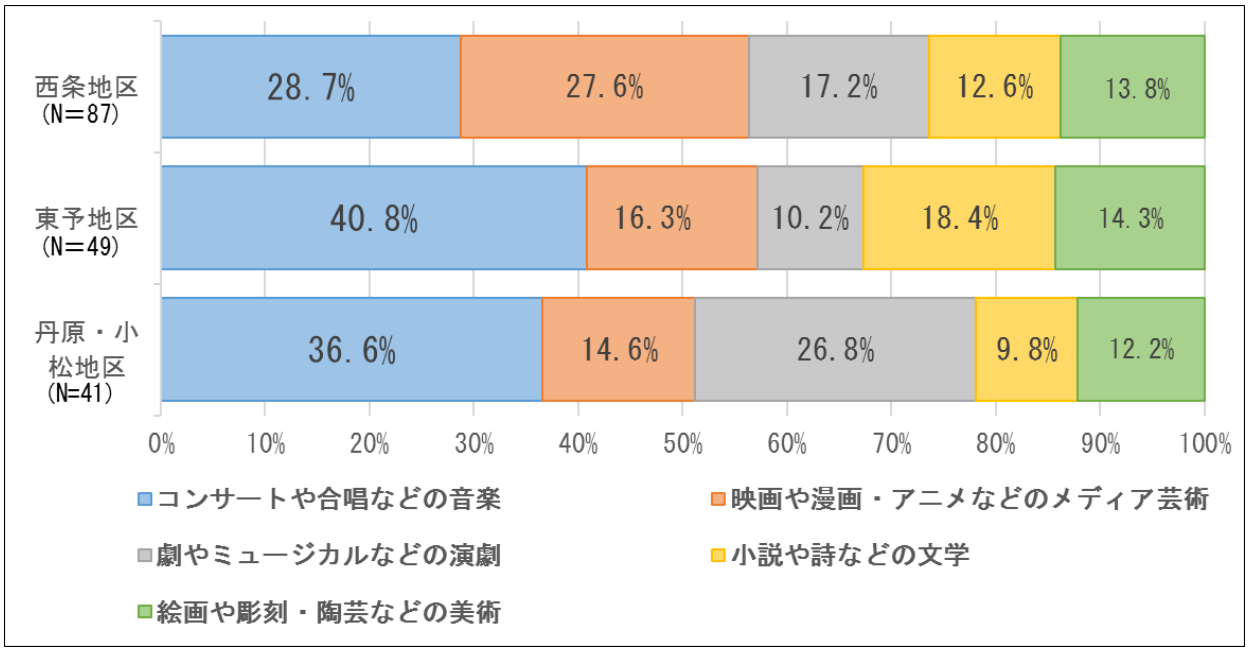
図表６－３　芸術文化に対する興味関心（第１選択上位５項目・男女別）

図表 6-4 によると、すべての年齢で「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が最も高くなる一方で、40～49 歳では「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」と回答した比率も同様に高くなりました。



図表６－４　芸術文化に対する興味関心（年齢別）

図表 6-5 によると、全地区で「コンサートや合唱などの音楽」と回答した比率が最も高くなる一方で、丹原・小松地区では「劇やミュージカルなどの演劇」と回答した比率も高くなる傾向がみられました。



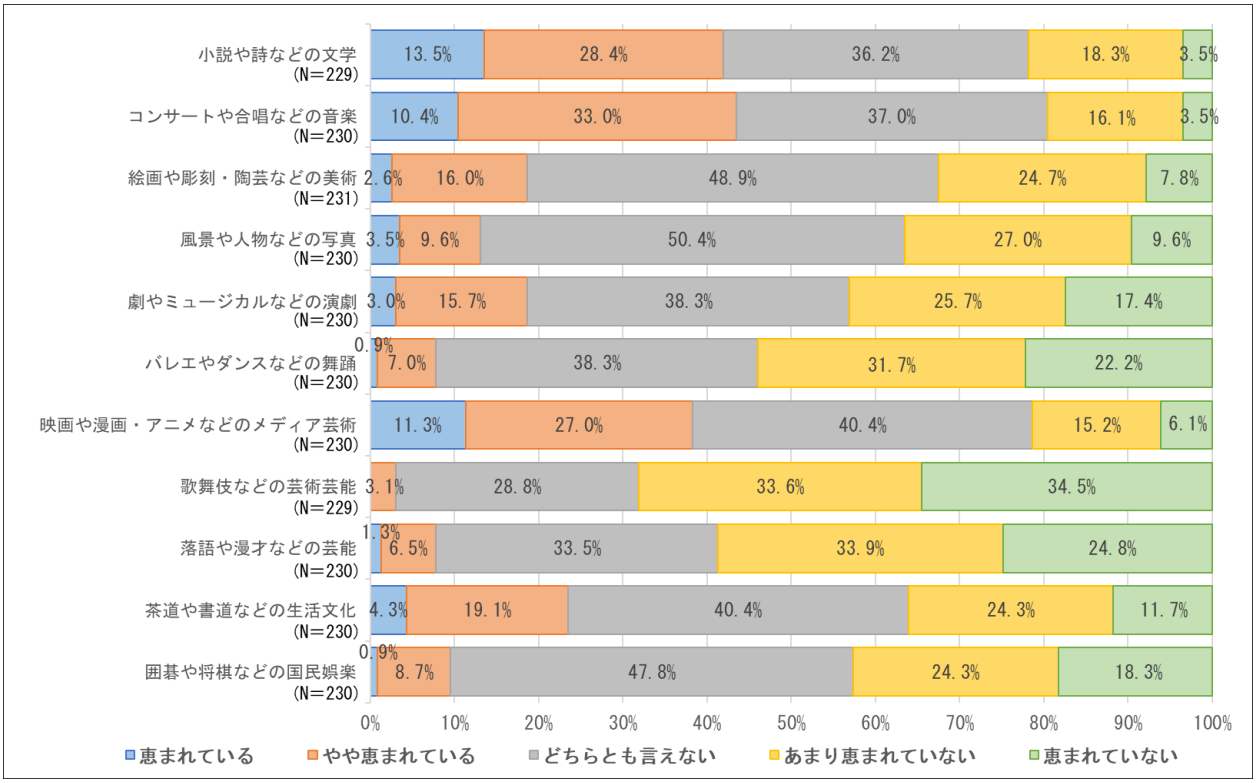
図表６－５　芸術文化に対する興味関心（所属する中学校の地区別）

（２）中学校教員における芸術文化に触れる機会の充実度

【結果概要】

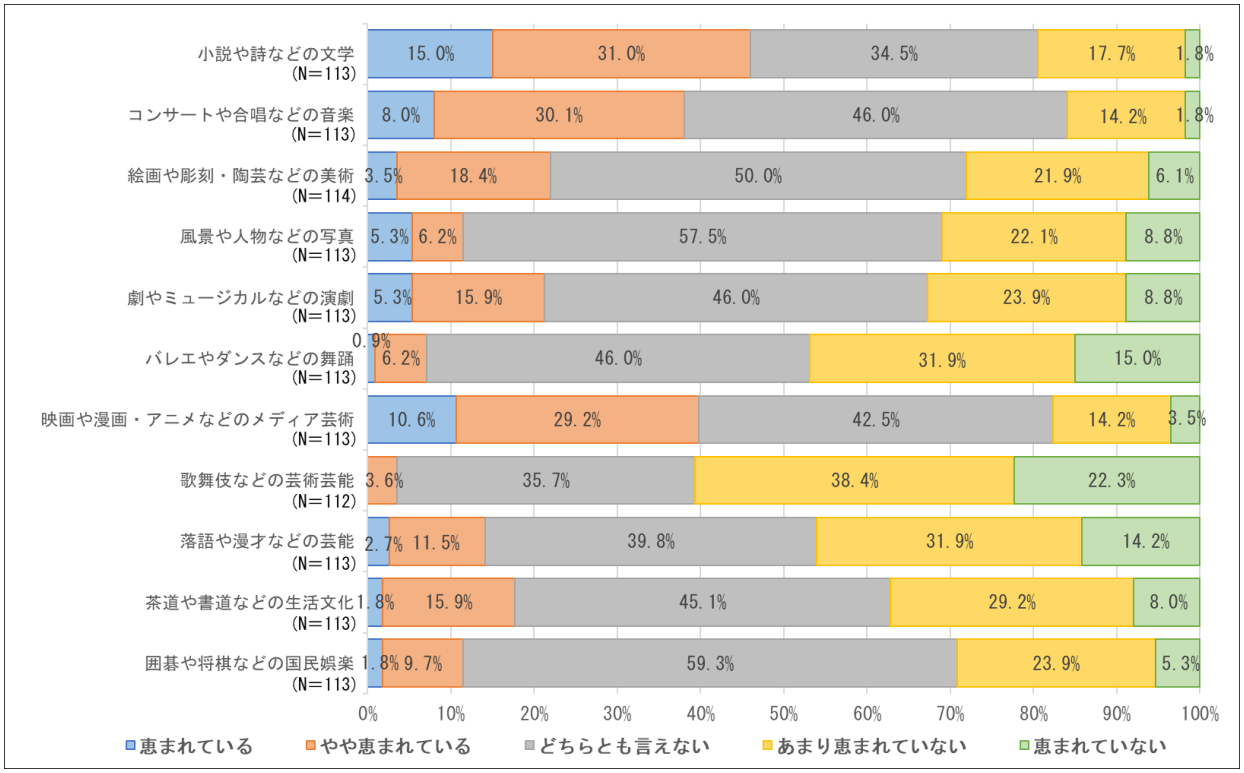
- 全体を通じて「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」「小説や詩などの文学」「コンサートや合唱などの音楽」に触れる機会の充実度が高くなりました。（図表 6-6、6-7、6-8、6-9、6-10、6-11、6-12、6-13、6-14 参照）
- 年齢別または所属する中学校の地区別にみると、最も触れる機会が充実していると回答した項目に差異がみられました。（図表 6-9、6-10、6-11、6-12、6-13、6-14 参照）

図表 6-6 によると、「小説や詩などの文学」「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」「コンサートや合唱などの音楽」に触れる機会の充実度が概ね同程度に高くなりました。

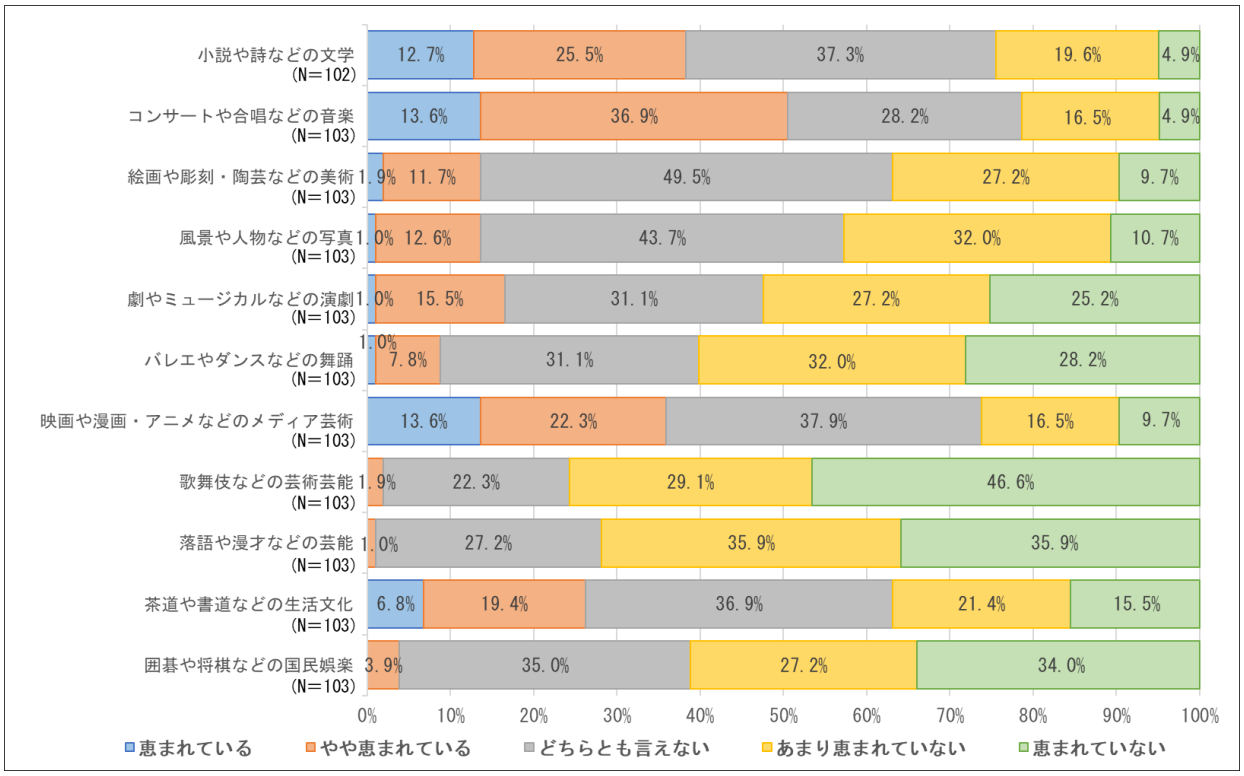


図表６－６　芸術文化に触れる機会の充実度（単純集計）

図表 6-7、6-8 によると、女性と比較して男性で「小説や詩などの文学」に触れる機会の充実度が高くなり、女性で「コンサートや合唱などの音楽」に触れる機会の充実度が高くなる傾向がみられました。

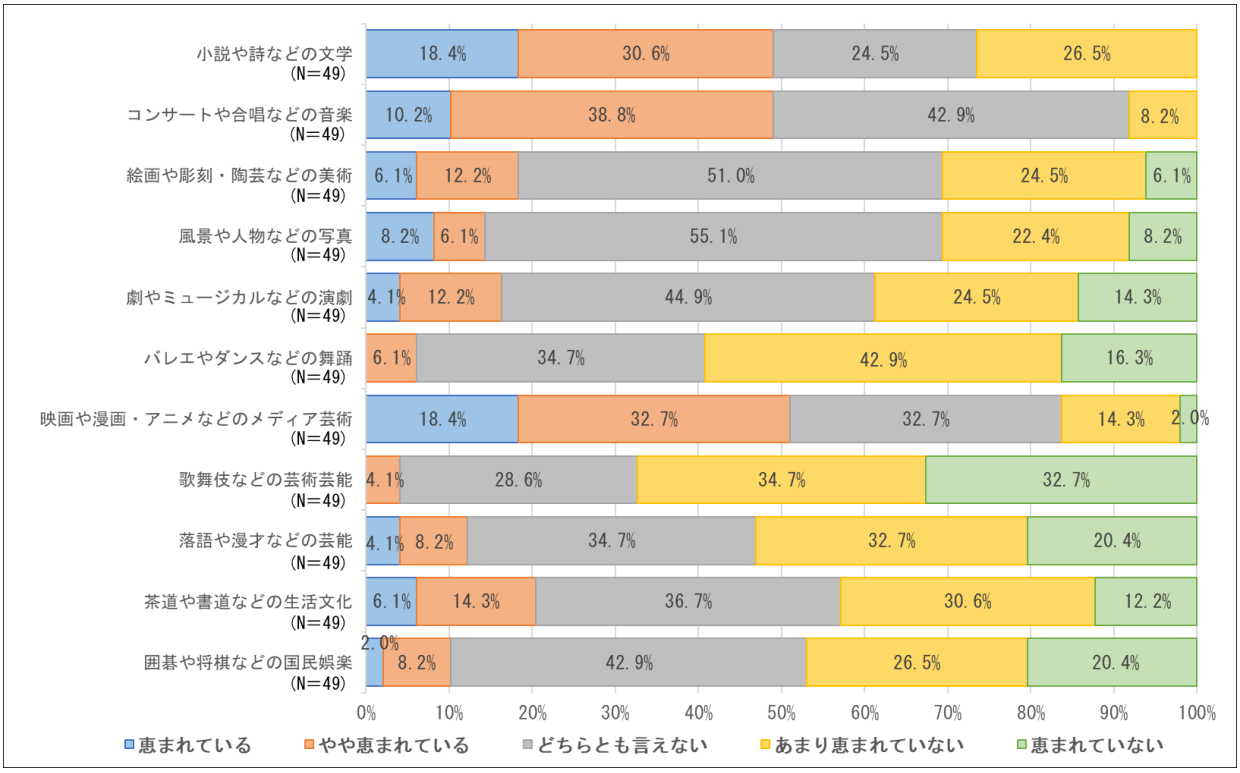


図表６－７　芸術文化に触れる機会の充実度（男性）

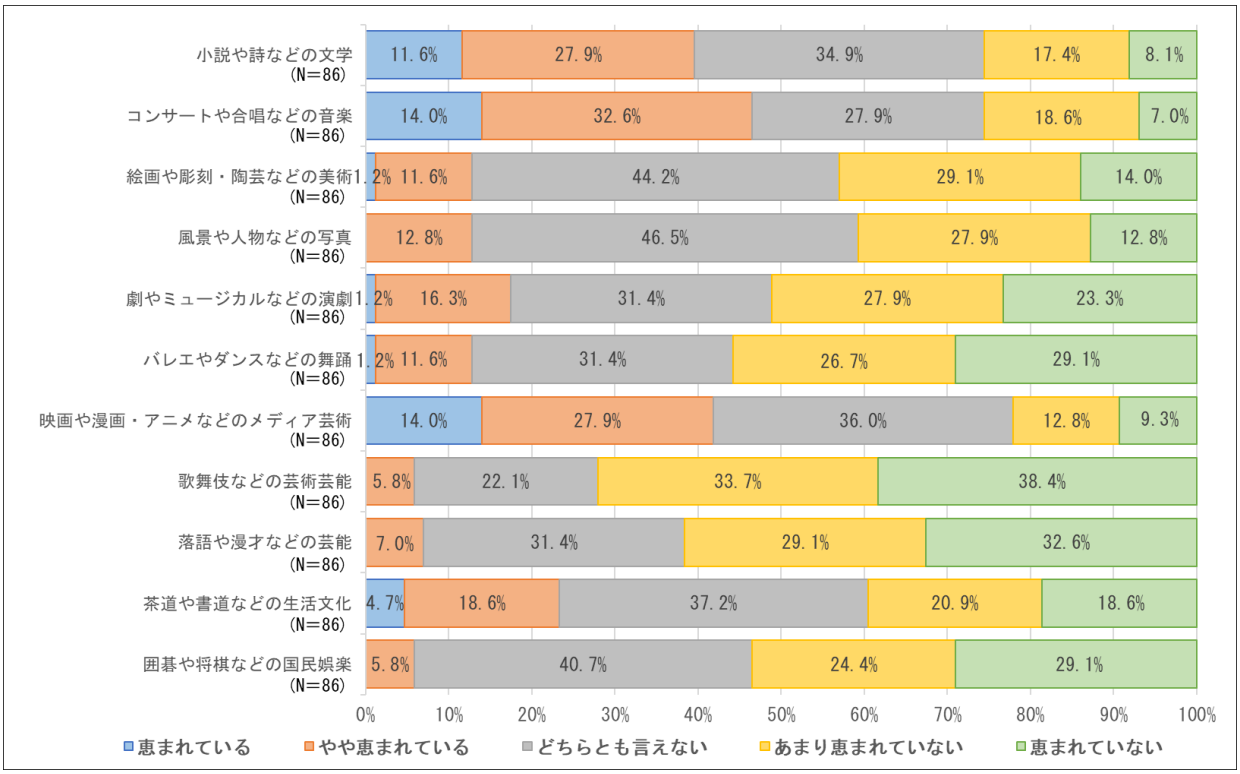


図表６－８　芸術文化に触れる機会の充実度（女性）

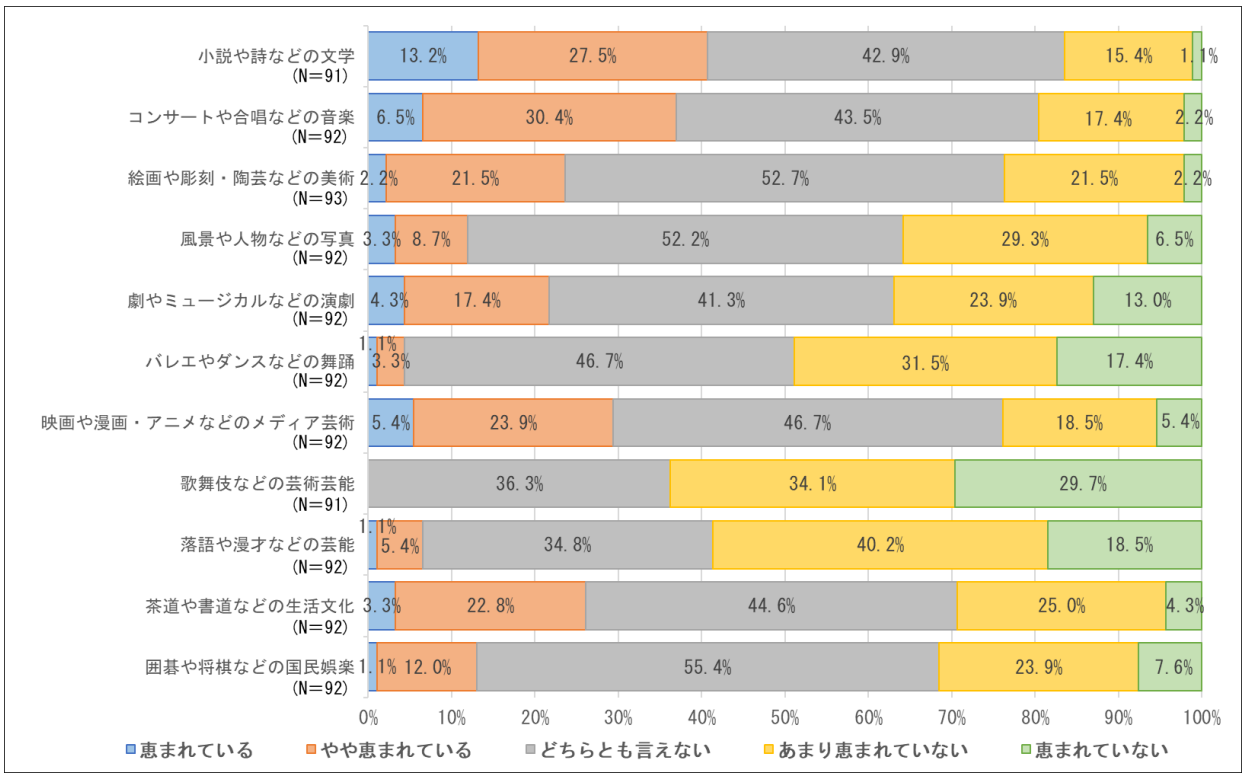
図表 6-9、6-10、6-11 によると、29 歳以下で「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」、30～49 歳では「コンサートや合唱などの音楽」、50 歳以上では「小説や詩などの文学」に触れる機会の充実度が最も高くなりました。



図表６－９　芸術文化に触れる機会の充実度（２９歳以下）

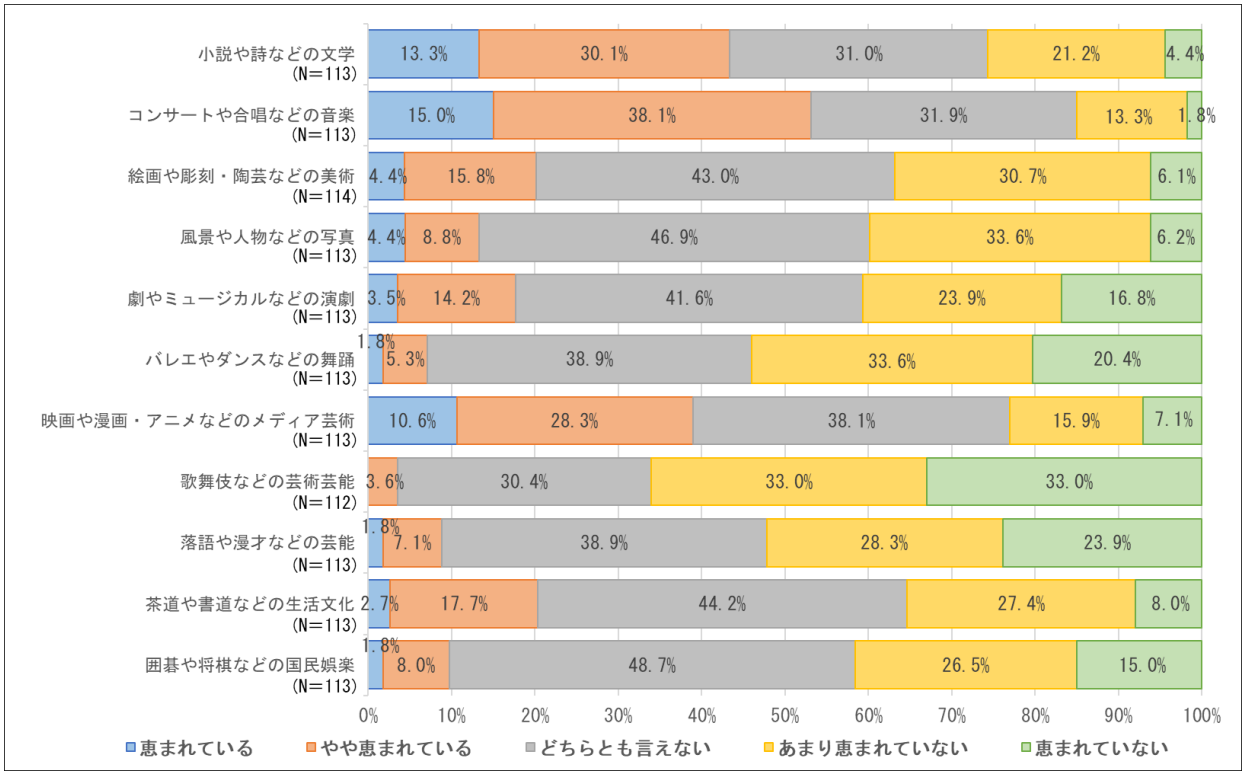


図表６－１０　芸術文化に触れる機会の充実度（３０～４９歳）

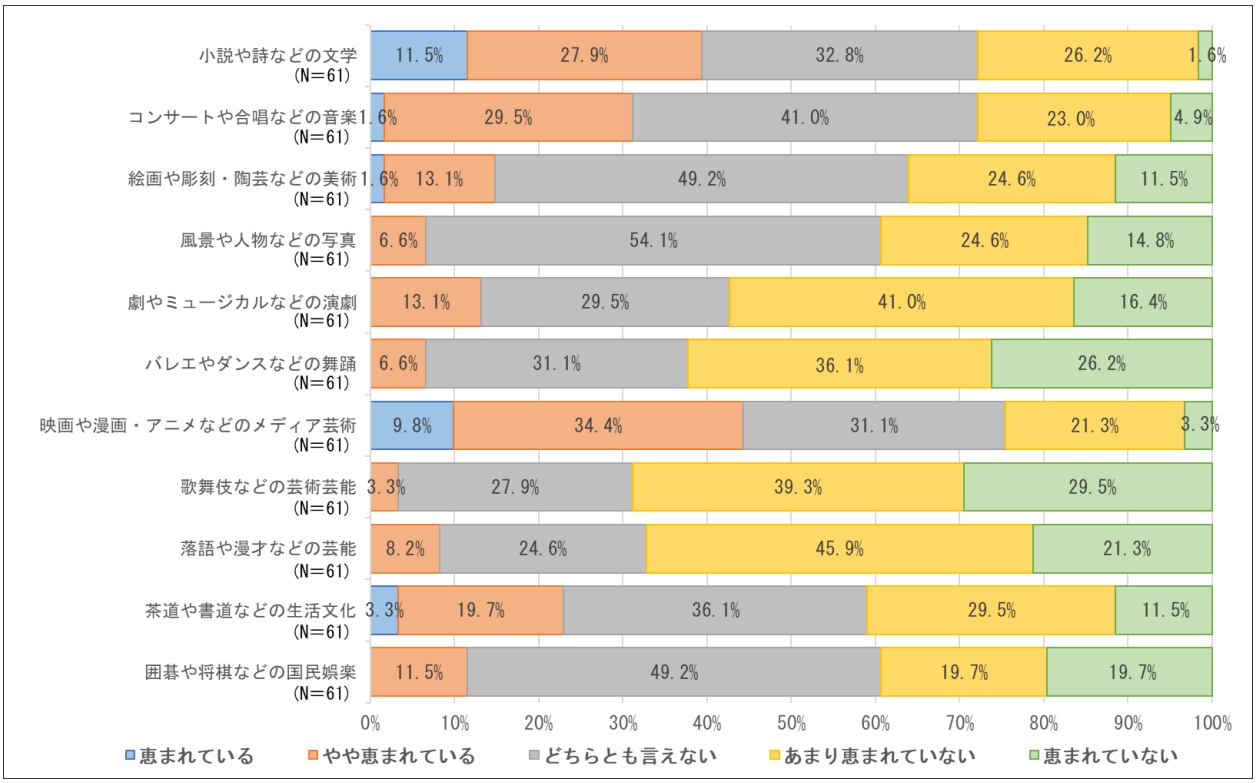


図表６－１１　芸術文化に触れる機会の充実度（５０歳以上）

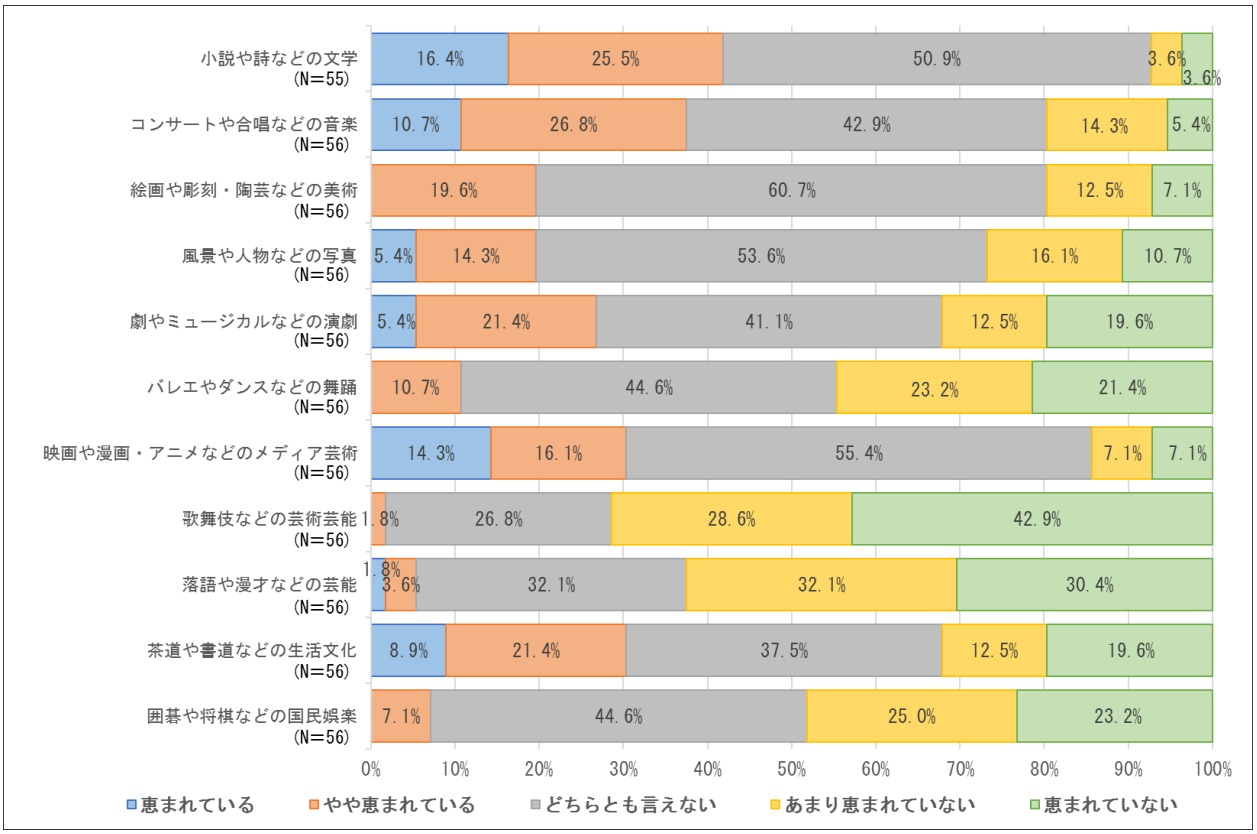
図表 6-12、6-13、6-14 によると、西条地区で「コンサートや合唱などの音楽」、東予地区で「映画や漫画・アニメなどのメディア芸術」、丹原・小松地区で「小説や詩などの文学」に触れる機会の充実度が最も高くなりました。



図表６－１２　芸術文化に触れる機会の充実度（西条地区）



図表６－１３　芸術文化に触れる機会の充実度（東予地区）



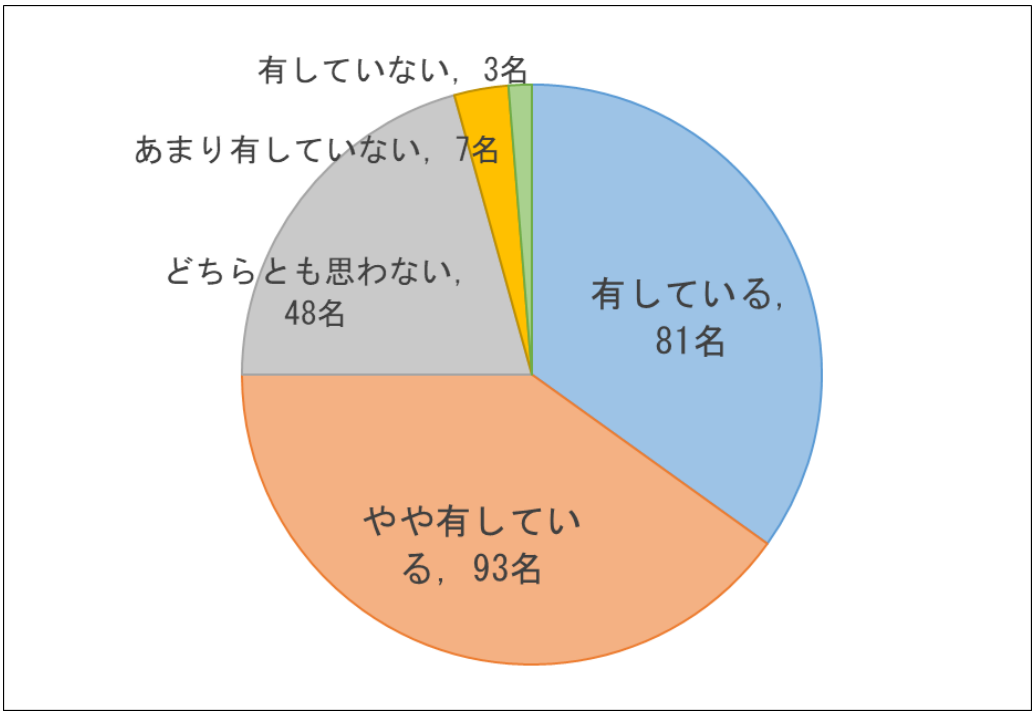
図表６－１４　芸術文化に触れる機会の充実度（丹原・小松地区）

（３）中学校教員におけるふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度

【結果概要】

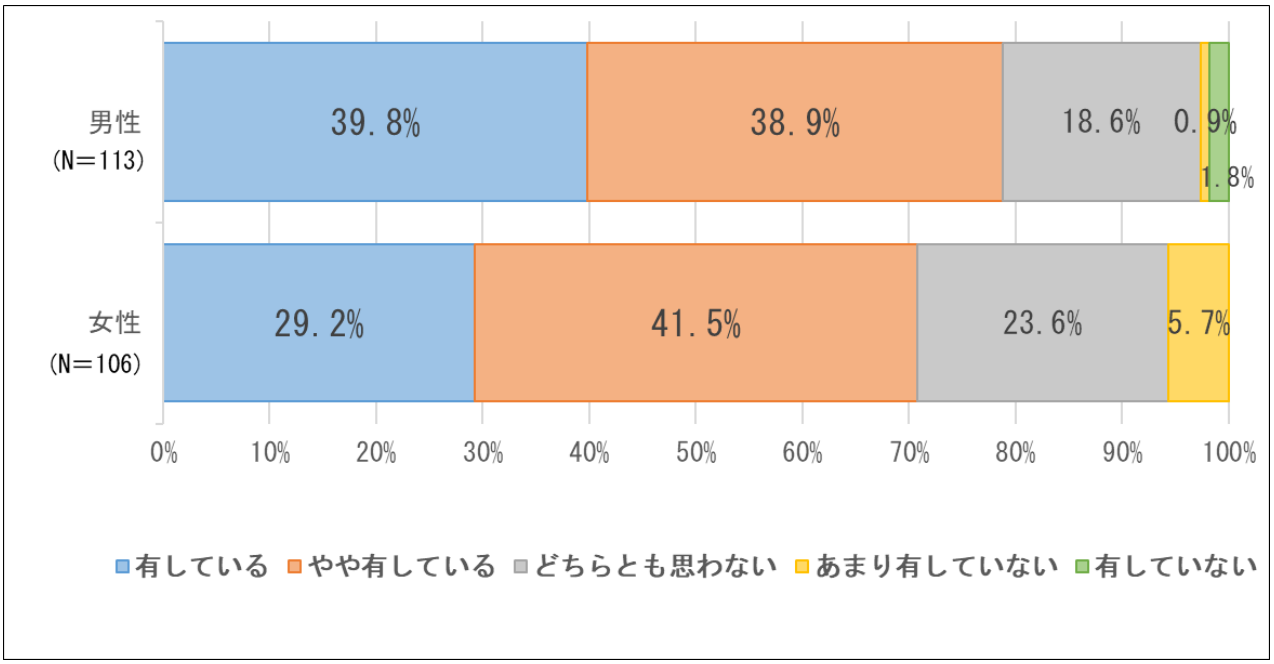
- 多くの教員がふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を有していると回答する結果となりました。（図表 6-15 参照）
- 29 歳以下において、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を「有している」「やや有している」と回答する比率が高くなる一方で、30 歳以上では、年齢が低くなるにつれて「有している」「やや有している」と回答する比率が低くなる傾向がみられました。（図表 6-17 参照）

図表 6-15 によると、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度を「有している」「やや有している」と回答した方が大半となり、「あまり有していない」「有していない」と回答した方を大きく上回りました。



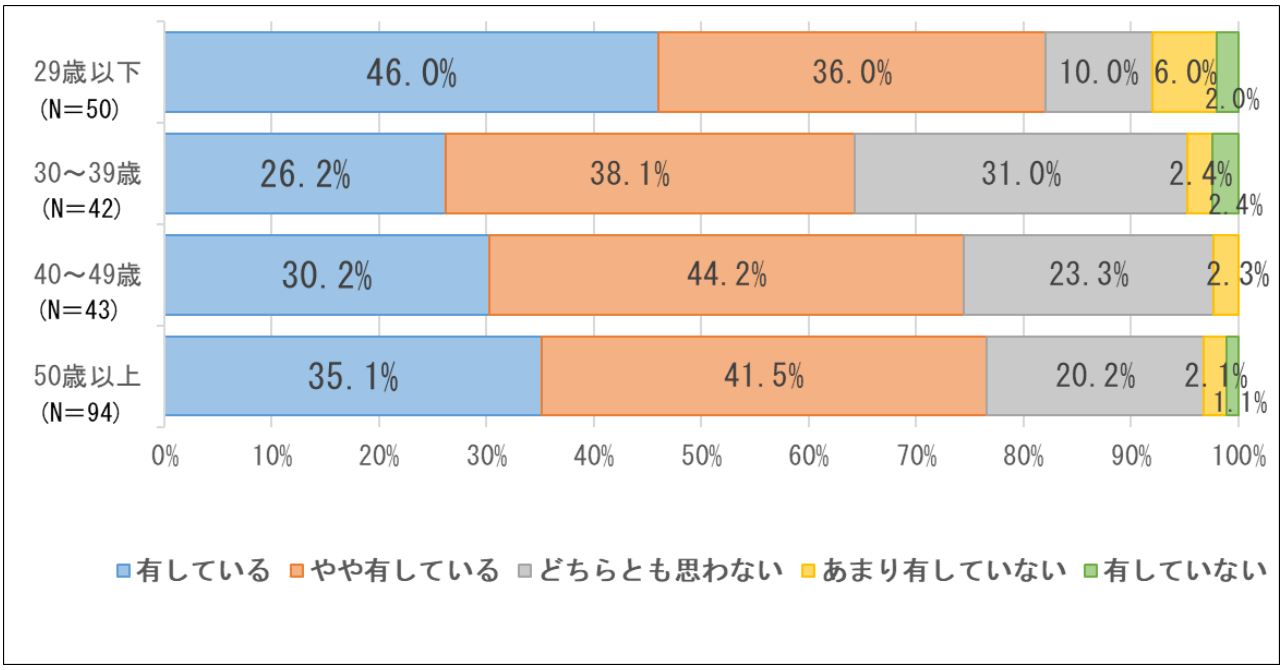
図表６－１５　ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（単純集計）（Ｎ＝２３２）

図表 6-16 によると、女性と比較して男性の方において、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を「有している」「やや有している」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



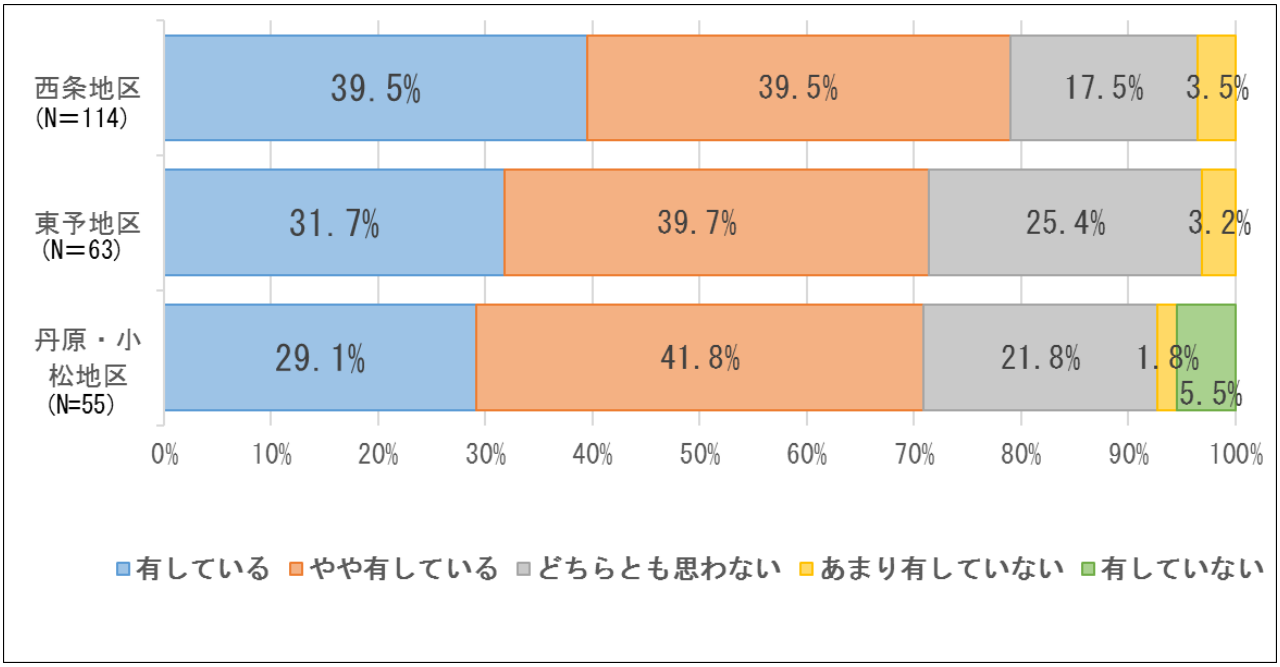
図表６－１６　ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（男女別）

図表 6-17 によると、29 歳以下において、ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着を「有している」「やや有している」と回答した比率が最も高くなる一方で、30 歳以下で「有している」「やや有している」と回答した比率が最も低くなりました。



図表６－１７　ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（年齢別）

図表 6-18 によると、丹原・小松地区で「有していない」と回答した比率が一定程度みられたものの、すべての地区を通じて大きな差異はみられませんでした。



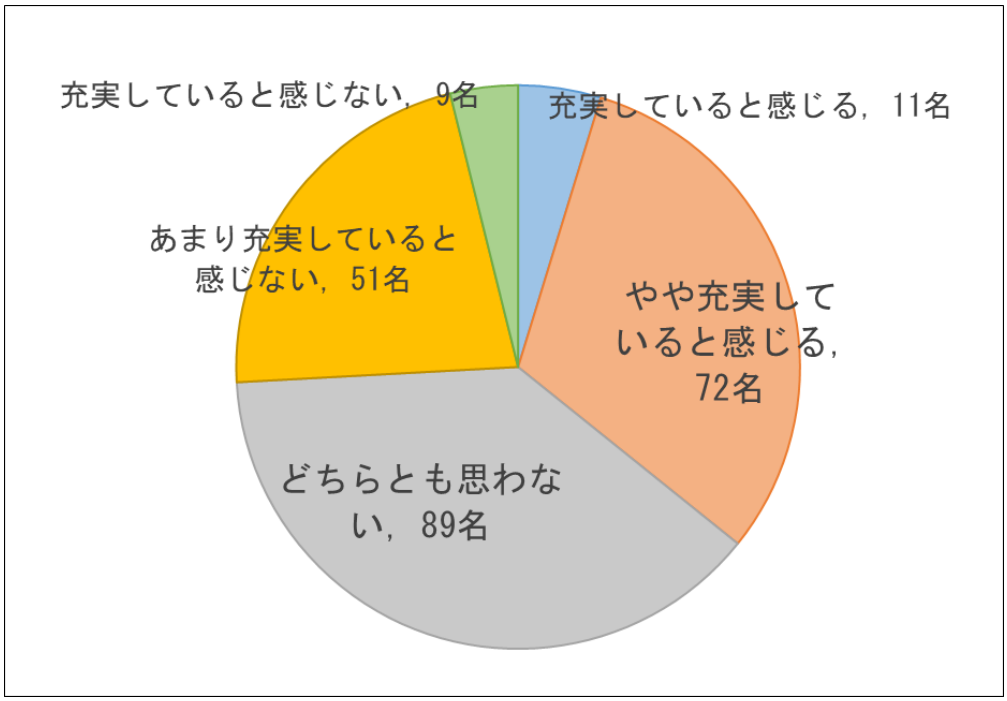
図表６－１８　ふるさとの歴史文化に対する誇りや愛着度（所属する中学校の地区別）

（４）中学校教員におけるふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度

【結果概要】

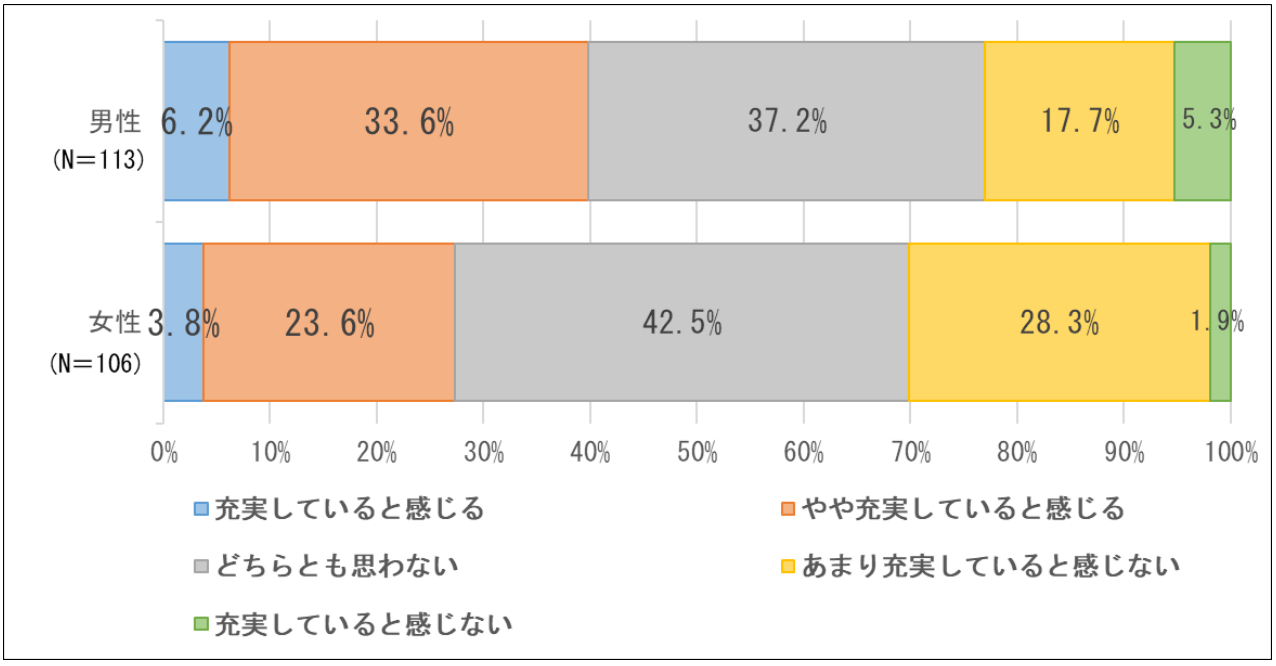
- ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していると回答した方が充実していないと感じる方を上回る結果となりました。（図表 6-19 参照）
- 年齢が低くなるにつれて、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実いていないと感じる傾向がみられました。また、29 歳以下においては充実していると感じる比率が最も高い一方で、充実していないと感じる比率についても最も高くなりました。（図表 6-21 参照）
- 地区別にみると、特に丹原・小松地区において、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していると感じる傾向がみられました。（図表 6-22 参照）

図表 6-19 によると、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した方が多くなったものの、「あまり充実していると感じない」「充実していると感じない」と回答した方も多くなりました。



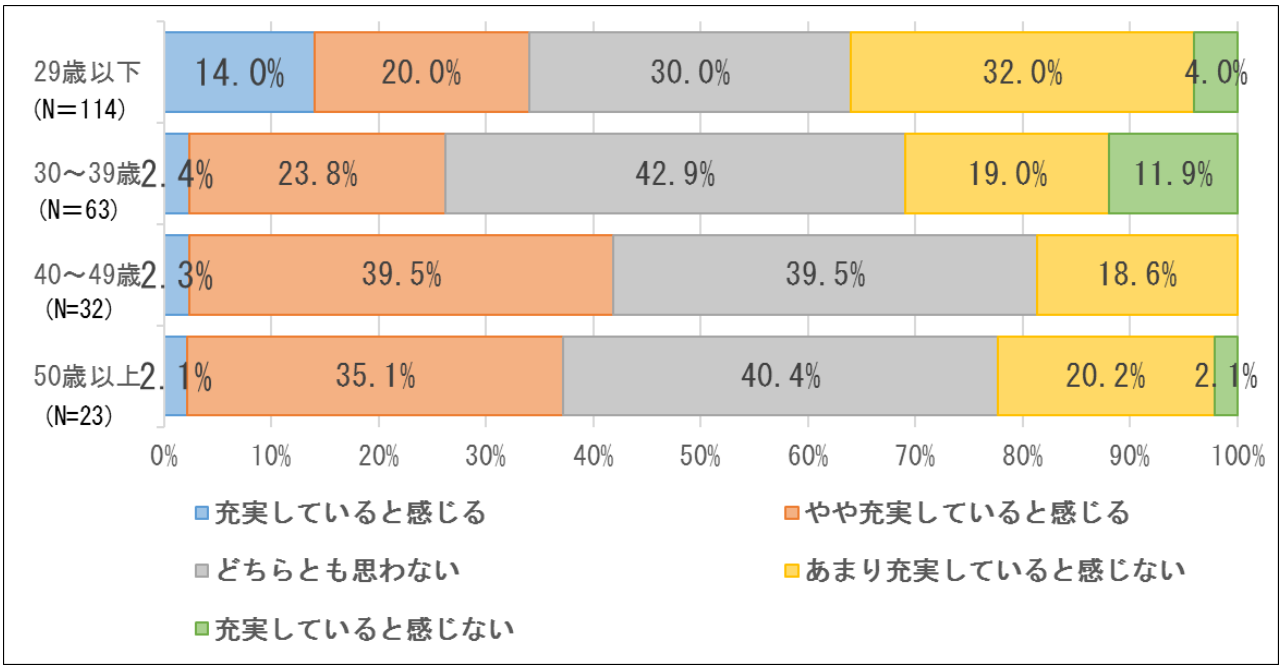
図表６－１９　ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度（単純集計）（Ｎ＝２３２）

図表 6-20 よると、女性と比較して男性において、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



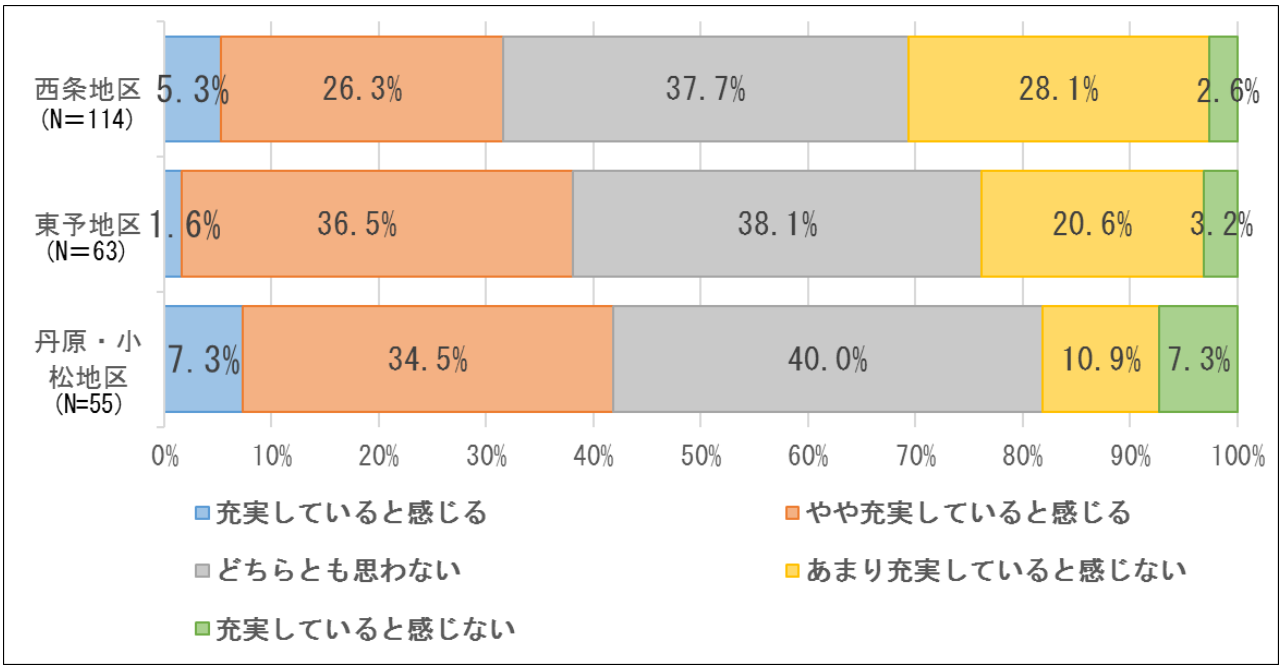
図表６－２０　ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度（男女別）

図表 6-21 によると、29 歳以下において、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」と回答した比率が最も高くなりました。一方で、30～39 歳で「充実していると感じない」と回答した比率が最も高くなりました。



図表６－２１　ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度（年齢別）

図表 6-22 によると、丹原・小松地区において、ふるさとの先人の教えに学ぶ機会が「充実していると感じる」「やや充実している」と回答した比率が最も高くなりました。一方で、西条地区においては、「充実していると感じる」「やや充実している」と「あまり充実していると感じない」「充実していると感じない」と回答した比率が同程度となりました。



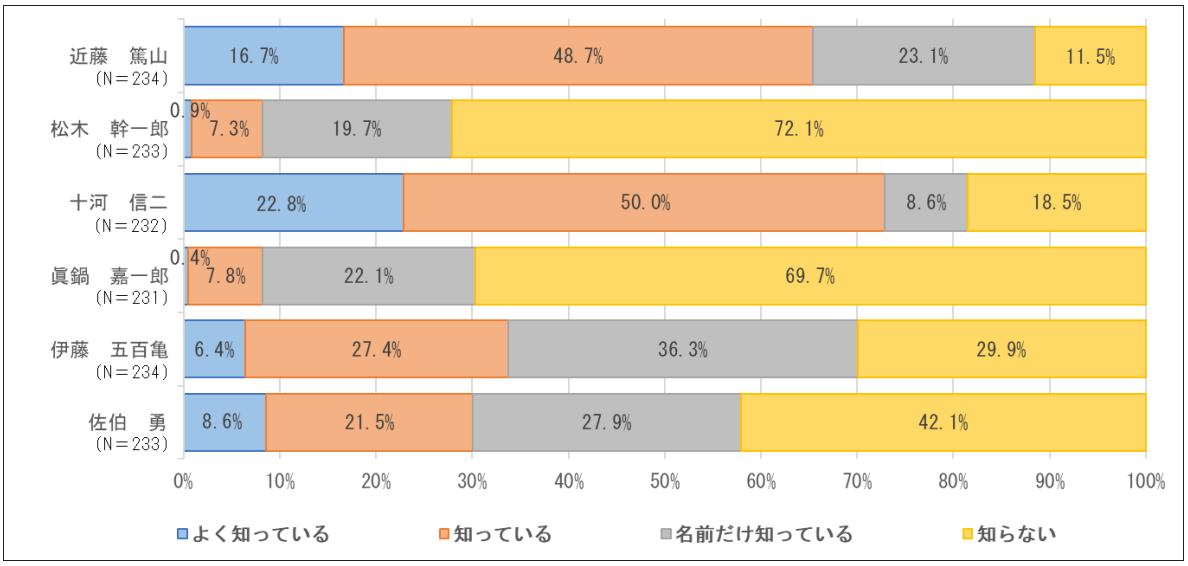
図表６－２２　ふるさとの先人の教えに学ぶ機会の充実度（所属する中学校の地区別）

（５）中学校教員におけるふるさとの先人に対する知識

【結果概要】

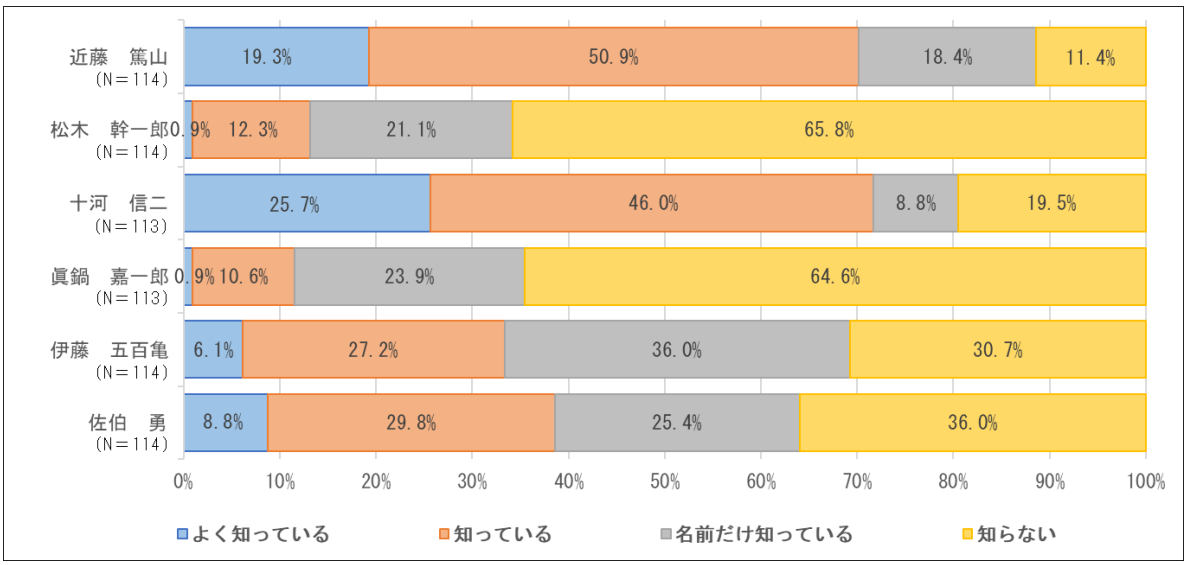
- 男女、年齢、所属する中学校の地区に関係無く、「近藤篤山」「十河信二」に対する知識を有していると回答した比率が高くなりました。（図表 6-23、6-24、6-25、6-26、6-27、6-28、6-29、6-30、6-31 参照）
- 男女別にみると、女性と比較してわずかながら男性において、先人に対する知識を有している傾向がみられました。また、年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて、先人に対する知識を有している傾向がみられました。（図表 6-24、6-25、6-26、6-27、6-28 参照）
- 所属する中学校の地区別において、当該地区と縁やゆかりのある先人に対する知識を有していると回答した比率が高くなるなど違いがみられました。（図表 6-29、6-30、6-31 参照）

図表 6-23 によると、「近藤篤山」「十河信二」に対する知識を有していると回答した比率が高くなる一方で、「松木幹一郎」「眞鍋嘉一郎」については名前も知らないと回答した方が約 7 割となりました。

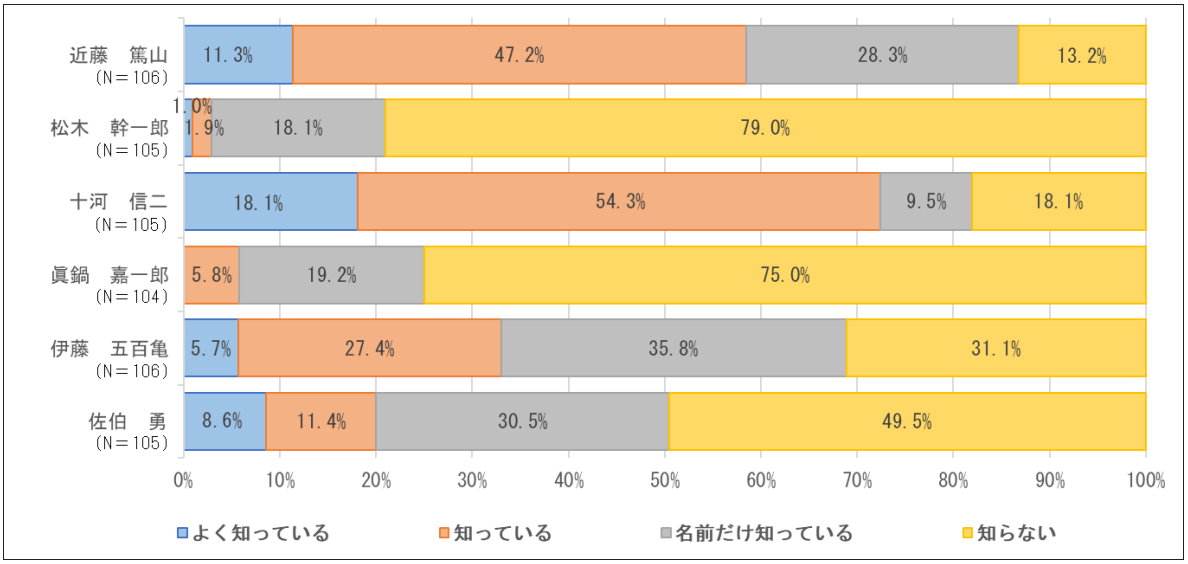


図表６－２３　ふるさとの先人に対する知識（単純集計）

図表 6-24、6-25 によると、男女別に大きな差異はみられませんが、女性と比較して男性において、ふるさとの先人に対する知識を有している傾向がみられました。

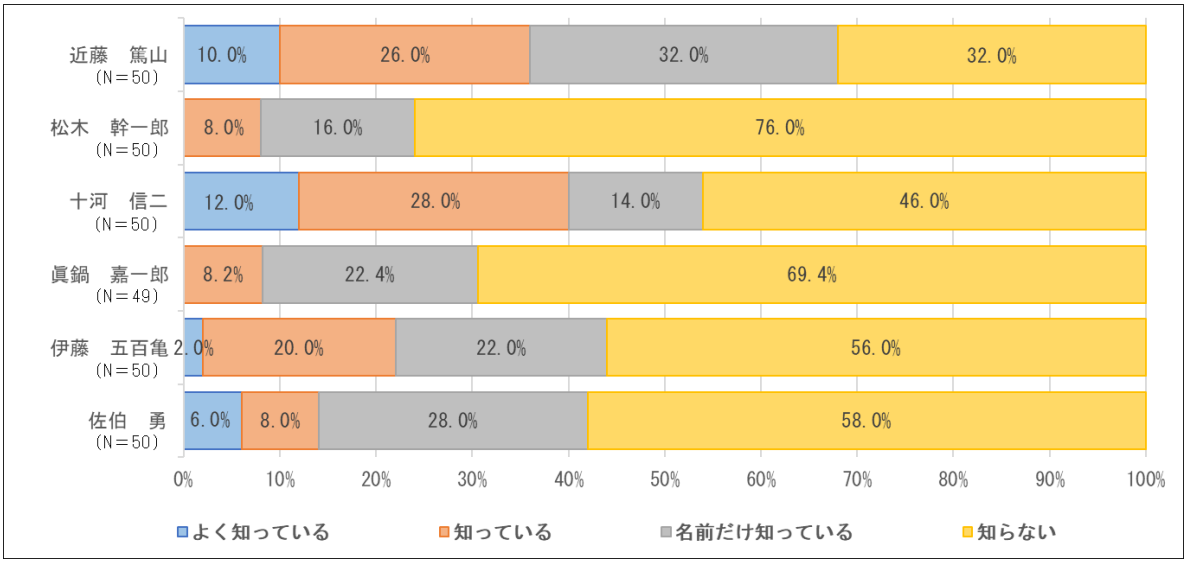


図表６－２４　ふるさとの先人に対する知識（男性）

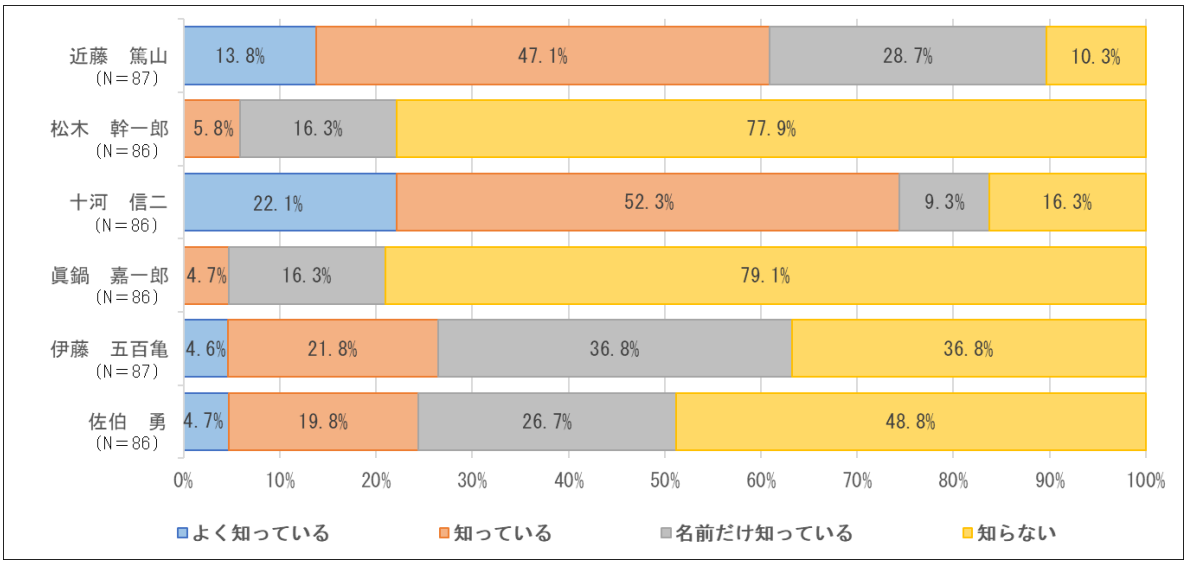


図表６－２５　ふるさとの先人に対する知識（女性）

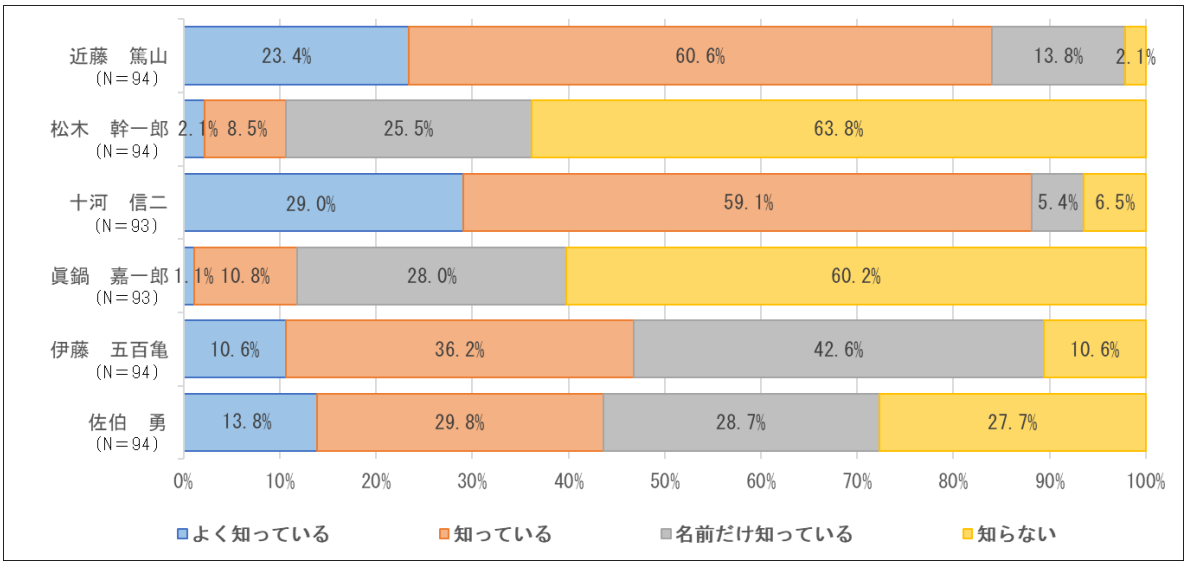
図表 6-26、6-27、6-28 によると、年齢が高くなるにつれて、ふるさとの先人に対する知識を有していると回答した比率が高くなりました。特に、「近藤篤山」「十河信二」は、50 歳以上において「よく知っている」「知っている」と回答した比率が約 8 割に至るなど、総じて知識を有していると回答した比率が高くなりました。



図表６－２６　ふるさとの先人に対する知識（２９歳以下）

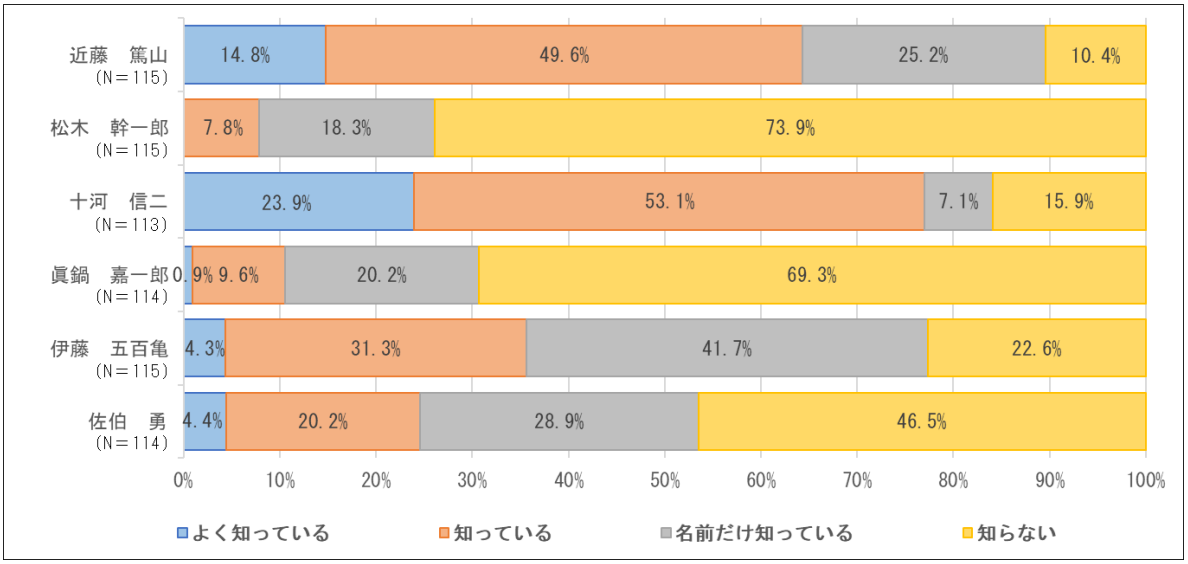


図表６－２７　ふるさとの先人に対する知識（３０～４９歳）

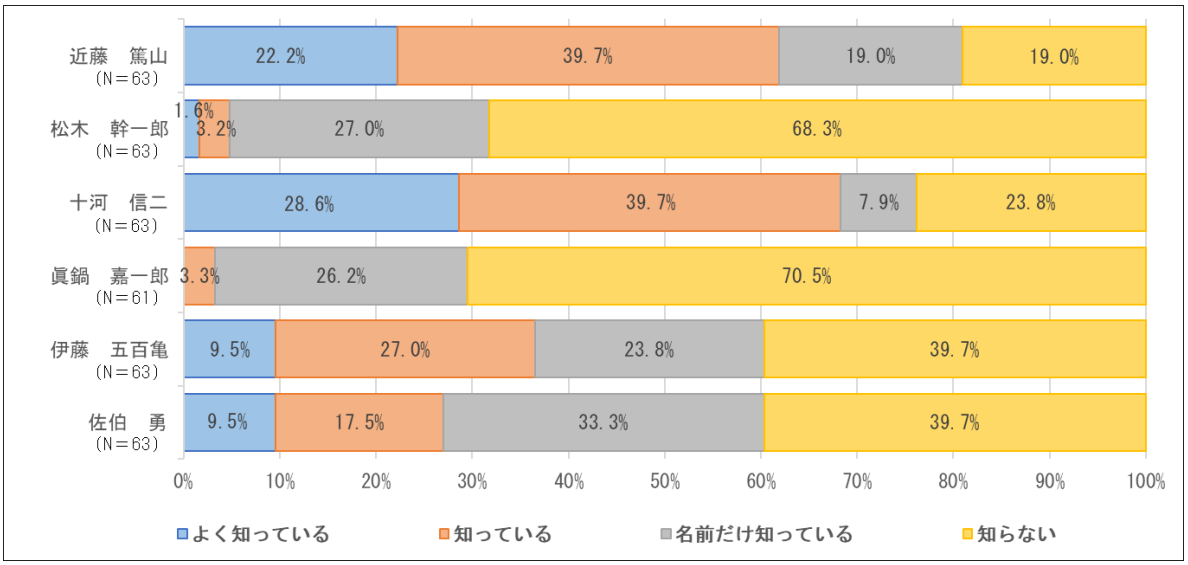


図表６－２８　ふるさとの先人に対する知識（５０歳以上）

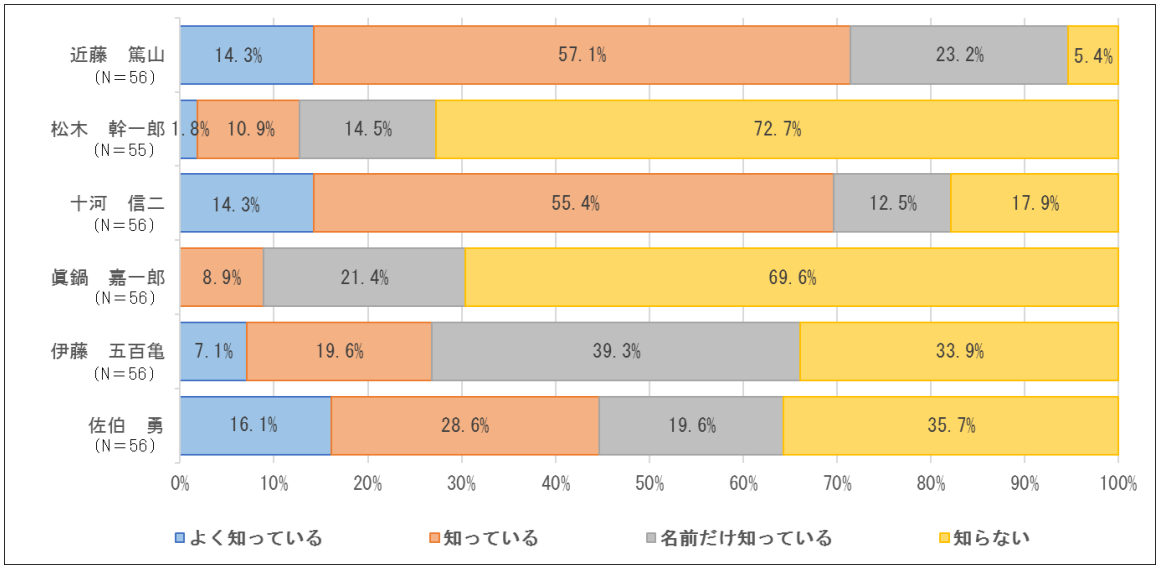
図表 6-29、6-30、6-31 によると、すべての地区を通じて「近藤篤山」「十河信二」に対する知識を有していると回答した比率が高くなりました。また、丹原・小松地区では「佐伯勇」「近藤篤山」と回答した比率が高くなるなど、所属する中学校の地区によって先人に対する知識の充実度に違いがみられました。



図表６－２９　ふるさとの先人に対する知識（西条地区）



図表６－３０　ふるさとの先人に対する知識（東予地区）



図表６－３１　ふるさとの先人に対する知識（丹原・小松地区）

7　参考資料（アンケート用紙）

西条市の教育に関するアンケート調査へのご協力のお願い
（中学校 教員用（校長先生、教頭先生も含みます））
～みなさまのご意見をお聞かせください～

西条市では、「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」の実現に向けて、国、県、関係団体等との連携のもと、豊かな心をはぐくむ教育・文化を実感できるまちづくりを進めています。

令和2年度は、西条市の教育行政における根本的な方針となる「西条市教育大綱」を改定する年度にあたるため、市民の皆さまのご意見を将来の西条市の教育行政の方向性に反映させることを目的に、本アンケート調査を実施することとしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年11月　　西条市長 玉井 敏久　　西条市教育長 伊藤 隆志

調 査 の 概 要

1 この調査用紙は、西条市立の中学校に勤務されている教員の方を対象（事務員除く）に配布しています。

2 この調査票は、個人を特定できないようになっており、調査終了後は速やかに廃棄いたします。
日ごろ、感じていることや思っていることをそのままご記入ください。

3 必ずご本人がご回答ください。

4 ご記入後、「調査票」を返信用の封筒に入れて、**12月9日(水曜日)までに各学校で集約していただき、以下の担当までご返送**ください。

5 ご不明な点などがありましたら、下記の担当へお問い合わせください。

※なお、本アンケートにつきましては、本市が策定する「第2期西条市総合計画」第5章「豊かな心を育む教育文化のまちづくり」の体系にもとづき実施いたしますが、そのうち人権・同和教育の内容については、令和元年度に別の市民アンケート調査を実施しているため、そちらのデータを活用することとしています。

〒793－8601
西条市明屋敷164番地
西条市経営戦略部政策企画課　（担当：大久保・石水）
TEL　：（0897）56-5151（内線2150）
E-mail　：　seisakukikaku@saijo-city.jp

西条市の教育に関するアンケート調査票

質問１　最初に、回答されるあなたご自身についておたずねします。

※ あてはまるものを１つ選び数字を○で囲んでください。

① あなたの性別を教えてください。

１　男性	２　女性	３　答えたくない

② あなたの年齢を教えてください。

１　２９歳以下	２　３０～３４歳	３　３５～３９歳	４　４０～４４歳
５　４５～４９歳	６　５０～５４歳	７　５５～５９歳	８　６０～６４歳
９　６５～６９歳	10　７０歳以上		

③ あなたが勤務されている中学校を教えてください。

１　西条東	２　西条西	３　西条南	４　西条北	５　東予東
６　東予西	７　河北	８　丹原東	９　丹原西	10　小松

質問２　学校教育についてあてはまるものを順番に選択してください。

※　第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

① あなたは中学校がどのようなところであるべきだと思いますか。

１　子どもが基礎的な学力を身に付けるところ
２　子どもが多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくところ
３　子どもが社会のルールやマナーを身に付けるところ
４　子どもが人間関係を学ぶところ
５　地域コミュニティの核となるところ
６　避難所や体育施設としての機能のあるところ
７　その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

② あなたは中学校で身に付けることが大切だと思う能力や態度は何だと思いますか。

1 英語を聞いたり話したりする力
2 環境やエネルギーを大切にする意識
3 健康や安全を自己管理する力
4 生き方や進路について考える力
5 教科の基礎学力
6 自ら学び、考え、主体的に行動する力
7 新しいものを生み出す創造力
8 表現力やコミュニケーション力
9 社会生活に必要な常識やマナー
10 社会に役立とうとする心や公共心
11 地域の伝統や文化を大切にして国や郷土を愛する心
12 体力や運動能力
13 人間関係を築く力
14 その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

③ ②で選択した能力や態度を育むため、今後力を入れるべき施策は何だと思いますか。

1 英語教育の推進
2 環境やエネルギーを大切にする教育の推進
3 体力向上や健康教育の推進
4 道徳教育の推進
5 食育の推進
6 いじめ・不登校対策の推進
7 こどもの貧困対策
8 教員の資質向上
9 ＩＣＴ教育の更なる推進（タブレット導入、プログラミング教育の推進など）
10 教員の事務量軽減による子どもと向き合う時間の確保
11 学校の施設や設備の充実
12 学校支援ボランティアなど家庭や地域が学校を支える仕組みの充実
13 学校の教育活動や運営状況に関する情報発信
14 その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

④ あなたは中学校の学習環境を考える上で何を重視するべきだと思いますか。

1 クラス内の仲間意識が生まれやすい
2 異学年間の交流が生まれやすい
3 学校の教員の人数や質が充実し児童一人ひとりに行き届いた教育が受けられる
4 集団の中でコミュニケーション能力を身に付けやすい
5 運動場や体育館、特別教室などが余裕を持って使える
6 地域の協力が得られやすく、地域の自然・文化・伝統を生かした教育が受けられる
7 クラス替えができる
8 クラス同士が切磋琢磨する環境をつくることができる
9 合唱、団体競技などの集団での学習や体験活動の機会が確保しやすい
10 男女比の偏りが生じにくい
11 その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

⑤　現在、西条市内の中学校には、様々な規模の学年・学級が存在していますが、あなたはどの規模が中学校の教育環境として最も望ましいと思いますか。

1　1学年1学級が望ましい
2　1学年2学級が望ましい
3　1学年3学級が望ましい
4　1学年4学級が望ましい
5　1学年5学級以上が望ましい

選択欄

質問3　図書館についてあてはまるものを順番に選択してください。

※　第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

⑥　あなたは、平均して1年間でどの程度、市内図書館を利用していますか。

1　ほぼ毎日　　2　週2～3回程度
3　週1回程度　　4　月2～3回程度
5　月1回程度　　6　半年に2～3回程度
7　年2～3回程度　　8　年1回程度
9　利用していない

選択欄

矢印の部分は⑥で1回でも市内の図書館を利用したことがあると回答した方にお聞きします。

⑦ あなたは、図書館の利用環境に満足されましたか。

1　満足した　　2　やや満足した
3　どちらとも思わない　　4　やや不満足だ
5　不満足だ

選択欄

⑧ あなたは、主にどちらの図書館を利用しましたか。

1　西条図書館　　2　東予図書館
3　丹原図書館　　4　小松温芳図書館
5　移動図書館

選択欄

⑨ あなたは、主に何を目的に図書館を利用しましたか。

1　本を借りる　　2　雑誌を借りる
3　CDやDVDを借りる　　4　館内で本を読む
5　館内で新聞や新刊雑誌を読む
6　予約やリクエスト、読書相談をする
7　趣味や娯楽、生活のための調べ物をする
8　勉強や仕事、研究のための調べ物をする
9　地域社会での活動に役立つ調べ物をする
10　特集コーナーや本の展示を見る
11　学習コーナーで勉強する
12　図書館で開催されたイベントに参加する
13　その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

ここまで

⑩　あなたは図書館に関連して、今後力を入れるべき点は何だと思いますか。

1　貸出および閲覧書籍の充実
2　雑誌・新聞の充実
3　図書館に行かなくてもパソコンやタブレットで貸出・閲覧可能な電子図書館の導入
4　館内や屋外広場を使用した様々なイベントの充実
5　館内での飲食を可能とする
6　館内での会話を可能とする
7　自分が住むまちの情報の充実
8　調べ物や読書などの相談ができる環境の充実
9　閲覧席の更なる充実
10　学習の場の更なる充実
11　その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

質問４　公民館についてあてはまるものを順番に選択してください。

※　第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

⑪　あなたは、平均して１年間でどの程度、あなたが勤務されている中学校区内の公民館を利用していますか。

1　ほぼ毎日　　2　週２～３回程度
3　週１回程度　　4　月２～３回程度
5　月１回程度　　6　半年に２～３回程度
7　年２～３回程度　　8　年１回程度
9　利用していない

選択欄

矢印の部分は⑪で１回でも公民館を利用したことがあると回答した方にお聞きします。

⑫　あなたは、公民館の利用環境に満足されましたか。

1　満足した　　2　やや満足した
3　どちらとも思わない　　4　やや不満足だ
5　不満足だ

選択欄

ここまで

⑬　あなたは公民館にどのような事業を期待しますか。以下の１から１２までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項　目 ＼ 期待度		期待する	やや期待する	どちらとも言えない	あまり期待しない	期待しない
（記入例）○○○の○○○○○○○事業		5	(4)	3	2	1
ここから下が質問です						
1	健康・スポーツに関する事業	5	4	3	2	1
2	趣味に関する事業	5	4	3	2	1
3	地域の防災に関する事業	5	4	3	2	1
4	家庭や子育てに関する事業	5	4	3	2	1
5	地域課題解決に関する事業	5	4	3	2	1
6	地域住民や団体間のネットワークづくりや強化に関する事業	5	4	3	2	1
7	子どもの安全・安心な居場所づくりや体験活動に関する事業（放課後子ども教室）	5	4	3	2	1
8	子どもの学習支援活動に関する事業（地域未来塾）	5	4	3	2	1
9	自然、社会体験ができる事業	5	4	3	2	1
10	青少年教育の推進に関する事業	5	4	3	2	1
11	地域の歴史・文化に関する事業	5	4	3	2	1
12	環境に関する事業	5	4	3	2	1

質問５　地域文化・歴史文化についてあてはまるものを順番に選択してください。

※　第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記載してください。

⑭　あなたは、どのジャンルの芸術文化に興味関心がありますか。

1　小説や詩などの文学
2　コンサートや合唱などの音楽
3　絵画や彫刻・陶芸などの美術
4　風景や人物などの写真
5　劇やミュージカルなどの演劇
6　バレエやダンスなどの舞踊
7　映画や漫画・アニメなどのメディア芸術
8　歌舞伎などの芸術芸能
9　落語や漫才などの芸能
10　茶道や書道などの生活文化
11　囲碁や将棋などの国民娯楽
12　興味関心が無い
13　その他（　　）

第一選択欄
第二選択欄

⑮　あなたは次のジャンルの芸術文化について、どの程度触れる機会（鑑賞や参加など）に恵まれていると感じますか。以下の１から１１までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

項　目 ＼ 充実度		恵まれている	やや恵まれている	どちらとも言えない	あまり恵まれていない	恵まれていない
1	小説や詩などの文学	5	4	3	2	1
2	コンサートや合唱などの音楽	5	4	3	2	1
3	絵画や彫刻・陶芸などの美術	5	4	3	2	1
4	風景や人物などの写真	5	4	3	2	1
5	劇やミュージカルなどの演劇	5	4	3	2	1
6	バレエやダンスなどの舞踊	5	4	3	2	1
7	映画や漫画・アニメなどのメディア芸術	5	4	3	2	1
8	歌舞伎などの芸術芸能	5	4	3	2	1
9	落語や漫才などの芸能	5	4	3	2	1
10	茶道や書道などの生活文化	5	4	3	2	1
11	囲碁や将棋などの国民娯楽	5	4	3	2	1

⑯ あなたはふるさとの歴史文化に誇りや愛着を有していますか。

1　有している　　2　やや有している
3　どちらとも思わない　　4　あまり有していない
5　有していない

選択欄

⑰ あなたはふるさとの先人の教えに学ぶ機会が充実していると感じますか。

1　充実していると感じる　　2　やや充実していると感じる
3　どちらとも思わない　　4　あまり充実していると感じない
5　充実していると感じない

選択欄

⑱ あなたは次のふるさとの先人について、どの程度の知識を有していますか。以下の1から6までのすべての項目について、該当するところに○を付けてください。

	項　目 ＼ 認知度	よく知っている	知っている	名前だけ知っている	知らない
1	近藤　篤山	4	3	2	1
2	松木　幹一郎	4	3	2	1
3	十河　信二	4	3	2	1
4	眞鍋　嘉一郎	4	3	2	1
5	伊藤　五百亀	4	3	2	1
6	佐伯　勇	4	3	2	1

アンケートは以上です。

ご協力ありがとうございました。